

（レウ）ト廿七民數紀六ノ一以
下傳道書五ノ三四參看

百九十九 許願ノ解停

許願ノ責任ノ解停トナルハ一許願ノ事ノ變改スルニ依リ二許願ノ廢止トナルニ依リ三放棄ニ依リ及ヒ他ニ替換スルニ依ル
一變改ハ許願ノ責任ヲ消滅ス此レ許願ヲ與ヘシ者ノ事情境遇ニ期セサル時運ノ來タルニ因リ之ヲ履行スルノ不合宜若クハ不做得若クハ極難タルヲ致ス時ナリ此レ勿論公許願ヲ云フニアラス許願ハ唯其事ノ許ス可キモノタルヲ罷ムル時ノミナラス德行ヲ行フノ最良方法タルヲ罷ムル時モ責任ナキ者トナル若シ妨ケアリテ許願ノ事ヲ做得サル者トナセハ許願ハ已ニ全ク責任タルノ力ヲ有セサルナリ然レモ若シタゞ一時ノ妨ケナレハ其ノ之ヲ除クノ後許願ヲ行ハサルヘカラス

例之ハ人尙シ幾月ノ間日々聖堂ノ諸奉事ニ詣ルノ許願ヲ與ヘタランコ
然モ大ニ薄弱有病トナレハ許願ハ是月ニ於テハ行フ能ハサル者トナ
ルト雖病復スレバ他月ニ於テ之ヲ行フヲ得ルノ類ノ如シ且許願ノ事
分カレテ一半ハ做得ス一半ハ做得レハ其ノ做得ル所ノ者ヲ行フベシ
許願ハ其ノ由テ起ル所ノ綱領ノ目的ト理由ノ既ニ存セサル時ハ則チ
責メ罷ム例之ハ人尙シ或者ノ貧ナルニ因リ之ニ年額ヲ分送スルノ許
約ヲ與ヘタラシニ其人富者トナリ若クハ貧者タルヲ罷ムル時ハ必シ
モ此額ヲ分送スルヲ要セサルノ類ナリ
二許願ノ責任ノ解停スル第二ノ原因ハ許願ヲ革除シ若クハ廢棄スル
ナリ許願ヲ革除シ若クハ廢棄スルノ權理ハ許願ノ目的タル本身ノ意志
及物件ニ關シテ其權ニ屬スルノ在下者ニ對シ在上者之ヲ有スルナリ

他人管轄ヲ受ル者ノ許願ハ重キヲ有セサルナリ彼ハ在上者ヲ以テ革
 職セラルベシ然レモ在下者許願ヲ與ヘテ罪ヲ獲サルナリ蓋シ其ノ之ヲ
 行フニ左ノ契夫以テスレハナリ曰ク在上者尙シ應允スレハ云々スベ
 ベシト例之ハ僕ノ許願ノ如キ若シ其主ノ本分ヲ行フニ妨ケアレハ主
 ハ全ク之ヲ廢除スルノ權理ヲ有セスト雖之ヲ革除スルヲ得ルナリ夫ト
 婦トハ其許願カ若シ夫婦互相ノ權理ニ忤レハ互相革除スルヲ得ベシ例
 之ハ至嚴ノ長齋ヲ持シ遠ク聖地ニ行カンヲ約スルノ類然レモ若シ夫
 婦兩人互相ノ合意ニ依リテ清潔ヲ守ルノ許願ヲ與フレハ各々必ス其
 許願ヲ行ハサルヘカラス

三許願ノ責任ノ解停スル第三ノ原因ハ教會牧者ノ合法ノ放釋ナリ此
 權ハ主イイススハリストス自ラ之ニ與ヘラル即チ主カ使徒ト凡ソ其職

ノ繼承者トニ信者ノ良心ヲ縛シ且釋クノ權ヲ與ヘシ者ナリ(マコトフ、イ
 八イオア、廿)然リ而シテ特重ノ理由ナクシテ許願ノ放釋ヲ請フヘカ
 ラス而シテ合法ノ理由アルナキノ放釋ハ唯罪過タルノミナラス何ノ
 重キモ何ノカモ有セスシテ神ノ認ムル所トナラサラントス請求シテ
 放釋ヲ與ヘラルベキ合法ノ理由ハ左ノ如シ

ア) 教會若クハ國家若クハ其許願ヲ爲セシ者ノ一家ノ善利ナリ
 カ) 許願ヲ履行スルノ一大困難ナリ即チ其之ヲ爲セシ者カ之ヲ行フニ
 ヨリ害多ク益少ナカラシテ意ハル、是ナリ實驗ニヨリテ知ル如ク其
 薄弱ノ故ニ依ルモ此ノ如ク又一トシテ其許願ヲ行フテ支柱スル所ノ
 者アラシテ其自ラ遭逢セントスル危難ノ故ニ依ルモ此ノ如シ

セ) 未成年若クハ合當ノ識量ナク若クハ有力者ノ俄カニ要シタル權威

ニヨリテ許願ヲ爲セル時ナリ

第二分類

自己ニ關係シ本分ヲ論ス

二百 自己ニ關係スル「ハリステアニン」ノ本分

神ヲ愛シ近者ヲ愛スルノ誡命ハ全律法ト預言者ト皆此ニ誡ニ繫ル(マテ
フイニ廿二)ト曰フト雖此ヲ以テ「ハリステアニン」ノ自己ニ關係スル本

分ヲ省カル、ニアラズ乃チ已レテ愛スルハ以テ近者ヲ愛スルヲ律ス
ルヲ得ルナリ曰ク爾ノ鄰ヲ愛スル已レノ如クヌ又曰ク故ニ爾ノ凡ソ
人ノ諸レテ爾ニ施サンテ欲スル所ノ者爾必ス是ノ如ク諸人ニ施セ
蓋シ律法ト預言者ト是ノ如キナリ(マテフイ
七ノ十二)故ニ神ト近者トニ關係
スルノ本分ヲ行ハシカ爲メ「ハリス」トスル命ニ遵ヒテ已レテ愛スヘ

キノ如何ヲ知ルハ「ハリス」ニアニンノ少キ得サル所ナリ加之自己ニ關
係スルノ本分ヲ行フアラスシテ神ト近者トニ關係スルノ本分ヲ行フ
コハ做得サルナリ且益無キナリ例之ハ福音經ニ依ルニ心ト生命ノ潔
無クシハ信ト祈禱トハ益ヲ作サス聖金口曰ク唯信ノミナラス如何ナ
ル奇蹟トイヘ此德行ナクシテ之ヲ造ス者ノ爲メニハ益アラズ(マテ
フイニ)
廿四 老成ナル功勞者ノ證ニ依ルニ己レノ靈魂ヲ救フノコト慮ラサル
者ハ近者ノ靈魂ヲ救フノコト慮ルヲモ爲サス之ト同ク近者ノ靈魂ヲ
救フノコト慮ミルモ若シ其ノ神ト自己トニ關係スルノ本分ヲ行ハザ
レハ人ニ益ヲ作サス此ノ如ク使徒パウエルハ近者ヲ愛スルノ一大業事
ナル福音ノ傳道ヲ行ヒツ、身自ラ用ニ中ラヌシテ已マシテ恐レテ自
ラ其軀ヲ衰弱セリ曰ク我レ乃チ己レノ軀ニ克テ之ヲシテ服セシム

恐クハ我レ己ニ他人ヲ教ヘテ自ラ樂テラレシ(コリント前書九ノ廿七)

救世主自ラ曰ク「唯凡ソ行ヒテ之ヲ教フル者ハ天國ニ在リテ必ス之ヲ

大ナリト謂ハシ(マコトフエイ五ノ十九)

二百二」自己ヲ愛ス

凡ソ我カ專心ト凡ソ我カ致志トハ以テ一時ノ幸福ヲ慮ルヲ禁セスト

雖モ永遠ノ救ヲ獲ルニ向ハサルヘカラス故ニ己レヲ愛スルハ聖ナル

正教會カ領會スル如ク主イエスハリストヌノ教ニ遵ヒテ永遠ノ救

ヲ得ルニ趨向スルナリ

此ノ愛ハ我等ノ債ナリ神ハ之カ爲メニ我等ヲ此行ニ導ヒキテ其ノ

獨生ノ子ヲ以テ之ニ賜ラニ至リ凡ソ之ヲ信スル者ヲシテ沈淪ヲ免レ

テ永生ヲ得セシムルヲ致ス(イオアン三ノ七六)聖書ハ數々我等ニ永遠ノ救ノ

ヲ慮ルヲ勸ム(マコトフエイ十六ノ廿六、ルカ十三ノ廿四、コリント前書七ノ廿四以下、ペートル後書一ノ十參看)今生一時

ハ幸福ヲ慮ルハ神ノ旨ニ背反セス外面ノ教育、身体ノ健康、外面ノ境遇

ニ至テモ神ト近者ニ關係スル本分ト密着ノ關係ヲ有スルナリ

己レヲ愛スルハ己レニ私スルノ心ヲ全ク疏絶セサルヘカラス宜ク神

ヲ萬物ノ上ニ愛シテ神ニ於テ神ノ爲メニ己レヲ愛スヘシ而シテ近者

ヲ愛スルハ全ク己レヲ愛スルヨリ少減セスシテ己ヲ愛スルヲハ捐テ

、近者ノ爲メニ犠牲ニスルヲ爲スベシ救世主曰ク「凡ソ我ニ從ハント

欲スル者ハ己レニ克ツヘシ(マルク八ノ三十四)「ハリストスヲアノン」ハ舊人ニ依リ

其靈魂ヲ憎ミ(ルカ十三ノ六)テ新人ニ依リ其靈魂ヲ愛シ己レニ唯イエスス

ハリスリスノ生命ノミヌランヲ要セサルヘカラス使徒曰ク「我レハリス

トト同ク十字架ヲ釘込然ラ我レ尙生クルハ既ニ我レニ非ルナリ乃

ナハリストトス我ニ在テ生クルナリ且今我レ身ニ在テ生クルハ我ヲ愛
 シテ我カ爲ソニ己レテ捨テシ者即チ神ノ子ヲ信スルニ山リテ生クル
 ナリガラテヤ二ノ廿一ト即チ是レハリストスハ凡ソ我等ヲ甦活シテ我等ニ透
 徹スルノ力ナリ思念ニ於テモ事爲ニ於テモ我レハ唯イエススハリス
 トスニ趨向スルノミ此ノ外一モ有スルアルナシ我レハ曾テ自己ノ想
 像ト自己ノ意向トニ隨ヒ一己ヲ以テ限テ爲セシカ今ハハリストス我
 カ生命ノ中心ヲ成スハリストスノ神ハ凡ソ我カ思念ヲ以テスル者ト
 事爲ヲ以テスル者トニ嘘シテ之ヲシテ活潑ナラシム蓋シ我カ有罪ノ
 我レハ復タ活セスシテ獨リハリストスノミ我ノ中ニ活ス聖使徒パウロ
 ル又他篇ニ於テ言ヘリハリストスハ我カ生命ナリトコロス三
ノ四
掌院アガフンゲル聖使徒パウロガラテヤ
人ニ達セル書ノ解説參看

斯ル「ハリストテアニン」カハリストスノ爲メニ自ヲ己レテ愛スルノ愛ハ
 己レニ關スル本分ノ根本ナルナリ

二百二「ハリストテアニン」ノ自己ニ關スル本分ノ分間

「ハリストテアニン」ノ己レニ關係スル本分ハ普通ト一己トアリ普通ナル
 者ハ一己レテ知ルナリ二人性ノ位ヲ重ニスルナリ三謙遜ナリ四克己
 ナリ五忍耐ナリ六力ヲ用フルノ會ナルナリ七智慧ナリ而シテ其ノ
 靈形及外面ノ幸福ニ關スル「ハリストテアニン」ノ本分ハ此レ一己ナ
 リ

第一章

「ハリストテアニン」ノ自己ニ關スル普通本分ヲ論ス

二百三「己レテ知ルノ緊要

己レヲ知ルハ神ト近者トニ關係スル本分ヲ理ムルカ爲メ且之ヲ充メ
 スカ爲メニ緊要ナルナリ使徒パウエル曰ク爾自ラ省ミルヘシ果シテ信
 ニ居ルヤ否ヤ爾々自ラ試ムヘシ（コリファン後）書十三ノ五（既ニ己レノ罪ヲ覺知セシ
 者ハ己レノ祈禱ヲ以テ死者ヲ復活スル者ヨリ勝サリ自ラ己レヲ察視
 スルヲ賜ハリシ者ハ天使ヲ見ルヲ賜ハリシ者ニ過ク（シリヤノイサ
 一ノ二百）（楷梯著者曰ク己レヲ知ル者ハ究ニ欺詐ノ事ニ入ラス己レニ
 勝ナル者ヲ試ミス（訓言廿五）

方法

二百四 己レヲ知ルニツキ注意スヘキ事項及是ノ知識ヲ得ルノ
 我カ各人ハ總シテ人性ノ固有及情況ヲモ特ニ其本身ノ情況ヲモ知ラ
 サルヘカラス故ニ己レヲ知ルハ普通ト一己トニ分タルヘシ

我等カ神ニ造成セラレシ所以ノ主義ヲ真正ニ曉識シ并ニ人性ノ損壞
 トイイススハリストスニ頼リテ其ノ損壞ヲ復立スルヲ知ルハ特ニ人
 性ヲ曉識スルノ普通ナルモノニ屬ス斯ル曉識ヲ得ンカ爲メニ最真正
 ナル方法ハ聖書ヲ學習スルニアリ蓋シ聖書ハ預定及沈淪及人ノ救贖
 及靈魂ノ不死及總シテ凡ソ人ノ人タル所以ヲ全ク知ルコトノ我等ノ爲
 メニ要用ナル者ヲ明示スレハナリ又聖神父ノ書ノ神ノ言ト神ノ恩寵
 ノ光ニヨリ恒ニ自ラ注守シテ唯其ノ自ラ試ミタル所ヲ著ハセルモノ
 ナク讀看スルハ大ニ人性ヲ曉識スルニ助ケルナリ

總テ人性ヲ曉識スルノ外各人自ラ察視スル所ノ良善ノ心地性情ハ之
 ナ扶植シ之ヲ伸長シテ其惡ナルハ壓潰シ且釐革センカ爲メニ其本身
 ノ性質、心地、慣習、在弱ヲ識ラシテ要ス人ノ爲メニ其ノ本身ノ性質及

靈魂ノ情狀ヲ認識スルヲ得ルノ方法トナルヘキモノハ左ノ如シ一各人自己ノ思想、感覺、希望ヲ子細ニ觀察シテ其源由ニ透徹セサルヘカラス即チ我ガ靈魂ヲ特ニ占有スルハ果シテ何ノ事物ナルカ又我等ヲシテ特ニ憂愁セシメ若シハ歡喜セシムルハ果シテ何物ナルカ我ガ靈魂ノ安然ナルヲ我ガ生命ニ於ルノ或事物又ハ或境遇ノ爲メニ攪擾セラル、時我等ハ如何ナルカニ注意スベシ二他人ノ爲メニ正ク且細ニ觀察スルハ已レテ謙ルヲノ緊要ノ助ケト爲ルナリ蓋シ人性ハ其實体ニ於テ我等衆人ト一樣ナレハナリ故ニ他人ノ爲メニ深ク觀察スル者ハ自己ヲ謙ルナリ三善ク已レテ知ラシ爲メニハ他人ノ我ヲ謙スルノ我レニ好意ナルト不好意思ナルトニ論ナク之ヲ察視スルヲ有益ナリ階梯著者曰ク蓋シ主ハ其ノ先見ニ依リ何人モ己レノ疥癬ヲ見ルヤ人ニ見ル如クナ

訓言廿五ノ五十三葉

能ハサルヲ斷定セリ
 且我輩ハ自ラ或ハ自愛ノ我レニ
 隠ル^{シカトサカシ}アリテ我ガ瑕瑾ヲ恕スル^{ユウジン}ニ依リ若シハ自己ノ情況ニ不注意ナルニ依リテ人ノ爲メニ觀察セラル、所ノ瑕瑾ヲ全ク已レヨ見サルヲ數々ナリ四此ノ如ク己レテ知ルヲノ重難ナルニ於テ其進益ヲ見ント欲セハ爲メニ我等ハ神ノ助ケト恩寵トヲ願ヒ預言者ト共ニ呼ソテ神ヲ我ヲ察シテ我ガ心ヲ知ラシメヨ我ヲ試ミテ我ガ意ヲ知ラシメヨ我レニ何ノ邪途アルヲ見セシメ乃チ我ヲ永遠ノ途ニ導カン^{詩篇百二十九}ト
 二百五 己レテ眞ニ敬重スルヲ及謙遜
 二百六 人ノ高貴

人性ノ高貴ナハハ聖書ニ特ニ分明ニカメテ之ヲ開示シ之ヲ證説ス一
 聖書ニ言ヘキ人ハ神ノ像ト肖トニヨリテ造クラレ天ハ人ノ永遠ノ居
 住トシニ擬セラレタリト二又言ヘリ永遠ノ言ハ位ノ合同ニ人性ヲ受
 ケテ贖罪セラレシ人ハ神ノ子タリイイスハリストスノ同嗣タリ其
 敬タリ聖神ノ殿タルヲ爲スト
コリント前書六ノ十五十
 九廿ローマ八ノ十六十八 三又言ヘリ來世ニ
 於テ我等ハ永遠ノ福樂ト神ニ親ク體合スルヲ賜ハルト
コリント前書十三ノ十
 ニイオアン前書三ノ二
 二百七 謙遜ノ要

謙遜ハハハズテアニシタル者已レノ全ク神ニ係属スルト已レノ神ノ
 前ニ有罪ナルヲ活潑明々ニ識認シ己レヲ以テ衆人ヨリモ劣視スレト
 日常諸徳ニ益進スルヲ努力シテ若シ人ヨリ如何ナル藐視、凌辱及欺
 侮ヲ受クルアルモ當然ナル得ヘキ者トスルノ心構ナリ階梯著者曰

多「謙志ハ我等ヲ己レノ益進ヲ見セシメサル神ノ面帕ナリ謙志ハ
 如何ナル盜モ窺フコト能ハサル自卑ノ無底深潭ナリ人多ク己レヲ有罪
 者ト名ウケテ實ニ是ノ如ク思惟スレハ其心ハ汚辱ヲ以テ試ミラルヘ
 訓言廿五ノ十六卅三葉

二百八 謙遜ノ緊要

謙遜ノ緊要ナルハ我カ有ル所ノ天然ノ諸徳ト恩寵ノ諸善トハ凡ソ
 ノ善施善錫ヲ降遺スル主ノ賜ナルコトヨリテ顯ハレ故ニ我等ハ或善ト
 或完全トヲ以テ我カ私有ノ如クニ自夸スルノ權理ヲ絶エテ全ク有セ
 サルナリ翻ツテ我カ神ニ充分ノ係属ハ自ラ我等ヲシテ大ニ謙遜ナラ
 シメサルヘカラス使徒パウロ曰ク爾等何ノ未タ受ケザル者アルカ爾
 等若シ之ヲ受ケハ胡爲レシ未タ受ケサル者ノ如ク誇ルヤコリント前書四ノ

七)カ我等各人ハ若シ謹慎公平ニ其行チ省キハ我等ヲシテ神ノ前ニ有
 罪者タラシムル違逆ノ行爲チ多ク看出サントス使徒イアコフ曰ク我
 カ各人ハ數々愆^{トク}コ^{トク}陷ル^{トク}(三ノ二)他ノ使徒亦同ク之ヲ證シテ曰ク若シ
 罪ナシト言ハ、自ラ欺キテ異理ハ我等ニ在ラス(イオアン一)神ノ前
 ニ罪ト罪狀トチ明認スルハ人ヲシテ謙々ナラシムルナリ神ノ眞僕ハ
 神ニ近就スル程ハ愈々已レテ見テ有罪ナリトス此ノ如クアウラム
 ハ主ヲ見ル時已レテ塵灰ト名ツケタリ(創世記十)預言者イサイヤ(五ノ
 曰ク禍ナル哉我レヤ云々神ノ言ハ頻リニ我等ニ「ハリステアコン」ノ一
 大德行タル謙遜チ勸諭ス唱詩者曰ク神ノ祭ハ傷靈ナリ心傷^{イタ}ンテ悔ユ
 ル者神ヤ爾チ必ス之ヲ忽ニセス(五十一ノ)眞福ハ唯謙遜ナル者ノ爲
 メニ備ヘラレテ永苦ハ驕傲ノ人ニ定メラル(イサイヤ五十七ノ十五
 箴言廿九ノ二十三カカ

一ノ五十一ノ十八ノ十四ベト)神ノ子ノ自ラ其榮コ入りシハ他道ア
 ル前書五ノ六イアコフ四ノ十)神ノ子ノ自ラ其榮コ入りシハ他道ア
 ルニアラス即チ謙遜ノ道ヲ以テス(フリリア二)聖神父等ハ謙遜ノ徳ヲ認
 メテ第一ノ徳トス此ノ如クシリヤノイサーク曰ク謙遜ハ諸奧義ノ充
 滿諸徳ノ貯所ナリ謙徳ヲ得タル者ハ福ナリ蓋シ彼レハ常ニイイススノ
 懐チ接吻シテ之ヲ抱カントス(ハリステア二)ノ讀本十四)功勞モ他
 ノ如何ナル苦行モ尙シ之ト共ニ眞正ノ謙遜アラサレハ我等チ救ハス
 (聖神父文集二百)階梯著者曰ク「謙遜ハ進入者チ導ク天國ノ門ナリ
 九十三葉)訓言ノ五ノ三十葉)主ハ謙遜ノ靈ニ止マル(エヂスノ主教フエチドル救
 讀本十七ノ百)謙遜ハ恩寵ノ先導ニシテ驕傲ハ罰ノ先驅ナリ謙遜ハ其
 ノ大ナルコト魔鬼能ク諸ノ德行ノ情形チ假ルチ得レハ謙遜ニ至リテハ
 其ノ如何ナルチモ且知ル能ハサルコト「謙遜ノ寶石ハ萬徳ヨリ貴シ而

シテ其之ニ居ル者ハ唯神ヨリ免罪ヲ得ルノミナラス選人ト共ニ天堂
ニ入ラントス「神使及諸聖人及神ノ天軍ハ此德行ニ爭戰ヲ爲シテ之
ヲ守リ與義ハ謙遜ナル者ニ顯ハサル、ナリ謙遜ハ神性ノ外袍ナリ」
（シリヤノイサーク^シハリ）「謙遜ナル者ハ究ニ^ツ跌落セサルナリ其レ然リ自
ステアニン^アノ讀本」
「謙遜ナル者ハ何處ニ跌落スルヲ得ンヤ」^{マカリイ訓言}七

二百九 謙遜ヲ得ルノ方法

謙遜ヲ得ルノ方法ハ左ノ如シア「至テ完全ナル神ノ本体ノ^ト創造者
ノ既ニ人ニ^ニ灌注シ今モ灌注セラル、天然ノ賜ノ^トトチ日ニ常ニ回想
スルナリガ^人ノ神ニ係屬スル^ト」^{行實十七}ト人性ノ全ク壞傷シテ善ヲ
行フノ力無キ^ト」^{詩篇五十五ノ七エフェス二ノ一}ト人ノ新生命ニ更生セ
ラズ、聖神恩寵ノ賜ノ緊要ナル^トトチ謹慎省察スルナリ<sup>エフェス一ノ
十八十九二</sup>

（十）^サ主神ハ我等ヲ救贖スルカ爲メニ其子ヲ死ニ付スルト我等カ數々
之ヲ疎斥スルニモ係ハラズ其恩寵ヲ降遣スルヲ止メサル^トヲ熟慮ス
ルナリ^{詩篇八ノ五ローマ五ノ六八}」^タ凡ソ德行ハ謙遜ニ^根サスト雖然
レ^人ハ如何シテモ主ノ誦命ヲ確行スル者ノ如ク謙遜ヲ得ル能ハス
ル^トフ^エイ^六ノ^三詩篇^四十^ノ九^{聖ナル諸神父ハ謙遜ノ爲メニ多クノ方}
法ヲ指示ス此々ニ其數端ヲ舉ケンニ心ノ順良ナルナリ及思直ナリ無
欲ナリ^輜晦^避世ナリ其智ヲ埋没スルナリ^醇良ノ^交接ナリ^週濟ノ^希望
ナリ其貴ヲ宣示セサルナリ如何ナル果敢ヲモ已レニ^斷絶シ^多言ヲ^躲
避スルナリ然レ^トシテ^赤貧洗^フカ^如ク^シテ^ハリ^スト^スノ^爲メニ

養ヲ請フ者ノ如ク^靈魂ヲ謙セシムル能ハサルナリ<sup>階梯著者訓言廿
五又シリヤノ</sup>
「^ハリ^ステ^アニ^ン」ノ讀本^{十五}ノ^二百^廿、^一大^マカ^リイ^ハリ^ステ^ア
ニ^ン」ノ讀本^四ノ^十七、^十八、^十九^勿ド^ロフ^エイ^ハリ^ステ^アニ^ン」ノ讀本^卅八

ノ二百八十三

二百十 謙遜ニ反對スル罪即チ驕傲

驕傲若クハ一己ノ完全ヲ喜ヒ已レテ貴ウシテ人ヨリモ且衆人ヨリモ勝レリトスルハ謙遜ト相反ス驕傲ホド神ニ悖ルノ邪惡アルナシ

七 蓋シ以己爲神者チ這裏ニ藏スレハナリ故ニ彼レハ罪ノ起初ナリ即チ本源ナリ

八 任意及頑皮ナリ人チ藐スルナリ人チ議スルチ好ムナリ伎心ナリ

九 猜忌及怨恨ナリ偽善ナリ神ニ對シテ忘恩負義ナリ上司ニ不順ナル

十 終ニ驕傲ハ諸ノ異端ノ母タルナリ

二百十一 捨己

捨己ハ凡ソ我ニ承奉合意ナリト覺ユル者チ神ノ爲メニ藐シズル堅固

不拔ノ心志若クハ或ル神旨ニ逆ラフ者チ爲サソヨリハ寧ニ我ニ合意貴珍

ナリトスル者チ喪ハントノ性情ナリ聖金口救世主ノ捨己ノ言ヲ解説

シテ曰クハリストスハ爾ノ其身チ愛惜セサランチ欲ス爾チ扑ツカ將

タ窘逐スルカ將タ焦爛スルカ若クハ其他爾ト作爲スル所アルモ爾チ

ハ己レチ愛惜スル勿レ蓋シ此レ即チ己レヲ愛惜スルナリ此ノ如ク父

モ其子チ嚴師ニ托レテ之チ饒恕セサランチ請フハ即チ子チ愛惜スル

ナリハリストスモ此ノ如シ且ハリストスハ己レヲ愛惜スル勿レト曰

ハスシテ更ニ強ク己レチ捨ツベシ

共コスル者ハ一モ之チ有セス乃チ已レテ危險ト功勞トニ擬シテ人カ

他人ノ事チ忍耐スルカ如クニ之チ忍耐スヘシトナリ

二百十二 捨己ノ緊要

マトフェイ編音 注解五十五

捨己ノ緊要ナルハ救世主ノ若シ我ニ從ハント欲スル者ハ則當コ巴レ
 子捨ツベシ(マトフエイ十六ノ廿四マルク)トノ言ニヨリテ明見ス自個一
 己ヲ詭智イハレノチニニ繫カレシ者ハ此繫ヲ解クナクシハハリストスニ從フ能ハ
 スニ巴ノ意ノ欲スル所ヲ棄テサル者ハ亦ハリストスノ徒トナル能ハ
 ス蓋シ其ノ從フハ一己ノ意ニ循ハス率先者ノ意ニ循フテ途ヲ擇フニ
 在レハナリ故ニ父母、朋友、夫婦、子女ヲ愛スル心情ノ繫ヲ神ノ爲メニ礙
 牲トスルヲ欲セサル者ハ主ノ言ノ如クイイススハリストスノ眞徒ヌ
 ル能ハサルナリ曰ク「父母ヲ愛スル」我ニ過クル者ハ我レニ宜シカラ
 ス子女ヲ愛スル「我レニ過タル者ハ我レニ宜シカラス」(マトフエイ十
 十ノ三十七)此
 世ノ生命ニ偏スル者ノハリストスニ從フ「ヲ遂ニ成ス能ハサルハ使
 徒於テ之ヲ見ル即チ既ニハリストヲノ教ヲ常ニ聽キ主ノ行」ヲ所ノ

如此ノ多々ナル奇蹟ヲ親シ見親シ證シテ自ラモハリストスノ名ニヨ
 リテ多クノ奇蹟ヲ行ヒシモ未ダ聖神ノ力ヲ以テ此世ノ偏情ヲ潔ウセ
 サル者ノ一朝危險ト會スルニ及ヒハリストスニ從フヲ轉シテ逃走セ
 ル是ナリ此世ノ幸福ニ偏スル者ノハリストスニ從フ能ハサル「ハ福
 音經ニ記スルノ少年其例ヲ見ハス即チ自ラ永生ノ途ニ入ランヲ欲シ
 テハリストスモ自ラ之ヲ召シテ己レニ從ハシメントスト雖モ從ハサ
 リキ」(巨イニ富メルカ故ニ甚マ憂ヘルカ十八ノ二十三)之ヲ離ル、ヲ欲セサリキ
 終ニ肉身ト其ノ安飽ニ偏スル者ハハリストスニ從フ能ハサル「明白
 ナリ蓋シ汚穢ノ欲情ト貪慾トニ沈没スレハナリ之ヲ簡説スレハハリ
 ストスノ忠實眞正ノ徒ヲシント欲スル者ハ巴レニ有スル者ト愛好ス
 ル者トヲ臧ク棄テサルハカラス此レ使用ニ於テ言フニアラス乃チ情

ニ於テ言フナリ(モスクワミトロポリト「ラブレト」教訓第一百廿九一千八百四十八年發行)

二百十三 捨己ノ緣由

「ハリスデアコン」タル者自ラ奮勉シテ捨己ヲ爲サシカ爲メニ記慮スヘキ者左ノ如シ一「已」レノ爲メニ自ラ賣トスル所ノ者ヲ神ノ爲メニ犠牲トスル者ハ小善ヲ願ハスシテ寧ろ大善ヲ願ヒ假テ愛セスシテ眞ヲ愛シテ靈魂永遠ノ救ヲ喪ハサランカ爲メニ一時ノ幸福ヲ棄ツル是レナリ曰ク「凡ソ其生命ヲ救ハント欲スル者ハ必ス之ヲ喪フ唯我カ爲メニシテ生命ヲ喪フ者ハ必ス之ヲ救ハン」(ルカ九ノ廿四)「二人若シ世界ノ幸福ヲ盡ク領有スルモ生命ヲ永遠ニ喪ハ、人ニ何ノ益ヲモ來サ、ルヲ念ハサルヘカラス曰ク「人若シ全地ヲ獲テ其生命ヲ喪ハ、何ノ益アラランヤ」(マテイ十六ノ二十六)「三夫レ幸福ハ主ノ手中ニ在ルモノニシテ永遠ノ救ヲ失フ

ニ頼リ其ノ之ヲ保守セント欲スルノ時ニ當リ神ノ公義ニ依リテ或ハ之ヲ我等ヨリ奪ヒ去ラル、チ人ニ於テ神ヲ欺侮シテ之ヲ止メント欲スルハ至愚ト謂フヘシ(マテイ十ノ廿八十六ノ二十五)「四神ノ唯一ノ愛ニ依リ我等ヲ救フカ爲メニ其獨一子ヲ死ニ付セルト又其ノ救ノ歸スル所ニシテ我レヨリ献祭セサルヘカラサルノ神ノ爲メニ一時ノ幸福ヲ喪フチ欲セサルハ人ニ於テ非義ト謂フベシ(イオアン三ノ十六ノ七八九)「五我等尙シ主ノ爲メニ或ル忍耐スヘキノ事ヲ賜ハルアラハ(行實五ノ四十一)「我等ハ此處ニ在テ凡ソ主ノ爲メニ難ヲ受クルモ主ハ爲メニ來生ニ於テ我等ニ鴻恩ヲ報ユルヲ信シテ(マテイ八ノ廿八ノ九)「已レノ爲メニ大幸ト爲サルヘカラス(ローマ八ノ十七十八)

二百十四 忍耐

神カ降遣スル所ノ禍害ハ十字架ト名ツケラハ十字架ヲ負フ者ハ其ノ
 心ニ辛酸ト患難トヲ感セサル能ハサルナリ然リ而シテ凡ソノ患難ハ
 期スル所ノ真正ナル幸福ヨリ得來レル歡喜ヲ以テ消滅セラルヘキカ
 故ニ十字架ヨリ生シ來ル所ノ愴惻モ神ヨリ期スル所ノ諸ノ幸福ヲ希
 望スルニ頼テ之ヲ滅除スルヲ得ベク又滅除セサルヘカラス確實ニ神ヲ
 希望スルニヨリテ患難禍害ヲ受ケテ怨ミキルハ忍耐ト名ツケラル、ナ
 リ故チ以テ「ハリステアノン」ハ神ノ己レニ任シタル十字架ハ忍耐シテ
 負ハサルヘカラサルナリ（箴言三ノ十一ローマ五ノ三ペートル後書）
 一ノ六エウレイ十ノ三十六イアコフ五ノ七
 二百十五「ハリステアノン」ノ忍耐ノ性質
 忍耐チシテ人ノ救濟ニ資スルモノタラシメンコハ一人ハ神カ患難ヲ以
 テ己レチ罪スルノ何故ナルヲ慎察セサルヘカラス人尙シ其良心チ

試ミ若クハ其禍害ノ外界ノ原因ニ注意スレハ以テ此ヲ識ルチ得ベ
 シ（イオウ廿七ノ六コロンフ）
 後書七ノ二四五

二禍害チ感觸スルト此ノ感觸ヨリ生スルノ憂愁トハ全ク之チ已レニ
 絶滅スヘカラス蓋シ人性ハ惡チ感セサル能ハス既ニ之チ感スレハ憂
 愁セサル能ハサルニ因ル故ニ神ハ之レカ爲メニ人ニ禍害患難チ遣ハ
 スナリ而ルチ患難チ感スルナクソハ忍耐モアラサントス蓋シ言ヘ
 ル有リ患難ハ忍耐チ生スト（ローマ五ノ三）故ニイオウモ其ノ已レノ不幸チ
 認メテ其衣チ裂キ其頭髮チ擘碎シテ地ニ顛仆シタリト雖モ無罪ト
 名ツケラル、ナリ（イオウ一ノ二）聖書ノ證ニ依ルニ唯頑頂ノ罪人ハ神
 ヨリ禍害チ遣ハサル、ノ時ニ於テモ憂愁チ感セサルナリ曰ク「主ヤ爾
 チ會テ之チ撻テ凡彼レ尙憂患セス爾チ之チ衰敗スレ凡彼レ肯テ責チ

受ケス彼レ其面ヲ堅ウスル丁石ヨリモ踰リ彼レハ肯テ復歸セス(イイレミヤ)

三五ノ

三三ハリステアニンハ神ヲ望ムヲ以テ其憂愁ヲ節ニスベシ(イオウ二ノ十詩篇四十)

二ノ十二四(イエゼキリ)此ノ如キ禍害ハ得ヘキニアラストシ(十八ノ二)此ノ如キ禍

害ヲ忍受スルハ寧ロ生レサルノ勝レルニ如カズトシ(イオウ三ノ四及其他)之カ

爲メニ何ノ安慰モアラストスル無智ノ念慮ハ百方自ラ除去セサルヘ

ガラズハリステアニンハ禍害ヲ除クカ爲メニ非理ノ方法ヲ尋ネ且用

ヒ并ニ其禍害ヲ及ホセシ者ニ向ツテ恨惡ヲ懷クヘカラス(サムイル後書十六ノ十)

然シテ神ノ公義ヲ信認シ禍害ノ間ニ在リテモ主神ヲ讚榮シテ己レニ

アルノ十字架ヲ不懼ニシテ負ハンカ爲メニ少ク可ラサルノ力ヲ神ニ

願フベシ(サムイル前書三ノ十八イオウ一ノ二十一ノ十四)

四)忍耐ノ本分ハ禍害ヲ減少シ若クハ之ヲ消滅センカ爲メニ正シキ方略ヲ用フルヲ妨ケサルナリ神ノ旨ナクンハ一モ禍害ス可ラサルニヨリテ患難ヲ脱センコトヲ先ツ神ニ願ハサルヘカラス(詩篇廿五ノ十六五十五ノ十五)

二百十六) 忍耐ノ各等級

教會ノ諸父師ハ忍耐ヲ三等ニ區別ス初等ハ不懼ニシテ患難ヲ蒙フルナリ二ハ神ヲ愛スルニヨリテ此ヲ願フナリ三ハ神ヲ愛スルニ依リ其間ニアリテ欣喜スルナリハリステアニンハ初等ニ止マルヘカラス初ヨリ二ニヨリ三ニ躋ルベシ初等ハイオウノ忍耐ニ於テ看ルヲ得ヘシ(イウ一)二ハ致命者中或ハ之有ル受苦ノ願ニ於テ看ルヘク三ハ使徒ノ喜(イウ二)ヒニ於テ看ルヘシ即チ彼等ハハリストスノ名ノ爲メニ凌辱ヲ受ルニ

堪フルヲ爲セシ時此喜ヒヲ成セリ(行實五ノ四十一)使徒ハリエルハ此高處ヲ
 得タリ則チ日シ患難ニモ欣喜ス(ローマ五ノ三)ト則チ彼レハイイススハリ
 ストスナ愛スルニヨリ受クル所ノ懦弱ト苦難トヲ以テ誇レリ(コリ
 後書十一章)又彼レハ其牢獄ニ幽セラレシヲ言ヒテ「フィリッパ人ニ主イ
 至十二章」(イハキコトナシキ)ニススハリストスノ爲メニ其ノ拘幽ニ在ルヲ共ニ喜ハンコトヲ勸ム(フィ
 プ二ノ)彼レ又書シテ多難ノ試中ニ在テ欣喜ヲ充盈スルマゲトコヤ
 教會ニ恩寵ヲ賜與セラレタルヲ言ヘリ(コリンフ後
 書八ノ一二)
 二百十七 忍耐ノ緣由

左ノコトヲ思念スルハ人ヲ忍耐ニ固ムルヲ致サントスア「神ハ我等ヲ愛
 スルニヨリテ其十字架ヲ遣ハス(エウレイ十
 二ノ六)蓋レ此レ主ノ門徒ト眞正
 ナル」ハリスデアニンノ全般ノ命運ナリ(マトフエイ十ノ卅八
 イオアン十五ノ廿)カ「神ニ休

合スルト此世ノ善福ノ一モ共ニ比スルコト足ルナキ永遠ノ福トハ忍耐
 ニ頼テ之ヲ獲ルナリ(ローマ八
 一ノ一)サ「禍害ハ我等ヲ滅シテ永遠ニ至ル能ハ
 ス(コリンフ後
 書四ノ十七)而シテ無量ノ仁慈ナル神ハ我等ニ禍害ヲ遣ハシテ我等
 ノ力ニ過クル能ハス(コリンフ前書
 十ノ十三)」カ「神ノ諸聖人ハ忍耐ヲ以テ天國
 ニ入り我等ノ主イイススハリストス即チ罪ヲ造ラス神ノ獨一子ナル
 者モ自ラ忍耐ヲ以テ其榮ニ入りキ(ルカ廿四ノ廿六
 十二ノ三)」カ「エウレイ」ナ「ハリ
 大デアニン」ノ爲メニハ有益ニアラサルノ不幸アル莫シ蓋シ何ノ不幸
 ナ論セス此ニ頼リテ神ハ我等ニ敬虔ノ徳ヲ務メ且之ヲ己レニ固ムル
 ノ便宜ヲ與ヒ此ニ頼リテ内部ノ心情ヲ試煉シ呈露シ肉身ノ引誘ヲ控
 禦シ許多ノ誘惑ヲ避除スルヲ得ルナリ不幸ト患難トニ頼リ欣喜悦樂
 ヲ世ニ求メスシテ乃チ獨一ノ神ニ求ムルヲ感奮シ死ヲ望ミ若クハ畏

此ヲ求之ニ迎フルヲ爲シテ來世幸福ヲ希望ス我等ニ確立シ且成長
 地ヲ求メテ^(一〇一五)三至五ノ^(一〇一五)ニ
 二百十八) 我等ノ力ヲ合當ニ使用スルハ^(一〇一五)一定ノ職業若クハ地位ノ
 選擇トカ勤苦トニ於テ願ハル^(一〇一五)
 二百十九) 一定ノ地位若クハ職業ヲ選擇スルノ本分
 聖書ハ人民社會ヲ以テ人間ノ体ト等比ス^(一〇一五)前^(一〇一五)我等ノ体ハ
 多肢ヲ有シテ創造者ヨリ每肢ニ其ノ位置ヲ賦セラレシ如ク此ノ如ク
 我等モ社會ニ於テ一定ノ位置ヲ占メ其ノ位置ニ於テ我カ本分ヲ盡サ
 ンルヘカテ天神ハ此目的ノ爲メニ人ニ力量才能ヲ分賦シテ我カ中何
 人モ一切ヲ作爲スル能ハサズシムルヲ爲ス人ハ皆一切ノ善ニ助キテ

然レモ我等ハ自由ニシテ一切ノ善ニ勤ムルノ位置ト
 方法上ニ選擇スルヲ權任セラレタリ唯各人ハ其勞スル所ノ位置ハ
 他ノ位置ニ比スルニ更ニ有益ニシテ且更ニ必要ナルモノヲ占ムヘキ
 又ミ次テ神ノ照鑑ハ至微ノ物トイヘシ盡ク之ニ其時ト其地トヲ定メ
 テ我カ天父ノ旨ヲクシムルニ鳥雀モ限ナク我カ頭髮モ盡ク數ヘラルヘ
 キ^(一〇一五)廿九以下) 我カ各人ニハ其天國ノ爲メニ勞セサルヘ
 カテサル業事ノ一定ノ場所ヲ賦セラレタルヲ^(一〇一五)斯ル自ラ悟認セラル
 神ノ旨若クハ且神ヲ以テ我ニ賦與セラレシ該位置ハ召命ト名ツケ
 ラル^(一〇一五)故ニ我等カ更ニ勤メテ其召命ヲ誦知セントスルハ我等ノ第
 一ノ本分ニ屬ス蓋シ我等カ一時ノ命運若クハ永遠ノ命運ニ至テモ毎
 日此以一定ノ位置ニ選擇ニ係レハナリモ我カ尙有スル所ハ神ノ照

鑑ヲ以テ我等ニ賦界セシメレシ位置ニヌラスノハ豈神ノ我等ニ責任セ
 ラレシ本分ヲ容易ニ行フヲ得シヤハ一定ノ位置ヲ選擇セサル間ハ
 尙ホ遊移兩可ト^{トモツカズ}嫌疑躊躇ノ間ニ在リ位置ヲ擇フコ及ンテ始メテ人ノ
 カハ一定ノ針路ヲ定ムルナリ設シ人各々其召命ニ從ハ、他ノ爲メコ
 モ有益ナルコト已レノ爲メニ有益ナルヨリ豈尙鮮小ナリトセンヤ蓋シ
 若シ各々神ノ召命ニ注意セスシテ盲昧ナル天性ノ引誘コノミ從ハン
 トセハ人間社會ノ情况ハ如何ナラントス故ニ唯其彼レニ於テスルハ
 此レニ於テスルヨリモ更ニ己レノ爲メニ其人欲ヲ充タシメ易カラシ
 カ爲メニ卒爾ニ生命一定ノ位置ヲ擇フ者ハ愆尤ナル可シ

二百廿一 位置ノ選擇ヨツキ召命

召命ハ或ハ通常ナルアリ或ハ非常ナルアリ即チ神ハ或ハ通常ノ方法

ヲ以テ或ハ非常ノ奇蹟ヲ以テ人ヲシテ直チニ一定ノ職ニ歸セシムル
 ナリ非常召命ノ例ハ多ク舊新約ニアリ例ヘハ預言者及使徒ノ召命ノ
 如キ是ナリ「聖神曰ク我カ爲メニソウルナリサウルヲ^{エラヒラカツ}甄別シテ我カ彼レ
 ニ命スル所ノ職ヲ行ハシメヨ」**(行實十)**然リ而シテ尋常ノ方法ヲ舍キ
 テ神ノ特示ヲ俟ツヘカラス又位置ヲ選フカ爲メニ其勞ト其智慧ノ
 決スルヲ得可キノ場合ニ於テ^ニ關ニ依頼ス可ラス蓋シ此レ即チ明ニ神
 ヲ試ムルノ謂ナリ苟モ然ラスンハ設ヒ切迫ニ依リ且信ニ依リテ關ヲ
 以テ洞察者ノ旨ヲ曉知スルヲ得ヘシト雖思量モ練達モ己レヲ試煉ス
 ルモ省察ノ功モ^モ須フル所無ラントス洞察者ハ思量スルヲ力メサル者
 ノ爲メニ答フルヲ要セスシテ小信者ハ設キ答ヲ與ヘタル、アランニ
 ハ之ヲ益用セトラントス彼レハ關ノ指示スル所ヲ或ハ錯認シ或ハ全

ソ之ヲ棄ツヘシ使徒行實ニ記シタルマトフニイテ擇フノハ此ト同日
ノ論ニアラス蓋シ彼ノ選ハ神自ラノ囑咐ニ依リテ其生命ノ聖ナル人
々ヲ爲セル所ナレハナリ

二百廿一 召命ノ内外

通常召命ハ内外ヲ分ツ外面ノ召命ハ我等ガ居在スル所ノ事ト時ノ形
状ヲ以テ定メラル即チ外面ノ境遇ニ依リテ或位置ヲ擇フ時ナリ若シ
ハ我等ニ其就クヲ得ヘキ一職業ノミヲ存有スル時ナリ此等ノ召命ハ
他ノ召命ニ比スレハ數、遇會スル所ナリ内部ノ召命ハ我等ノ才力及稟
賦ノ特ニ我等ヲシテ或位置ヲ擇ハシムル者ニ屬ス

二百廿二 位置ヲ擇フノ規則

人自由ニシテ生活ノ許多ナル位置ノ一ヲ已レニ擇ハントスル時ハ左

ノ規則ニ照應スヘシ

ア先ツ心靈ノ合當注意ト崇拜スヘキ神ノ旨ヲ認識スルノ外他ヲ求メ

ザテソトノ確實ナル決心ト既コ之ヲ識レハ必ス之ヲ行ハントノ整備

トヲ以テ之ヲ爲スヘシ血肉ノ望ミニ安ソスヘカラス宜ク唯一永遠ノ

救ニ着眼スヘシ曰ク何ヲ行ヒテ永生ヲ得ヘキ(マトフニイ十
九ノ十六)

カ次ニ確實ナル子タルノ希望ト奮熱ノ祈禱ヲ以テ其ノ由リテ行クヘ

キ所ノ途ヲ指示セヨチ神ニ乞フベシ曰ク若シ爾ノ中智足ラサル者

アラハ當ニ夫ノ答メスシテ厚ク衆ニ賜フノ神ニ求ムベシ則必ス賜ハ

シ但求ムル時ハ宜ク信シテ疑フナカルヘシ(イアコフ一
ノ五六)

サ終ニ此ノ如キノ重事ニ於テハ何人モ自己ヲ恃ムヘカラス有智且眞

ニ敬虔ナルノ人ニ商量スベシ矧チ未タ事ヲ更サルノ少年ハ己レニ危

險ナルモノト並ニ己レノ爲メニ他ニ比スレハ更ニ便ナルノ途トテ而
 夫ノ誘導者ニ須ツアルナリ
 其ノ位置ヲ選フコトナ商量スル時ハ自己外面ノ境遇、靈形ノ能力、缺乏性情
 及ヒ其他ニ注意セサルヘカラス(ルカ十四ノ廿八)而シテモリス躊躇疑感フシクハマラヌニ久ク淹滞
 セズシテ其外面ノ境遇、才力及其性情ニ尤適準スト想像シ其之ニ居ル
 ハ己レニ救ヲ得ンカタメニ尤便ナリトスルノ位置ヲ擇ハサルヘカラ
 スモシ不ラスシテ位置ノ選擇ノ爲メニ永ク決スル能ハサル者ハ何ノ
 善ヲモ作爲セザルナリ曰ク「風ヲ觀ル者ハ必ス播カス雲ヲ望ム者ハ必
 獲テス」(傳道之書 十一ノ四)
二百廿三位置ヲ擇フ本分
 人既ニ位置ヲ選ヒシ時ハ此レ其ノ神ノ自ラ賦與セル所ナルヲ確信

夫レ此信託ハ確實ナルナリ蓋シ熟慮シタルノ後神ニ倚托シテ
 以テ或位置ヨ入りシ者ハ神ノ自ラ其關ヲ定メタルニ疑ヲ容ル能ハサ
 レハナリ然レ而シテ人ニ己ノ意ヲ以テスルカ若クハ不意ニ或位置ヨ
 入ル(例ヘバ罪過ノ爲メニ或ハ克軍ニ發遣セラレ、有ルノ類ト雖若シ
 合當ニ其ノ位置メ本分ヲ成セハ己レニ平安ト慰藉トヲ得ベシ階梯著
 者聖イオアン書シテ曰ク「人強ヒテ此ノ如キ境遇ニ至ル時ハ世ヲ辭ス
 ルノ嫌ヲ起シ若クハ之ヲ尤ムルヲ爲スヘカラス種子ノ料ヲス地ニ遺
 シテ多クノ花、穰々ノ果ヲ産スルヲ遇見スルアリ又或人他ノ或要用ニ
 依リテ病院ニ至リシカ醫ノ相好ハ膝ヲテ之ヲ服セシメテ彼レ其目中
 在ル所ノ暗ヲ脱セルヲ遇見セリ故ニ或不由己ナル者ハ甘心ナル者
 言フモ實ニ確然タルナルナリ」(訓言一)

己レテ樂ヲテハ不レスニハリストスノ模範ニ循ヒ心ノ謙遜溫柔者タル
 學ヒ得ル者ハ如何ナル精義甘ンシ如何ナル觀モ輕ンセトス期セ
 夫若クハ強ヒテ或職ニ入ル者有リ其人倚シ神ノ法ヲ破ルオクシテ他
 人位置ニ轉ス可クハ則チ以テ轉ス可ク然レモ若シ神ノ法ト神ノ與
 ヘタルモ許願ト近者ノ關係トヲ破ラサルヲ得アルアラハ則チ福アラ
 クステインノ言キ己レニ体認セサルヘカラス曰ク「此位職ニ召サレスト
 雖召サレタル者ノ如ク行爲スヘシ即チ設ヘハ爾チハ實ニ見位見職ニ
 召サレシ如ク之ニ居ルベシ」業道下位職トハ我等チ天ト合スルノ鍵鎖
 ナリ若シ我等ハ神ノ面前ニ在ルカ如ク詳審誠實ニ其職ノ本分チ行ハ
 ン則チ恩寵ノ地位ニ在リテ神ノ恩寵ハ凡ソ位職ノ困難ニ勝ツノ力ヲ
 與ヘントス合當ニ其職ノ本分チ行ハス微々タル勞モモ負擔セズルヲ唯

位職ノ利益特典チノミ利用セント欲スル者ハ往々己レノ職ヲ訴フル
 ヲ爲ス大ニ...

二百廿四

此ニ因テ之ヲ見レハ「何事ニモ己レヲ煩ハスヲ願ハシ己レヨ一定ノ
 位置ヲ擇ブヲ欲セスシテ其時日ト其才能ト徒費シ其財產ヲ耗盡ス
 ル者ハ做得テ好ラサルヲ見ル可シ秀美ノ才能ヲ賦與セラレシ人コシ
 テ己レノ召命ヲ忽略シ目的ナシニ東投西奔シ國家ニ重要ナル勳功ヲ
 見ハスヲ得ヘシト雖自他チ累ハシテ之ニ意思ナクシテ生命ノ好年月ヲ
 空間ニ徒費スルヲ自ラ如何ナル惜ム可キノ觀チ呈スルヤ噫ト金ハ險ニ終
 リニ無益ノ僕ハ外ノ幽暗ニ逐フベシ彼レニ在テ哀哭切齒スル者アラ
 之ハ十四至二十五ノ日ニハ...

二生命ノ位置ヲ選フニ唯物欲驅使ノノ導ヒカル、者ハ罪ヲ獲ルコト
幾許シキ

三己レノ位職ニ頑嫌ヲ作シ鬱悶悒憂シテ全ク心神ヲ喪フ者ハ如何シ
愛惜セサルヘケンヤ彼レハ痛ク自己ヲ苦ムルノミナラス其居ル所ノ
位職ノ爲メニモ害アリ蓋シ其本分ヲ盡サレハナリ

二百廿五 愛勞苦

至智ナル創造者ハ我等ニ其創造者ノ旨ニ遵ツテ事業ヲ力メシメシコ
爲ニ種々ノ力量才能ヲ賦與セ、此コヨリテ愛勞苦若クハ我力ニ合當
ニ用使スルハ他ニアラス即チ方チ盡シテ神ヲ愛スルト近者ヲ愛スル
已レノ如クストノ至大誠命ヲ着々適用スルナリ之ヲ約スレハ其位職
ニ預備スルコトツキテモ既ニ選ヒタル位職ノ本分ヲ合當ニ做成スルコ

ツキテモ凡ソ我等ノ位職ニ切近ノ關係有ル者ヲ合當ニ作爲スル恒固
ノ熱心ヲ發憤トテ名ツクニ此名ヲ以テス

二百廿六 操作スルノ本分

蓋シ各自聰明慧ナル實体ノ生活ハ乃チ活動スルニアリテ我等ハ盡ク
アザムコヨリ等苦ヲ以テ罰セラレ(創世記三)而シテ等苦ハ我等ヲ謙遜
ナラシメ我カ在弱ヲ識知セシムルヲ得ヘキコヨリテ「ハリステアロン」ハ
必ス場方用功シテ神ノ罰タリ天父ノ諭訓タル勞苦ヲ負ハサルヘカラ
サルナリ(出埃及記二ノ九箴言卅一ノ)此ノ本分ハ各ハリステアロン
ニ存ス使徒パウエル曰ク此ヲ以テ爾ニ命ス人若シ操作スルヲ肯ンセサ
ル者アラハ則食ヲ得ザレ(三ノ十)後書此ノ規則ハパウエル自ラ之ヲ履
行セル唯使徒ノ職ニ於ケルノミナラス平常ノ勞作ヲ以テモ人ニ比ス

レハ且更ニ嚴ナリ言フガ如シ白ク乃チ此手會テ我及我ト借コスル者ノ
 需メニ供ス此レ爾ヲ知ル所ナリ(行實廿ノ)又曰ク勞シテ親手工ヲ作
 ス(コリンフ前書)又曰ク亦未ダ人ニ索養セス乃チ勞ト苦トヲ以テ晝
 夜操作シ爾ノ中ノ一チモ擾サハルヲ致ス(ソルン後書三ノ八)
 二百廿七「ハリスミアニン」ノ勞苦ノ性質
 勞苦ヲシテ力ニ應セシメテ真正ノ利益ヲ産スルヲ得可キカ爲メニハ
 一凡ソ人ハ己レノ爲メニ生活及勞苦ノ他ノ爲メニ有益コシテ自己ノ
 力量ト相應スル一定ノ種類ヲ擇ビ己レヲ舉ケテ此レニ任セサルヘカ
 ラス(箴言廿二ノ八 行實十八ノ二)
 二倘シ人ハ生活勞苦人一定ノ種類ヲ自ラ選ビ若クハ上司ヲ以テ之ニ
 任セラルレバ至ク勉勵誠實ヲ奮發トテ以テ其メ之レニ伴ヒ來ル不

合意及煩勞ニ毫モ畏レスシテ此勞苦ヲ成サハルヘカラス(箴言十三ノ
 五廿二ノ十三廿六ノ十三)
 以下(コリンフ前書)

三「ハリスミアニン」ニ自己ト其一家トヲ養活スルカ爲メニ操作セサル
 ヘカラスト雖然レ「ハリスミアニン」ハ神ノ榮ニ於テ萬諸ヲ作爲スヘ
 キ(コリンフ前書)

出埃及記廿ノ九(マトフエイ廿)近者トニ關係スル己レノ本分ヲ成スニ妨ケ
 ナ爲サハラン「ト」ヲ戒慎セサルヘカラス

四終ニ吾人ノ業事ヲ幸ニ終ヘンカ爲メ及ヒ勞苦ノ爲メニハ力ヲ要セ
 サルヘカラスシテ凡ソノ善賜ハ神ヨリシテ出ツルニヨリ「ハリスミア
 ニン」ハ神カ勞ヲ任スルノ力ヲ賜フテ其事ヲ庇佑セン「ト」ヲ日常神ニ呼
 祈セサレバ「ト」ヲ養活スルカ爲メニ必要ナル事ナラズ

三百九十九

二百廿八) 愛勞苦ニ反對スル罪

操作スルノ本分ニ反スルハ一獲ルヲ求ムルノ不義ナル方路ナリ有罪
ニシテ時日ヲ送過スルト情欲ヲ飽カシムルニ資クヘキ勞苦ノ種々ノ
欺瞞ニ成リテ社會ト近者トニ何ノ益ヲモ作キ、ル者此ニ屬スニ軟弱
ニシテ勞苦ヲ忍耐セサルノ人カ毎々委スル所ノ偷安ナリ三神ニ反對
スルト(マトフニ)人ヲ誘惑ニ服セシムル(テイモフニ前)ノ懶慢ナリ懶慢
ハ諸罪ノ母ニシテ聰慧道德ノ實体タル人ノ價格ヲ貶ス蓋シ長
睡晏起シ次テ朝饌、遊歩、賓客或ハ來訪者ト浮談、浮談ニ幾シモ勝サルナ
キノ看書次テ午飯、安臥、觀場、遊戯、晚餐而シテ復タ長睡スル此レ豈聰慧
道德ノ實体ノ行ナランヤ(聖神父文集附錄一千八百四
十七年發行三百七十八葉)
二百廿九) 智慧

智慧ニ何ヲ爲スヘキト何ヲ避クヘキトヲ知ル練達靈活ナル智識ナリ
福アウグステン曰ク智慧ハ其ノ欲スヘキ者ト避クヘキ者トヲ知ルナ
リ(自由ノ一書) 一卷十ヨ章

教會ノ諸父證ス智慧ハ諸徳ニ超エ(訓言九ノ四十九葉) 衆人ノ爲メニ至

テ緊要ナル徳行ノ一ナリ然リ而シテ智慧ハ人ヲ管理シテ一時若クハ

永遠ノ幸福ヲ得セシムルヲ任セラレシ者ノ爲メニハ特ニ須要ナリ他

ノ諸徳ハ多少トナク危キヲ避クルカ爲メニ智慧ノ指揮ニ循フテ針路

ヲ定メサルヘカラス智慧ハ目的ヲ達スルカ爲メニ時ト處ト方法トヲ

選擇ス彼レハ人ノ自己ニ關スルト他人ニ關スルトチ問ハス其ノ語言

ニ至ルマテテ悉ク管理シ人ヲシテ己レノ爲メニ不好ナル結果有ラ

ズトスル假偽ノ針路ト不謹ナル行爲トヲ道レシムルナリ

第二十一

靈魂ニ關スル本分ヲ論ス

二百三十) 靈魂ヲ照看スルノ重要

靈魂ハ「ハカステア」ニ己レヲ照看スル者大目的タルヘシ蓋シテ靈魂

魂ハ人ノ實體ノ至重要ナル部分ナリカ其本性ニ依レハ神ノ像ナリ

(創世記一)「サ」神父ハ無量ニ人ノ靈魂ヲ愛シテ之ヲ罪ト永刑ヨリ救ハシ

カ爲メニ其ノ獨一子ヲモ至辱ノ死ニ付スレヨ至レリ(イオアン)神ノ子

ハ人ノ靈魂ヲ愛シ且之ヲ重シシテ之ヲ罪ノダメニ服スル所人永遠ノ

亡ヨリ救ハシカ爲メニ自ラ天ヨリ降生シ貧ニシテ地上ノ生ヲ度リ探

作、滴汗、世業ノ難ト角シ斥逐、罵詈、毆打セラレ刑架ニ釘セラレテ最慘酷

カ苦シク死セリ加之靈魂ヲ名ツケテ己ニ至近至親ナル姉妹トシ

新婦トス(雅歌四ノ)聖神ハ人ノ靈魂ヲ愛シ之ヲ其殿ト爲シテ之ニ住シ

(コリン)前書三ノ十三)其在弱ニ於テハ言フ可ラサルハ、慨歎ヲ以テ(コ

六八ノ)之カ爲メニ代死ス凡ソ有形世界ハ凡ソ其ノ無數ノ造物、美態

珍寶及廣大ヲ以テ自ラ人ノ爲メニ其靈魂ノ喪失ヲ償フ能ハサルナリ

イオニスハリストス曰ク「人若シ全地ヲ得テ其生命ヲ失ハ、何ノ益ア

ランヤ(マコト)「人若シ全世界ヲ得テ我カ有トスル(但シ何人モ期ス

ル能ハサル者ナリ)モ其靈魂ヲ失フ時ハ全ク人ニ利益ヲ給スル能ハス

ルハ豈其レ人ハ靈魂ヲ照看スルノ最猛烈ナル熱心ヲ感激スヘキニア

ラスヤ

二百三十一) 靈魂ヲ照看

靈魂ヲ照看スルハ人ノ靈魂ヲ才能及力量ト特ニ其ノ首ナル智ト意ト

師ノ哲學、歴史、物理及其他ノ學問ニ涉獵スル淵博ナル智識ト人ト談論
 スルニ學術ノ精神ヲ以テスル學理ノ說話トハ（例）ハアレクサンドリ
マ荷モ信ト「ハリスデアコン」ノ敬虔ノ爲メニ有害ナル者ヲ以テ伴フ
 アルナシシハ彼等自ラモ博學ヲ疏絶セズ他ニモ博學ヲ疏シスルヲ欲
 セサリシテ證スルナリ是故ニ彼等ハ「ハリスデアコン」ニ詩歌、音樂、哲學、
 語學ノ如キ國民及其他ニ有益ナル學業ヲ修ムルヲ准許セリ（アレクサ
 ノドリヤ
 ノクシメント「ペダゴグ」三卷四章聖神父規則）聖大ワシリイハ世間
 ノ書且異邦人ノ書ト雖モ之ニ涉獵スルヲ聖書ヲ考フルノ預備ト爲
 之ヲ理會スルツ方法ト爲セリ（少年
 教訓
 「二百卅四」現生ノ爲メニ少ク可ラサル智識ヲ求ムル
 「ハリスデアコン」ノ智識ノ開育ハ偏ニ教理ト學術ノ思想上ノ點ト止

ルヘカラス實體ヲ以テ地上人間社會ニ生活スルノ緊要ハ「ハリスデア
 コ」チシテ世間一定地上生活ノ爲メニ緊要ナル智識ノ蓄積ニ入ラシ
 メサルヘカス故ニ生活ノ爲メニ必用ナル巧藝、職業及手工ヲ學ハサル
 ヘカラス（大ワシリイ規則）然リ而シテ物理實驗及思想上ノ學ハ教育ノ
 第二ノ目的トスヘクシテ「ハリスデアコン」ノ教ヲ以テ教育ノ首大第一ノ點
 トセサルヘカラサルナリ而シテ又世間ノ學ヲ爲スハ一ノ貪智之心ヲ
 以テスルニアラス知識ヲ求ムルノ嗜好ニ依ラズ及ヒ名利ノ爲メニア
 ラズ唯其學問ハ德行ノ爲メ（オリケンツニリスチニ除
 スル書三卷六百三葉）及教會ノ爲メニ必
 要且有益ナルニ循フノミナルベシ（アンフロシイカ福音ヲ講スル
 第一卷聖アンソナイ異邦人ヲ關
 除スル書）教會創業ノ時ニ當リ諸物ヲ知リテ神ヲ知ラサル者ヲ視テ不
 幸ナル者ト爲シテ翻ツテ他ノ一物ヲモ知ラスト雖モ神ヲ知ル者ヲ福

ナル者ト爲セリ(アウグスティン教會ノコ)

二百卅五) 徳性開育ノ目的

「ハリスチアス」ノ智識ノ開育ハ自己ヲ以テ目的ト爲スヘカラス他ノ高上ナル目的ヲ達スルノ方法ト爲スヘシ此目的ハ意ヲ敬虔ノ規則ニ確立シハリストス教ノ徳行ニ習熟スルナリ(金口エフレスニ達ス)及我等ニ聖潔ヲ要スル神ノ旨ヲ行スナリ曰ク夫レ神ノ旨ハ乃チ爾ノ聖潔(前書四ノ三ペリ)前書一ノ十五、十六、ト、四ノ六至二十三ノ廿四以下參看)二百卅六) 心ノ開育ヲ論ス

智ト意トハ開育ハ至シ之去心ニ得テ心中ニ扶植スル及マシムルハ死物ト大リ不結果トスル己ニ至テ(アレクサンダー三卷二百七十葉)故ニハリストス教ノ「唯智ト意トハ至シ之去心ニ得テ心中ニ扶植スル及マシムルハ死物ト大リ不結果トスル己ニ至テ(アレクサンダー三卷二百七十葉)故ニハリストス教ノ

ハリスチアス心ノ本然ノ良善ナル應及傾向タル實ト善ト美トノ感覺ハ思慮ヲ以テ之ヲ聖ニシテ惡ニ傾ク天生ノ傾向ヲ自ラ撲滅スベシ實ニ感覺ハハリストス教トチ活信スルモ精神ニ循フテ之ヲ導キ而シテ善ハ所望及感覺ハ神ト近者トニ於ルハリストスノ教ノ愛ニ對シテ開發シ美ノ所望及感覺ハ神ノ目的ヲ有セサルヘカラス而シテ自己ヲ愛スル天生ノ感覺ハ身体及外面ノ生活ノ爲メニ肝要少ク可ラサルノ所望ヲ充テスノ單一ナル満足ト妨クル所有ヲサルノ喜樂ト越ユヘカラス曰ク斯世或ハ斯世ニアルノ物ヲ愛スル勿レ人モシ斯世ヲ愛セバ父ヲ愛スルノ愛其衷ニアルナシ蓋シ凡ソ世ニアルモノ肉體ノ慾、眼目ノ慾、及世業ノ誇、如キハ皆神ニ由ルニアルス世ニ由ルナリ

(イオアン前書二ノ五十六)

二百卅七) 美術教育

ハリストス教ノ初時ヨリ今日ニ至ルマテ傳フル所ノ高尚ナル言法ト
正敬禮拜堂ノ外儼裏壯ト神工及聖諾父ト昔時著作者ノ教訓ノ少年教
育ニ關スル者ノ森嚴ナル
(アレクサンドリヤノクリメント「ペダゴグ」
二卷四章百六十六葉大ワシリイ少年教訓)
ハ巧藝ハ此言ノマ、眞ニハリストス教ノ公私教育ノ事ノ區域ヨリ究
ニ省カレサルヲ見ルヘシ繪畫、聲樂、能辨(ヒン書二卷)詩學(大ワシリ
イ少年教訓)
造營學ノ或ハ殿ノ飾美トナリ或ハ心ノ敬虔ノ感動ヲ顯ハシ或ハ之
ヲ鼓舞スルハ方法トナルヲ得ル者ハ古ノ教會ニ於テ家裏ニモ教壇ニ
モ恒ニ兒童ノ爲メニ教習修業ノ事ヲリヤ唯此ノ巧藝ハ純粹ニシテ且高
尚ニシテ其カラスマテ自ラ鎖縛ス自己ヲ爲メテスルノ主義、目的及
方法ヲ爲ルヘカラスマテキ者華ノ子實トナテ爾後不定優柔ナル風習ヲ玩弄

物トナシカラス乃チマヤ神ヲ美善ヲ其美之ニ應スル物ト美覺ヲ以
テ顯ハシ且ハリスタアニンノ敬虔ノ感動ヲ表スルノ目的ヲ有スヘク
其ハ教會神工ノ聖具トナリ(アファナシイ異邦人ヲ關除スル書第一葉大
ワシリイ少年ニ講説アウグステインゾ、チ
スル書ニ達)敬虔ヲ振興扶植スルノ方法トナルベシ(大ワシリイ少年教
訓アレクサンドリ
イノク「メント」ペダゴグ)然リ而シテ若シ巧藝ハ敬虔ニ反スルノ歌曲
ト淫淫優柔ナル聲音又ハ跳舞ヲ呈スル時ハ之ヲ斥クルト初蒙子クモ
「ハリスタアニン」カ異邦人ノ巧藝ヲ斥クケシ如クセサルハカラズ言フ
有リ日シ我等ハ言ヲ以テモ耳ヲ以テモ戲場ノ兇殺ニ於テモ闘場ノ殘
忍ニ於テモシシスト(雨天ノ日開者角)ノ戲事ニ於テモ與カラサルナリ
(テルトリアンノ「ア
ボロギヤ」三十八章)

第二三章

身體ニ關係スル本分ヲ論ス

二百卅八) 此世生命ノ目的及人身ノ高貴

身體ニ關係スル本分ヲ最正ク定メシカ爲メニ見ハスヘキ者ハ此世ノ生命ノ目的ナリニ人身ノ高貴ナリ

一) 人ノ此世ノ生命ハ來世ノ爲メニ練試預備スルノ時ナリ人ノ永遠ノ係ル所ノ場ナリ聖書ノ證ニ依ルニ我儕ハ此ニ在リテ恆ニ存スルハ已無ク唯タ一ノ將來者ヲ求ム(エウレイ十) 故ニ此身ニ居ルノ間ハ主ニ離ル(コリソフ後) ナリ然レテ幸ニシテ成スアル時ハ我カ爲メニ

義冠ヲ備ヘラル即チ公義ノ裁判者タル主カ其日ニ至テ我等ニ與ヘントスル者ナリ(タイモフイ後) 曰ク蓋シ我等必ス悉クハリストスノ臺前ニ立テ各々其身ニ在ルノ所爲ヲ受ルテ致ス其爲ス所ノ者ノ或ハ善

或ハ惡ニ循テ(コリソフ後) 又現生ハ顯ハスニ播種ノ時ヲ以テシテ永

生ハ収獲ノ場ヲ以テス(ガラタイヤ六ノ八)

カ) 神ハ獨リ我等ヲ此生命ヨリ呼フ可クシテ我等ハ吾カ生命ニ全ク權理ヲ有セサルナリ蓋シ悉ク神ニ係レハナリ曰ク我等ノ中人トシテ己レカ爲メニ生シル無ク亦人トシテ己レカ爲メニ死スル無ク蓋シ我等或ハ生シルモ主ノ爲メニシテ生キ或ハ死スルモ主ノ爲メニシテ死ス故ニ我等或ハ生キ或ハ死スルハ並ニ主ニ屬ス(ローマ十四) 即チ是我等ハ吾カ生命ヲ神ノ爲メニ神ヨリ受ケタレハ亦必ス是ノ如ク神ノ悅フ所トナルノ日ニ至ルマテ之ヲ保全セザルヘカラス

二人ノ身ノ生活ノ爲メ及外面ノ本分ヲ行フカ爲メニ緊要ナル者ナリ唯其衷ニ居ル聖神ノ家ニリ器械ニシテミナラス實體ノ要部ナリ

然り而シテ人身ノ高貴ニ特ニ轉テ示シヨリテ顯ハル特示ハ人ノ身
 ナイニススハリストスノ肢ト爲シ聖神ノ殿ト爲シテ之ヲ顯ハス曰ク
 豈知ラサランヤ爾ノ身ハ乃チハリストスノ肢ナルヲ又豈知ラサラン
 ヤ爾ノ身ハ乃チ聖神ノ殿ナルヲ夫レ聖神ハ爾ノ裏ニ在リ爾チ乃チ神
 ニ由リテ之ヲ受ケルナリ爾チ且己レニ屬スルニ非ス蓋シ爾ハ價ヲ以
 テ買ハレタル者ナリ故ニ宜ク爾ノ身ヲ以テ爾ノ靈ヲ以テ榮テ神ニ歸ス
 ヘシ此レ皆神ニ屬スルナリ(コリント前書六ノ十五) 加之特示ハ我等
 ノ身ノ復活スルコトヲ證說シテ之ヲ種子ノ今地ニ托シ地中ニ埋
 沒スルモノニ比シテ審判ノ日ニ至テ甦生スルモノトス(コリント前書
 十五章)
 ハリストスハ此ノ目的ノ爲メニ將ニ其萬物ヲ己レニ服スルノ大能ヲ以
 テ我等身軀ノ軀ヲ化シ其榮光ノ輝ニ變ルチ致サントス(コリント前書
 二ノ十三)

書十五ノ十) 我カ靈魂ニ重キヲ負ハシムルノ此体ハ之ヲ剝脱スルヲ命
 セラルトト雖(コリント前書二ノ
 廿七同後ノ五ノ二) 尙此ノ体ノ我等カ照看ヲ要スルハ創
 造者ノ至智ノ工ナリ我カ實体ノ緊要ノ部分ヲモエ因ル特ニ其恩寵ノ
 國ニ於テ貴重ノ値ヲ以テ尊ハレ光榮ノ國ニ於テ福樂ヲ享クルニ堪フ
 ルニ因ルナリ(コリント前書三ノ十六以下ローマ十三ノ
 十四エフェソス五ノ廿九コロソス二ノ廿三)
 二百卅九) 身體ニ關スル本分
 我等カ地上ノ生命ハ此ノ如ク重要ノ目的ヲ有シテ體ハ此ノ如ク貴重
 ナル値ヲ有スルニヨリ己レカ身體ノコトヲ慮ルノ本分ハハリステアニ
 シノ負フ所ナリ此ノ本分ハ健康及生命、飲食、衣服、睡眠及外儀ヲ保護
 スルト純潔ヲ以テ身體ヲ保護スルニヨリ(二百四十) 生命及健康ヲ保護スル本分

「ハリステアエモン」凡ソ正シキ方法ヲ用ヒテ生命及健康ヲ保護扶持スルモ慮ラサルヘカラス
(エフエス五) 仁慈ノ創造者カ自全ヲ欲スル猛烈ナル趨向ヲ賦與シタル天性ハ自ラ各人ニ此ヲ勉メシムルナリ然レモ此事ニ於テ例ヘハ禽獸ノ如ク一ノ品性ヲ以テ導ヒカレ若シハ唯此世ノ喜樂ヲ以テ自ラ樂ムヲ得ルノ久カランカ爲メニ生命ヲ慮ルハ聰慧徳義ノ實體タル人ニ應セサラントス我等ハ吾カ高上ノ關係ヲ忘ルヘカラス我等ハ主神ノ誦命ヲ行フヲ以テ福樂ノ永生ニ堪フル者トナランカ爲メニ吾カ生命ヲ保護スヘキナリ
 我等ハ身ノ生命健康ヲ保護スルカ爲メニ衆人一般ニ要スル所ノ者ヲ知ルノ外體質、風土及時候ノ殊異ナルニ循ツテ特ニ我等ニ有益ナル者若クハ有害ナル者ヲ知ラサルヘカラス

然リ而シテ健康ノコト過慮スヘカラス柔弱ノ人々數々健康ヲ保全スルカ爲メニ一切ヲ獻ジモ爲シ且或ハ全ク健康ナルモ己レヲ度リテ海濱トナシモソナリ此ノ如キハ唯生命ヲ愛スルヲ不眞實ヲ顯ハスノミナラス徒畏ニ依リテ己レカ至重要ノ本分ヲ行ハサルヲ數々ナリ
二百四十一 此本分ノ限定
 我等カ生命ト健康トハ他ノ幸福ノ如ク神ノ爲メ且神ノ旨ヲ行フカ爲メニ我等ニ與ヘラレタリ曰ク或ハ生クルモ主ノ爲メニ生キ或ハ死スルモ主ノ爲メニ死ス(ローマ十 四ノ八) 夫レ我等ハ苟モ神ノ爲メニ生クレハ健康ヲ保護スルノ本分ハ之ヲ神ニ於ルノ本分若シハ他ノ高上ナル本分ニ從屬セシメサルヘカラスナルナリ使徒ハ械繫患難ノイエルサリムニ於テ持ツ有メテ知リ言テ曰ク悉ク以テ患ト爲サテ亦我カ生ヲ以テ貴レ

ト爲サズ或ハ忻然トシテ我カ行ク所ノ程ト主イエススヨリ受クル所
 ノ職ヲ盡シ神恩ノ福音ヲ以テ人ニ證スベシ(行實廿)故チ以テ已レノ
 本分ヲ行フカ爲メ又公衆ノ幸福ノ爲メニ愛ニヨリテ已レテ大危難ニ
 服スルハ健康ト生命トニ關スル自己ノ本分ヲ毀壞セサルナリ例之ハ
 兵士ノ教ノ爲メ王ト國ノ爲メニ顯然ノ死ニ趨ク時ト又子ノ父ノ死ヲ
 救ハソカ爲メニ已レカ僅々ナル殘餘ノ餅ヲ與フル時ノ如キ是ナリ且
 其永遠ノ救ヲ得ンカ爲メニ不斷長久ノ禁食ヲ爲スニ頼リ跪坐、徹夜堂
 課、叩拜ニ頼リ及ヒ凡ソ身体ノ安ト生命ノ便トヲ奪フニ頼リテ其身体
 ヲ孱弱耗盡スル者モ健康生命ヲ守ルノ本分ヲ毀ルニソラサルナリ曰ク
 「凡ソ先チ爭フ者ハ諸事ニ於テ用テ節ス夫レ彼レ此チ行フハ壞ル可キ
 事ト覺テ得ント欲スルノニ然レバ我等ハ壞ル能ハサルノ覺テ得ントス

故ニ我カ趨ルハ定メ無キカ如キニアラス我カ戰ハ虛氣ヲ撃ツカ如キ
 ニアラス我レ乃チ已レノ體ニ克テテ之ヲシテ服セシム恐クハ我レ己
 ニ他人ヲ救ヘテ自ラ棄テラレン(コリント前書九)
二百四十二病時ニ於ルノ本分
 「ハリスデアモン」タル者病ニ罹ラハ先ツ忍耐、謙虛、主ヲ望ムテ以テ自ラ
 備ヘサルヘカラス蓋シ我等ノ病ハ吾チ醒覺シテ悔改セシメンカ爲メ
 ニ主神ヨリ我等ニ遣ハサル、ナリ我カ子ヤ爾チ病アラハ罪ヲ棄テヨ
 凡テノ罪ヨリ爾ノ心ヲ潔クセヨ(シラフ卅八)
 次テ若シ痊ユルノ望ミアラハ病ニ對シテ合當ノ方法藥餌ヲ用ヒサル
 へカラス病若シ尋常ノ方法ヲ以テ退カスンハ宜ク名醫ノ助ヲ請フテ
 我カ病因ト情狀トヲ顯ハシ其命スル所ヲ實ニ盡ク行フベシ適當ニ醫

智者ハ之ヲ忽ニモス(シラフ卅八)
(ノ一至五)

病問ニ攪擾セラレシ心情ハ之ヲ道理ニ服セシメ道理ハ之ヲ神ニ従ハ
シムヘシ愁嘆悲泣ハ禁スル所ニアラスト雖病者ハ之ヲ節制シテ神ニ
向ツテ自ラ不平ヲ存セス其ノ身邊ニ在ル者ヲ累サハルヲ爲サハルヘ
カラス病者ハ永生ノト己レノ既往ノ身事トヲ回想スルカ爲メ之ヲ
修整スルノ確志ヲ立ツルカ爲メニ病ノ減和ヲ覺ユル時ヲ益用スベシ
病革ニシテ死ニ迫マレ時凡ソ我ニ屬スルノ事ヲ理處スヘシ我カ欺
侮込込者ト講和シ我カ他ニ蒙ラシメタル有害欺侮ノ爲メニハ可及ノ
償補ヲ爲シ我レニ餘マス所ノ財產ヲ正シ區處スルハ特ニ此ニ屬スル
ナリ速ニ悔改シ己レヲ潔クシテ聖体ヲ領スルハ病ニ罹ルハハリスニア
ン

ノ特別ナル本分ニ屬ス病加重シテ危キニ迫ルノ時ニ至リ加之窘困、危
殆、自知之心サヘモ喪スノ時ニ至ルマテ至聖機密ヲ稽延スルハ無智タ
ル極マル病者ハ聖體機密ヲ領ルヲ以テ主ト體合シテ己レヲ全ク神
ニ任セサルヘカラス病者ハ死ニ瀕シテ悲嘆スヘカラス併ニ凡驕傲ト
自誇トヲ遠クヘシ眞實ノハリスニアニンハ懼レシテ死ヲ遂フルナ
リ然レモ其ノ安然ヲ汲ムヲ得ルハ自己ヨリスルニアラス我カ在弱ト
我等カ希望者救者ハ仁慈ヲ記シテ救主ハリストスノ功德ト其ノ神々
ル允許ヨリスルカ曰ク人若シ罪ニ陥ラハ父ノ前ニ保恩師アリ即チ
義人イオニスハリストナリ(イオアン一書)
(二ノ一以下)
二百四十三 自殺
生命及ヒ健康ヲ守セ本分ニ悖ル者ナル罪ハ自殺ヲ即チ甘シクテ

自ラ生命ヲ奪フナリ自殺ノ類一ナラス直截ナルト不直截ナルト猛ナルト柔ナルトアリ直截ノ自殺ハ或行爲若クハ或物ヲ放下スルヲ以テ死スルヲ致スナリ強暴若クハ死ヲ促スノ方法ヲ用ヒテ己ヲ殺死スルヲ爲スハ此レ自殺ノ猛ナル者ニシテ柔ナルハ人徐々ニ其生命ヲ滅殺スルナリ例之ハ人愚ニシテ色慾過酒若クハ他ノ弊病ノ全身ノ氣力ヲ速ニ虛弱窮盡ナラシムル者ニ徇フ時ノ如シ然リ而シテ何ノ方法ヲ以テ其身ヲ殺スモ自殺ハ長ルヘキ罪過ナリ直ナルト猛ナルトハ特ニ罪ナリトス自殺ハ

ア神ニ關係シテハ神ノ尊嚴ヲ犯スノ大ナル者ニシテ神ノ命ト其權トニ對シ恰モ叛逆ニ似タリ蓋シ神ハ生死ノ王ナレハ之ヲ治理スルヲ得ルモ神獨リナルニ自ラ已レノ生命ヲ奪フバ現時ノ禍害ヲ忍耐スルヲ

欲セサルト將來ヲ懼怖スルトヨル者比々實是ナルニヨリテ自殺ハ全ク神ニ倚托スルヲ拒ミ已レニ任スルノ十字架ヲ負フヲ欲セスシテ神ノ已レヲ禍害ヨリ脱スルヲ得ヌヲ信セサルナリ

カ自殺ハ自己ニ對シテハ至大ナル殘忍ヲ見ハス蓋シ神ハ父タルノ慈仁ヲ以テ我等カ此處ニ在リ急々永生ニ預備スルヲ爲サンカ爲メニ我等ニ生命ヲ賜ヘハ任意ニ此場ヲ削減シテ罪ヲ贖ヒ福樂ノ永生ヲ得ンカ爲メニ與ヘラレヌムノ時限ヲ自ラ剝喪スル者ハ如何ナル大罪ナルヤ自殺者何ノ心ヲ永生ニ入ラントスル畏ル可キノ甚シキナリ噫

カ終ニ自殺ハ近者ニ於ルノ本分ヲ毀壞スルナリ蓋シ自殺ハ甘心シテ近者ノ關係ヲ斷喪シ屢害ヲ他人ニ及セハナリ

聖教會ハ常ニ自殺ヲ以テ怖ル可キ干犯ノ一ト爲レテ自殺者ニハハリ

神の獨り我カ生死ノ注ナリト曰ク我等或ハ生キ或ハ死スルモ並ニ主
 口属ス(ローマ八)故ニ使徒等亦凡ソ禍害ノ爲メニ勸カサル能ハ
 カル忍耐ヲ勸説シテ時法有スルノ間ニ善チ行フヲ諭示ス(ガラタイヤ
 六ノ十)
 曰ク我カ望ム所ノ福及大神我カ教主(コリントス有榮ノ顯現
 ヲ仰慕ス(コリント二))
 二百四十四「自殺ニ對スル方法」
 自殺ニ對シ普通且有能ナキ方法ハ「思フ」(レキヤ)ノ教ナキ蓋シハリスト
 亦ノ教ハ我等ノ目的ト目的ヲ達スルノ途ト來生ト現生ノ關係ヲ示シ
 我カ爲メ斷斷ニ捨己ヲ諭セハナリ故ニ我等ヲ其ノ自殺ノ原因タル
 邪惡ヨリ預防スル斷罪例之人經驗ニ依テ肉情、貪名、貪利及博奕ヲ如

許ハ特ニ自殺ノ原因タリ若シ我等吾ガ在窮ニ依リテ或邪惡ニ陷ル
 レハ我等ノ教ハ悔改ト之ヲ棄ツルノ決心ヲ勸メテ我等ヲ振興シ凡ソ
 憂患ト不幸ニハ安慰ノ源ヲ與フルナリ設シ人盡クハリストノ教ヲ
 受ケテ篤ク之ニ信託セハ自殺ハアテサルヘシ
 二百四十五「身體ノ完全ヲ慮ル本分」
 人ハ己レノ生命ヲ奪フニモ身體ノ完全ヲ毀傷スルニモ其權ヲ有セサ
 ルナリ然レ而シテ其全身ヲ守ルガ爲メニ已ムト得サルアレハ醫ニ
 許スニ彼此ノ肢ヲ切斷スルヲ以テスルヲ得ヘシ例ハ或肢カ脱疽ニ
 侵サル、如キ是ナリ其他已レノ或肢ヲ奪フトノ罪過ト爲スヘキモノ
 ハ例之ハ生育ヲ能ク絶ツ是ナリ蓋シ己レニ對シテ此ノ如キノ残忍ヲ
 爲メハ全ク無益ナリ罪ニ其ノ因ル所ヲ原スルニ身體ノ機關コアラヌシ

テ自由ノ望ニアリ故ヲ以テ罪ヲ避ケント欲セハ肢體ヲ截斷セス誘感
 ニ對シテ靈神ヲ固メサルヘカラサルナリ而シテ誘感ハ如何ナルモ救
 ハ常ニ我等ニ之ニ克ツノ大有能ナル方法ヲ顯ハス我等若シ合當ニ之
 ヲ益用スレハ百般誘感ノ間ニアリテ無害ニシテ存セントスルナリ而
 ルヲ若シ此ノ方法ヲ忽ニスルヤ惡念及色慾ノ望ハ關人ニモ起リテ斷
 ヌル無ラントス或者カ己レノ妄用ヲ裁トセント冀圖シタル聖書ノ旨
 例之ハマトフニ六章十九節十九章二十節ノ如キハ言ニ泥ミテ義ヲ取
 ルヘカラス(聖金口イオアンノ此言ノ解説ヲ看ルヘシ)經驗ハ證ス開割ノ後男子ノ性ハ女
 流ニ似タルヲ爲シ人ノ骨格ハ全ク爲メニ壞傷シテ此ノ如キノ人ヲ見
 ルサヘ快カラサルニ至ルナリ
 或義務ヲ追レンカ爲メ例之ハ徵兵ノ役ヲ免レンカ爲メニ己レノ肢體

ヲ刺奪スル如キハ亦之ト同罪ナリ

二百四十六「遲慢ノ自殺

生命及健康ヲ直截ニ傷フノミナラス徐々隱微ニ傷フヲモ除去セサル
 ヘカラス重要ノ故ナクシテ其ノ生命ト其ノ健康ヲ危キニ服シ若クハ
 死ヲ促スノ生活ヲ爲ス者ト自誇、貪利、冒瀆ニヨリ愚ニシテ自ラ危キニ
 投スル者トハ此ニ於テ罪ヲ行フナリ總テ凡ソノ惡習ノ人恒ニ自ラ徇
 フ所ノ者ハ死ヲ促シ健康ヲ壞ルナリ然レトモ色慾ト過酒トヲ特ニ甚
 シトス人ハ此ノ如キノ生活ヨリ如何ナル害ヲモ期セサルニヨリ又ハ
 或害毒ニ遭逢スルアルモ自ラ罪トシ視サルコヨリテ邪惡ノ行ヲ止ム
 ル如何ナル訓諭モ勸說モ聽カサル者多シ此レ最惡ナリ蓋シ是人以爲
 シ此レ唯己レヲ害スルノミ人ヲ害セスト天姿強壯ノ人ノ生行ノ惡ナ

ルニヨリ已レテ害スルノハ經驗ニヨリ人ノ皆知ル所ナリ然レモ
彼等ハ謂ヘラク唯己レヲ害スルハミナリト此レ假偽ナリ蓋シ其種々
ノ惡害ハ姑ク舍キ他人ノ爲メニ已レノ本分ヲ行フ能ハサルヲ以テ大
害ヲ他人ニ及ホスナリ然レ而シテ若シ凡ソノ禍害ハ唯其頭上ニ墜落
スルノミナルモ其レ豈我カ意ニ任セ惡行ヲ以テ己レカ生命健康ヲ傷
フノ權理有ラマヤ

二百四十七 飲食ヲ用フル規則

我等ノ生命勢力ヲ守ルカ爲メニ我等ハ飲食、衣服及ヒ睡眠ニ必要ヲ有
スルナリ飲食ヲ用フルニ關スル首ナル規則ハ左ノ如シ
一「ハリステアコン」ハ飲食ヲ以テ諸物ヲ我等ニ洪賜シテ之ヲ享ケシム
ル(テイモフニ前 書六ノ十七)神ノ仁慈ヲ賜トシテ用ヒサルヘカラス故ニ其善賜ニ

ヨリテ己ニ優恤シ且養活スルニ神ニ感謝ヲ成セサルヘカラス故ニ我
カ聖教會ハハリストス救世主ノ模範ニ倣ヒ

十一八ノ六(ルカ) 飲食ヲ爲スノ前後ニ神ニ祈禱ヲ獻スルヲ立定セリ
九ノ十六(マトフニ十四ノ十九十 五ノ卅六マルク六ノ四)

且報者タルカ信認シテ食ヲ嘗ムルハ敬虔ノ行ト爲リ天上ノ仁慈ヲ
メニ之ヲ行フベシ(コリンフ前 書十ノ卅一)此ノ祈禱ニ頼リ神ハ乃チ諸賜ノ源タ

シ唯感謝シテ之ヲ受ク(テイモフニ前 書四ノ四)故ニ夫ノ高キ凡民ニ上タル大ニ
開化者ナルヲ見示セントシテ食ヲ嘗ムルヲ自ラ榮視シ凡衆ニ對シテ

祈禱スルヲ自ラ耻ツル異邦人ノ如キ又尙禽獸ニダモ類スル者ハ之ヲ
何トカ謂ハンヤ

二、食ト飲トハ唯我カ本分チ行フコ妨クヘカラサルノミナラス其品質
 ニ至テモ分量ニ至テモ年齢、風土、健康、身軀ノ勞動及體質及其他ニ照依
 シテ本分チ行フコ助ケサルヘカラス飲食チ用フルコ調スルノ普通且
 首ナル規則ハ節制ニシテ其要領ハ**戒食ト禁忌ト**ナリ**戒食**ハ教チ以テ明
 ニスルヲ得タル智慧ノ法ニ循ヒテ食ヲ用フルチ節シ多量ヲ預防スル
 ナリ而シテ禁忌ハ凡ソ醉チ成スノ飲チ用フルチ限制スルナリ

二百四十八「戒食」

生命ト勢力トヲ守ルニ少ク可ラサル者コ於テハ固リ辞スヘカラサル
 ナリ故ニ**貪吝**ニ依リ**自誇**ニ依リ生命チ厭忌スルコ依リ及其他ノ故コ
 依リテ己レニ少ク可ラサルモノヲ奪フ者ハ罪チ犯スナリ然シテモシ
 死チ促スカ爲メニ故ヲニ之チ爲セハ自殺ニ於テ有罪タルチ爲ス然レ

凡食チ用フルニ至ク唯天性ノ嗜好ニ任カスヘカラス宜ク智慧ノ
 法ト教ノ規則ニ循ツテ之チ制止シ之チ管理スベシ此ノ智慧ハ食ノ或
 種類チ節スルト時トシテハ職務上繁劇ノ故ニ依リ食ノ常度チ失スル
 所ノ者ニ健康チ守リ且復セン爲メニ暫時至ク食チ節スルチ命シ若ク
 ハ**究**ニ之チ勸ムルナリ又教ハ我等惡習チ己レニ絶滅スルカ爲メ併ニ
 禁食若クハ悔改ノ時ニ於テ**（コリント後書七ノ十）**他ノ正シキ理由ニ依リテ許サ
 ルヘキ食チモ節制スルチ要ス

戒食ハ身體チ**整輕**シ疾病チ預防シ健康チ保全シ生命チ常存シテ品行
 チ堅固コシ靈魂チ活潑ナラシメテ祈禱ト天上ノ安慰チ受クルニ堪ヘ
 シムルチ爲シ肉チ神ニ服セシムルナリ
 戒食ハ特ニ教會カ我等ニ命スル所ノ禁食ト食ノ制限チ守リテ我等ノ

情欲ヲ殺死スルコト

二百四十九 戒食ニ反對スル弊病

戒食ニ反對スル弊病ハ膏粱ノ味ヲ嗜ムト多食ナリ戒食セサルノ人ハ
 靈形ノ力ヲ傷ヒ己レニ恣情ヲ激シ己レヲ貶シテ殆ト禽獸ニ近カラシ
 ムルナリ聖書ハ此ノ如キ者ヲ嚇スニ重罰ヲ以テス曰ク病ハ多食ヨリ
 ス口腹ヲ縱ニスルハ虎列刺ヲモ感スルニ至ラン(コラフ卅七)使徒ノ
 證ニ依ルニ其腹ヲ以テ神ト爲シ其醜辱ヲ以テ榮ト爲ス(コラフ卅三)者
 ハ必滅スルコト期スルコトヤノ聖イサークハ非時常ニ腹ヲ充ヌスナ
 名ツケテ猪行ト曰フ(訓言七十五ノ)又言フ腹ヲ便スル者ハ神ノ睿智
 ト意思トヲ奪ハルコト(訓言卅八ノ三)
 二百五十 禁忌

禁忌ハ灌醉ヲ成スノ飲ヲ遠サクルコトアリ酒ハ人ノ心ヲ悅ハシ(詩篇百

五)人ノ力ヲ強ウスル者(テイモフエイ前書)ナレハ之ヲ禁スルアテスト雖然

レハ唯尤モ節制シ己ムヲ得サルニヨリテ用フベシ酒ハ人々ニ害アリ

特ニ少年ニハ害アリ凡ソ人ハ自テ戒懼シ灌醉ヲ成スノ飲ヲ常用シテ

習慣トナラシメサラソト要スヘシ故ニ救世主ハ其門徒ヲ誦メテ曰

ク故ニ爾曹自ラ護ムヘシ恐クハ爾ノ心饜欲沈溺及世ノ憧擾ノタメニ

累ハサレテ斯日突然トシテ爾ニ臨マン(ルカ廿一)禁忌ハ我等ノ職分ヲ

行フガ爲メニ緊要ナリ禁忌ハ色慾ヲ控禦シ他ノ情欲ヲモ節制シ在天

聖善ノ望ヲ感激シ有罪ノ欲ヲ趕逐シテ德行ヲ惡ヨリ擁護ス酒ニヨリ

テ其智ヲ昏マシ若クハ全ク之ヲ亡ホス者ニ何ノ善ヲ期スヘクヤ噫

禁忌ニ反スル弊病ハ沈溺ナリ沈溺ハ靈形ノ力ヲ全ク滅シ放肆ノ源由

トナリ(エフエス五)沈酒コリント前者ハ天国ヲ奪ハル(書六ノ十)此レ人間ノ
最怖ル可キ惡ノ一ナリ

二百五十一 衣服ヲ用フル規則

衣服ヲ用フルルコツキテハ左ノ規則ニ注意スヘシ

一 衣服ヲ選ビ且用フルハ謹慎ヲ守リ無益ノ掛念ト奢華トヲ避ケサル

ヘカラス(テイモフエイ前書二ノ九、十)ハリスステアニンオコリハナヤカタル者ノ衣服ハ福

イエロニムノ訓言ニ依ルニ「ハリスステアニン」ガ己レテ献スル所ノ者ノ

徳ト照遵スヘシ我邦ノ或牧師信者ノ衣服ヲ過慮スルヲ戒メテ曰ク「豈

ク美ヲ絶ツテ全ク籃縷ヲ被ルヘカラス衣服ノ美ト又大ニ美ナルニ至

テモ種類階級アリ之ヲ定ムルハ耽愛ニアラスシテ合宜ナリ誇示ニアラ

スシテ榮耀ナリ裝腔ニアラスシテ理ノ當然ト本分ナリ然ルニ掛慮限

無ク榮華度無ク驕奢目的無ク日々妝飾ヲ更換スルハ他無シ此品種ノ

創製ヲ事トスル鄙陋心ヲ有スルノ人ト甚ウシテハ此奴タルノ創製ニ

從効スルノ奴タル鄙陋心ヲ有スル人タルナリ信シ難キノ愚ナリ噫

モスモスクク都主教都主教フイラフイラレトレト五五又我邦他ノ作者書シテ曰ク「ハリスステア

ニン」タル者ハ其衣服教會ノ規程ヲ固ク守ルベシ教會ハ平日平服ヲ衣

テ聖禮ノ日ハ鮮麗ヲ服ス然レモ恒ニ適當ニシテ且禮有リ「ハリスステア

ニン」モ此ノ如ク行フヘシ之レカ服ヲ服セス虚誇ニ不合宜及意ニ隨ツテ

虚飾ヲ張ルハ譴責スヘキナリ

二 衣服ハ風土及我カ強弱ノ度ニ準シ人ノ居ル所ノ位置職業ニ應シ并

ニ男女各其性ニ從フベシ性ニ從フハ貞潔ヲ守ルカ爲メニ緊要ナリ故

ニ聖書ニハ其性ニアラサルノ服ヲ服スルヲ嚴ニ禁ス曰ク「女子ハ男服

ヲ衣ル母レ男子ハ女衣ヲ着スル毋レ凡ソ此ヲ行フ者ハ爾ノ神主ノ指
所タリ(復傳律例 廿二ノ五)

二百五十二 睡眠ニ關スル規則

「スリステフニシ」ハ起キ且寐ヌルコ主神ニ祈禱セサルヘカラス聖教會
ハ其定ムル所ノ早晚ノ祈禱ヲ行フニ方法ト教導トヲ授ク階梯著者曰
ク「其日ノ新初ヲ主神ニ獻スヘシ蓋シ全日ハ初先ヲ占ムル者ニ歸セソ
トス一名工アリ余ニ語ルニ注意スヘキノ言ヲ以テセリ曰ク我レハ吾
カ早晨ノ如何ニ依テ全日ノ間ヲト知スト(訓言廿六)」睡眠ノ前ニ祈禱
スルハ我等ヲ惡鬼ノ攻撃ヨリ捍シカ爲メ不淨ノ夢寐妄想ヨリ衛ルカ
爲メニ欠ク可ラサルナリ蓋シ唯神ノ仁慈ハ我等ノ守護者タル神使ヲ以
テ我ヲ守ル可レハナリ睡眠ハ懶慢ニシテ時ヲ送ルカ爲メニアラス怠慢
ヲ戒ム

娛樂ノ爲メニアラス晝間ノ微醒ヲ以テ倦困シタル力ヲ回復シテ活潑
タルカ爲メニ偏ニ欠ク可ラサル方法トシテ許サル、モノナルカ故ニ

短且淺ナラサルヘカラス教會聖神父ノ訓ニ依ルコ暫時ト雖黑夜ニ祈
禱ニ起キテ睡眠ヲ破ル丁最益アリ大アフナシ曰ク(童貞者ニ遺)中夜

ニ起キテ爾ノ主神ヲ讚揚ス可シ蓋シ我等ノ主ハ是時ニ死ヨリ起キテ
天父ヲ讚揚セリ故ニ我等ニモ是時ニ於テ神ヲ讚揚スルヲ誠命セラレ

タリ(詩篇百十九)聖金口ノ證ニ依ルニ夜間ノ祈禱ハ靈魂ヲ潔ウスル丁
火ノ金ヲ鍊ルト一般ナリ

夢寐ニ關シテ注意スヘキ者アリ曰ク「夢ヲ信スル者ハ全ク未タ事ヲ經
過セサル者ナリ而シテ如何ナル夢ヲモ信セサル者ハ智ニ偏スルナリ
唯其ノ爾ニ苦難ト審判ヲ預示スル夢ヲ信スベシ然シテ設シ絶望悲嘆

ノ爾チ驚動スルアリ若クハ醒メ來ルニ及テ歡喜ト自負トチ感觸スル
アラハ此ノ如キ夢寐ハ是レ魔ニヨルナリ（階梯著者訓言）「ハリステア
ニシ」ノ臥榻ハ質素ニシテ軟熟ナラス奇巧華麗ノ裝飾ヲ省クモノナル
ヘシ（カサリヤン）

二百五十三「ハリステアニシ」ノ容儀

「ハリステアニシ」ハ己レノ容儀態度ヲ舍テ、顧ミサルヲ爲スヘカラス
其外貌ニモ「ハリステアニシ」ノ靈魂ノ飾美タルモノ即チ歡喜、公義、小心、
大膽、愛善、知耻ヲ以テ炳焉燿焉スル者ヲ顯ハサンコト意ハサルヘカラ
ス蓋シ之ヨリ暢遂ナル者アラス（アレクサンドリヤノシリメント）「ハリ
ステアニシ」ニ於テ凡ソ外儀ト舉止動作トハ修メテ他ノ建徳ニ資シル
ヲ爲スヘシ例ヲ以テ言ハ、德行ト神ヲ愛スルノ不言ノ傳道トナルチ

致スヘシ曰ク人燈ヲ燃ソ之ヲ斗下ニ置カス乃チ臺上ニ在ラハ凡ソ在
家ノ者ヲ照ラサン（マトフェイ五）外面舉動ノコト訓ハシリヤノイサ
クノ説教八、八十九ニ詳説セリ

二百五十四「貞潔ノコト及其各種類

我カ肉体ノ性ハ夫婦ノ間ニ在テ遂シル所ノ快樂ニ時トシテ猛烈ナル
情欲ヲ有ス此情欲ハ其賦身ニ依ルコト人間ノ蕃殖ノ爲メニ神ノ與フル
所ナリト雖然レ此ノ天生ノ趨向モ凡ソ物欲ノ偏向ノ如ク我等ハ必
ズ之ヲ制禦シテ神ノ法ニ從ハシメサルヘカラス其レ此ノ天生ノ情欲
ヲ制禦スルハ貞潔ノ徳ヲ成ス

二百五十五「貞潔ヲ守ル本分

人皆己レノ位置ナル童貞、寡婦及夫婦ノ間ニ於テ貞潔ヲ守ルベシ童貞

夫若クハ妻ノ死後ニ已チ守リテ畢生婚姻ノ快樂ヲ避クル
 ニアルヘシ婚姻ヲ成セシ人ノ潔ハ夫婦ノ信ト神ノ法ニ背違スル如何
 ナル肉体ノ快樂モ許サ、ルハリステアニンノ聖潔ノ規則ニ循ヒテ夫
 婦ノ信ヲ守リ夫婦タル者ノ權理ヲ益用スルコアルベシ聖書ニ曰ク淫
 行ヲ避クベシ(コリント前書六ノ十八)乃チ自ラ潔ヲ守レ(テモフエ一)蓋シ神
 ノ施救ノ恩ハ已ニ衆人ニ顯著セリ我等チシテ不敬度ト世俗ノ慾ヲ棄
 テ、自ラ制シ公義敬虔ニシテ今世ニ生チ度ラシム(テイト二)夫レ神
 ノ旨ハ乃チ爾ノ聖潔爾チ淫ヲ戒メンチ欲シ爾チ各々貞潔尊貴ヲ以
 テ己レノ器ヲ守ルチ知リ私慾ヲ以テスル猶神チ知ラサル異邦人ノ如
 シ然ラサランテ欲ス(ソルン前書四ノ三至五コリント前書六ノ十、十三、十五至十九、廿)潔ヲ以テ己レチ

守ルハ永遠ノ救ヲ得ルカ爲メニ緊要ナリ蓋シ不潔ナル者ハ一モ天國
 に入ル能ハサレハナリ曰ク凡ソ不潔ハ之ニ入ルチ得ス(黙示録廿一ノ廿七)

二百五十六 貞潔ニ反スル罪

貞潔ハ充分ニ稱賛スル能ハス然ルニ之レニ反スル罪ノ一モ貞潔者ノ
 耳チ瀆サス或者ニハ情慾ノ念ヲ起サシメサランカ爲メニ全ク已ムヲ得
 サルカ如クシテ言フヘシ貞潔ニ反スルノ罪ハ概シテ色慾ト名ツケ更ニ
 之チ細分スレハ邪淫、姦通ト名ツクルナリ此罪ハ唯貞節ニ反スルノ行
 爲ノミナラズ貪樂ノ思想、不潔ノ思欲、感動、非禮ノ視、汚穢ノ言、懷慾ノ
 接吻及擁摩(マトフエ一五ノ廿八、テモフエ一後書二ノ十二、ローマ十三ノ十
 三、ペートル後書二ノ十八、エフェス五ノ四五、シラフ三ノ五
 廿六ノ十)並ニ天然シ倫序ヲ壞ル猖狂淫ノ行ヲモ含有スルナリ(出
 埃及廿二ノ十九、ウイト十八ノ廿三、ローマ一ノ廿
 六、卅七、コリント前書六ノ九、テモフエ一前書一ノ十)

色慾ハ其類擧テ死ヲ致スノ重罪ナリ(コリント前書六ノ九)蓋シ二神
 ハ人ヲ生出セシカ爲メニ男女兩性ノ人ヲ造リテ之カ交親ヲ定メタリ
 肉体ノ渴望ヲ驕養センカ爲メニアラス是故ニ姦通ヲ行フ者ハ我等カ
 聖潔ナラント欲スル神ノ旨ニ悖リテ其体ヲ用フルモノニシテ聖潔ハ
 邪淫ヲ以テ壞ラル蓋シ此罪ハ聖書ニ特ニ人ヲ汚ス者(マルク七ノ廿一
 ノ三コラス)ト名ツケ實ニ己レ人身ヲ犯スノ罪(コリント前
 書六ノ十八)ト名ツケラ
 ル故ニ聖ナル階梯著者説明シテ姦淫ヲ以テ身ノ本質ヲ汚スハ他罪ニ
 有ル能ハサル所ナリト曰フ(十五ノ四十)二我等ノ身ハハリストスノ奧
 密ノ肢ニシテハリストスノ生命恩寵ノ具トナラザルヘカラサリシニ行
 淫者ハ其肢ヲシテ肉慾ノ奴ヲラジムルナリ(コリント前
 書六ノ十五)蓋シ我カ身ハ
 聖神ノ殿主レハ神ノ聖神ハ肉体ノ不潔ヲ以テ斥逐セラレテ我カ體ヨリ

離レ魔鬼ニ處テ與ヘラルナリ(コリント前書三ノ)我等ハ貴重ノ價ヲ
 以テ贖ハレタリ即チ體トテ以テ神ニ事フルカ爲メニ神ノ子ノ寶
 血ヲ以テ贖ハレタルナリ倘シ聖潔ノ爲メニ贖ハレタル我カ身ヲ肉慾
 ノ醜望ヲ以テ汚サハ主イイススニ對シテ如何ナル干犯ナルヤ(コリ
 ント前書
 六ノ廿同後十五ノ十五)聖書ハ姦淫ヲ以テ拜偶像ト並ヒ列シ(コリ
 ント前書
 六ノ七八)テ姦淫ハ乃チ拜偶像ナル所以ト姦淫ニ頼リテ最頑ナル拜偶
 像及其他ノ假偽虛妄ノ教ニ入ルノ途ヲ啓カルヲ示ス(民數記廿五
 一以下)三肉體ノ慾ニ奴タルハ人ニ大害ヲ醸ス(箴言五ノ四以下)此
 害ハ外面ノ安全ヲ組織スル肉體靈魂ノ幸福ヲ失フコアリ色慾ハ人ノ
 家産、多富、充備、豐盛ヲ奪フテ因貧弱乏ニ至ラシムルナリ曰ク「惟妓ニ
 狎ル者ハ其財ヲ傷ル」(箴言廿
 九ノ三)此ノ箴ハ舊子ノ因貧ナル既ニ其財ヲ傷

盡シ豕食ヲ以テ活ヲ得ルニ至リシヲ以テ見ルヘシ(ルカ十五) 行淫ハ
 唯一箇人ノ一時ノ幸福ヲ奪フノミナラス全都全國ヲ崩解空克ニスル
 ナリ此鑑ハソドムゴモル(創世記十九ノ廿四) ルカ十七ノ廿九 シフェミ城 (創世記卅四)
ノ廿五廿六
 トガソイ城即チ姦淫ノ城ナルカ爲メニ焚燒セラレテウエニアミンノ一
 族ノミ僅ニ存スルヲ得タルコ於テ見ルヘシ(士師記廿) 色慾ハ最有カ
 ナル兵ヲシテ無カタラシムルナリ此ノ如クイズライリ人ノ兵力ハ將
 帥ヲフニ及フイネスノ姦淫ノ爲メニフリスタムリヤンノ征服スル所
 ト爲リ(サムイル前) オロフェルムハ唯肉體ノ意志思欲ノ爲メニ自己ト
 其ノ托セラレタルアシリメ兵トキ亡セリ(イフデフ十二ノ十) 放肆ナ
 ル行淫者ハ身健、面美、眼明、音和、活潑、勇毅、堅固及勢力ヲ失ヒ汚穢ノ疾
 ノ發スルアレハ姦ニ之ヲ失フ即チ飽クチ知ラサル蟲子ノ身體ヲ蝕スル

如ク足ヨリ頭ニ至ルマテ疥癬ヲ蒙フリ惡臭ヲ發シ人ヲシテ棄ノ厭棄
 スル所トナラシメ之ヲ避ル狂惡ノ害ノ如クナラシメントス(聖アイミ)
トレイイ文
 集二分額) 終ニ行淫者ハ已レノ年壽ヲ亡ホシ早ク老イ且死ス(四) 内部靈
 魂ノ幸福ハ姦淫ニヨリテ削少セラル即チ記性ヲ撓屈シ智慧ヲ昏迷シ
 意ノ自主ハ行淫者ノ意愛ノ奴タルヲ爲ス(エズヤラ第二) 羞耻ヲ至ク喪
 フナリ此クノ知クアラエスサロンハ兼イズライリノ目前ニ當リテ其父
 ハ妾ト同寢ス(サムイル後書) 階梯著者ノ證ニ依ルニ慢不經心、失神、無
 智及昏盲ハ淫行ヨリ起ル此レ其姦淫ヨリシテ貞潔ニ至リ其意ニ任セ
 テ裏言シタルヲ止メ無耻ヨリ翻覺セシ者ハ最分明ニ之ヲ知リ心性ノ
 醒ムル迷謬ノ終ハル若クハ尙善ク之ヲ言ヘハ迷謬ヲ判斷シタル後
 體キニ朦昧ニ在リテ言行セシ所チ内ニ自ラ耻ツル者モ之ヲ知ルナリ

(訓言廿六) 荒淫ノ人ハ良善ニシテ神ニ悦ハルモノ行テ漸々ニ撓ハマ

シテ換フルニ之ト反對ナル者ヲ以テス (智慧書四) 此罪ニ溺レシ者ハ

神ノ恩寵ト天國トヲ奪ハル神ハ姦淫者ヲ懲スニ極罰ヲ以テス (民數記

以下コリント前書六ノ九サムイル後書十三) 二十五エウレイ十三ノ四黙示錄廿一ノ八

二百五十七) 貞潔ヲ守ル方法

智慧ヲ賦與セラレ神ト體合スルカ爲メニ造ラレイイススハリストス

ノ寶血ヲ以テ贖ハレタルノ人ニシテ唯其ノ之ヲ書スルノミナラス之

ヲ口言スルサヘモ尙耻ツ可キ汚穢ノ極ニ陷ラントハ思ヘバ痛惜セサ

ル能ハサルナリ肉體ノ罪ニ傾クノ偏向ハ原罪ヨリ流レ來ル首惡ノ一

ニシテ時トシテ最堅固ナル人モ不意ニ跌落シ久シク無玷潔白ヲ持セ

ル者モ肉體ノ罪ニ拘禁セラレテ回復ヲ期シ難キ程強盛ナル者トナリ

ルハ己レヲ此罪ヨリ預防セヨハ大ニ苦戰タルヲ要ス此亡滅ノ罪ヲ

脱セシト欲スル者ハ(一)凡ソ汚穢ノ念ニ抗敵セサルヘカラス蓋シ肉體

ノ望欲ハ數々生シテ愈々之ヲ喜ブ程ハ其望欲ハ益々^{オヨボ}起シテ人ヲシテ

容易ニ之カ奴カラシムル程弱ナルヲ致ス(二)情欲ノ意念ノ侵シ來ルア

ラズ心ヲ幾微ゾ念頭トイヘモ神ニ隱ル、能メスシテ主ハ意念ト

行爲ヲ都テ鞠シテ審判ヲ定ムルノ一ヲ深ク自ラ思フヘシ我カ主ニ與

ヘタル許願ヲ我レニ想起シテ貞潔清淨ニ止ルヘシ曰ク人若シ己レノ

此ノ汚穢ヲ察スルアラハ時トシテ其ノ我カ服スル所ノ羞耻ト醜事ト

ヲ顯ハスヲ益アラ^{ツラノコル}(三)惡ナル交際ト好色ノ言談發動ト肉

體ノ慾ヲ起ス可キ頭筋ノ機會ヲ避ケサルヘカラス (イオウ卅一ノ一サ

ニ以下^{マトフニ}廿九三十) 四修道者聖ナルヲ欲シ依ルニ唯色慾ヲ鎮スルノミナラ

大好貨、誇示、貪利、讎怨、不平、多言及諸惡ヲ止メサルヘカラス五飲食ニ節制ヲ守リ特ニ沈湎ヲ斷スルヲ要ス(エフニス五)此レ唯肉体ヲ弱ハマスカタメノミナラス乃チ多食ノ爲メニ昏憤シタル智慧ヲシテ思念ヲ觀察スルニ弱ナラサテシメンカ爲メナリ(聖カシアノ八思)六特ニ謙遜ヲ失ハスシテ主神ニ我等ヲ潔キニ守ラント祈禱スルヲ要ス神智ヲ得タル人ノ證ニ依ルニ曰ク「蓋シ姦淫ノ心ハ人ノ此ノ病ヨリ救ハル、テ得テ潔淨ノ高キニ登ルハ己レノ勞ト已レノ苦行トヲ以テセスシテ神ノ保庇ト扶助トニヨルコト實ニ衷心ニ確信セサル間ハ人ニ於テ爭戰シテ息マサルナリ故ニ若シ神ノ恩寵ノ人ヲ不潔ノ渴望ト情慾ノ汚泥トニテ拔クアラスンハ高飛シテ神使ニ倣フ者トナルハ人ニ能ハサルナリ」(聖カシア)「ヨリヤノイサ」ト祈禱スルキキ命シテ曰ク「主ヤ爾ハ有能ト同上」

ニレテ功勞ハ爾ニ屬ス主ヤ爾ハ戰ツテ勝タレヨ(ソラノニル)聖ナル階梯著者教ヘテ曰ク「巧言ヲ以テセス乃チ謙遜ノ辞ヲ以テ爾ヲ救フ可キノ能者ニ呼テ曰フベシ主ヤ我ヲ矜レメヨ我レハ弱ナレハナリト然セバ至上者ノ能力ヲ覺知シ來リテ見ル可ラサルノ敵ヲ逐ハントス常ニイイススノ名ヲ以テ敵ニ當ルヘシ蓋シ天上地下之ヨリ有力ナルノ器仗ヲ看サルナリ」(訓言十五)

第四章

外面ノ幸福ニ關スル本分ヲ論ス

二百五十八 此世ノ幸福ノコト

富ト名譽トハ外面ノ幸福ニ屬ス此世ノ幸福ト之ヲ求メントスルノ念トハ動モズレハ靈魂ノ救ノ爲メニ危險ヲラントス夫レ「此世ノ幸福

ノ靈魂ノ開育ヲ妨クルハ一ハ其ノ遠ケントスル物欲ノ快樂ト解悶ト
 ナリテナリ一ハ其ノ富ト富マント欲スル^{ソルカシコキ}森積ナル希望ヲ我等ニ激動
 スルヲ以テナリ「日ク棘中ニ播シ者ハ是レ道ヲ聽ケル今世ノ慮、貨財ノ
 惑、其道ヲ蔽フテ實ヲ結ハサル者ナリ」^{マトフエイ十三}「二富ハ其ノ之ヲ
 有スル者ノ或ハ鄙吝ニ或ハ驕傲ニ或ハ無度及驕奢ニ又此ヨリシテ起
 ル無數夥多ノ放肆ニ端ヲ與フルナリ」三富者ハ天性ニ悖ル大ニ過度ナ
 ル偏向ヲ想出ス即チ凡ソ至善至良ナル要求ヲ^{カタクキ}夾攻壓壞シテ自ラ人意
 ノ極メテ陋劣ナルヲ引誘セントスルナリ日ク「富有チ圖ル者ハ誘惑ニ
 羅網ニ多ク理無クシテ害有ルノ慾ニ陷ル即チ人ヲ滅亡沈淪ニ瀕ラス
 者ナリ蓋シ好利ハ萬惡ノ根ナリ曾テ之ヲ慕フ者アリ而シテ信ヲ疑
 マル是ヲ以テ多苦自ラ刺ス」^{タイモフエイ前書}「蓋シ爾ノ財ノ在ル所ニ爾

ノ心モ亦必ス在ラズ」^{マトフエイ}「六ノ廿一」四富ハ人ニ主タルノ情慾ヲ薄スカタ
 メ特ニ色慾、好名報復ノ心ト慕求トチ充タスカ爲メニ有力ノ方便タル
 ナリ「五」已レチ富マサズトスルノ心欲ハ邪惡不義及種々ナル惡害ヲ世
 ニ入ル蓋シ財ヲ獲ンガ爲メニ不合理若クハ尤不正ナル方法ヲ用フル
 丁數々ナレハナリ例之ハ欺騙、賭博即チ情欲ヲ煽熾シテ貴重ノ時日ヲ
 削殺スルモノ、如キ葛藤即チ後ニ至ルマテ爭者互ニ敵視スルモノ、
 如キ賣買ノ欺騙、強奪ノ計即チ人ヲ害スルカ爲メ又人ヲ害シ勞セスシ
 テ已レチ富マサンガ爲メニ各種異類ノ人ノ結合スルモノ、如キ是ナリ
 「二百五十九」此世ノ幸福ヲ獲ルノ必要
 然リ而シテ此世ノ幸福ハ求メサルヲ得ス蓋シ財貨ハ衣服ト居住ヲ營
 ムカ爲メニ必要ナレハナリ「主モ自ラ此世ノ幸福ヲ求ムルヲ許容ス

出埃及記廿ノ十五カ富ハ神ヲ愛スル者ニ許シ且與ヘラル、神ノ恩
 エフエス四ノ廿八惠ナリ箴言十八ノ十七十八サ自己ノ爲メ及ヒ其一家ノ爲メニ少ク
 可ラサルノ物ヲ求メサルハ耻ノ至リナリ富ハ窮ヲ顧フノ貧者ニ方
 法ヲ與ヘテ之ヲ満足セシメルソノ助ケヲ失ヒテ絶望セル者ノ心ニ安
 慰ヲ注クヲ得ベシ衆人ニ罪ヲ避ケシメテ寡婦孤兒ノ心ニ信ヲ堅メ勞
 者ヲ屬マシ作善ノ業ヲ維持スルヲ得ベシ

二百六十

己レニ害無ル可キカ

此世ノ幸福ヲ獲ルノ靈魂ノ救ニ妨ケ無ラシメンコハハリスステアニシ
 タル者

一之ヲ獲メカ爲メニ無法有罪ノ術策ヲ用ヒ近者ニ不正ヲ行ヒ孤寡ヲ

欺侮シ無法ノ爭ヲ生シ奸猾、妄証欺騙、不義及假偽ニ趨クヘカラス蓋
 シ不義ニシテ獲ルハ主神ニ悖ルナリ之ニ反シテハリスステアニシタル
 者ハ唯正シキ方略ヲ用フヘシ其中首ナル者ハ勞苦ナリ出埃及記廿ノ
 書三ノ八九エフエス四ノ二十八三ツルン三ノ十一

二ハリスステアニシハ或不合宜ナル若クハ唯無益慾ヲ嗜ム一時ノ目的
 ノ爲メニ此世ノ幸福ヲ願ヒ且求ムヘカラス

三ハリスステアニシハ究竟此世ノ幸福若クハ貨財ニ多ク倚頼シテ之ニ
 其心ヲ絆ツナカルヘカラス蓋シ凡ソ此世ノ幸福ハ腐敗ニシテ且數々無ニ
 歸シ經驗ヲ以テ證スル如ク其ノ我カ全家産ヲモ喪フコアリ又彼ハ我
 等ニ幸然ノ生命ヲ與ヘスシテ翻ツテ富者ハ往々費心煩惱、疾病ヲ以テ
 生ヲ送ルナリコリントスノ一ノ九

四 倘シ人其ノ家産ヲ大半喪ヒ或ハ全ク之ヲ喪フコト有ラハ此ニ由テ主
 神ノ旨ヲ認メテ其ノ聖ナル照鑒ニ任シ毅然トシテ忍耐シ極メテハカリ匱窮
 スルモ神ニ依托スルヲ舍テスンテ其ノ聖名ヲ榮スヘシイオウ（一）蓋シ
 地上ノ幸福ハ幸然ノ生命ヲ給セサレハナリ即チ我心ニ眞實ノ安慰ヲ
 與ヘスシテ靈魂ノ救ノ爲メニ緊要ニアラサレハナリ
 五 夫レ竭力用功ヲ爲スノ力量才能ハ我等之ヲ神ヨリ受ケ神ハ獨リ之
 ヲ守ルヲ得ヘクシテ神ノ照鑒ハ世界ニアルモノヲ盡ク治管セサルナ
 シ神ノ允許ナクシテ我等ノ全勞ハ徒然ナルツカサト（詩篇百七ノ一 箴言十ノ廿
 十ノ二）ニヨリ「ハリスデアコン」タル者ハ地上ノ幸福ノ己レカ爲メニ欠ク
 可ラサルモノヲ遺ハサレシテ神ニ願フヘシマトフニイ（六ノ十一）然リ而シテ
 制限ナクシテ之ヲ願ハス制限ヲ以テスヘシ即チ唯神ノ悦フ所ニシテ

我カ靈魂ノ救ニ妨ケテ爲サスノハ之ヲ已レニ遺ハサレシテ神ニ祈
 求スヘシ

六 終ニ「ハリスデアコン」ハ倘シ神ガ已レニ賜フニ此世ノ幸福ヲ以テセ
 バ此ノ幸福ハ已レノ有コアラヌシテ神ノ有ナルコトヲ究ムニ忘ルヘカテ
 サルナリ神ハ其ノ睿智至善ニシテ殆ド人ノ測ル可ラサル先見ニ應ス
 ル時ハ其ノ悦フ所ニ循ツテ之ヲ其人ニ賜フナリ蓋シ使徒イアコフ曰
 シ「凡ソ善賜善賜ハ皆上ヨリ光明ノ父ヨリ降ルナリ」（イアコフ）他ノ聖
 使徒曰シ「爾ナ何ノ未タ受ケサル者アルガ爾ヲ若シ之ヲ受ケハ胡爲レ
 シ未タ受ケサル者ノ如クニ誇ルヤ」（コリシフ前書）凡ソ我カ費心ヲ極
 メ我カ勤工ヲ盡スモ我等ハ此世ノ幸福ヲ獲サルコトノ數々ナルハ既ニ
 實験ニヨリテ知ル所ナリ故ニ我カ此世ノ幸福ヲ眞ニ司ル者ハ我等ニ

アラステテ乃チ神ナリ而シテ神ハ我等ニ神ノ所有ヲ用ヒシコト於テ
 嚴ニ揭算セシテ要スルナリ(サムイル前書廿二ノ十二至廿六ルカ十六)
 神ノ我等ニ地上ノ幸福ヲ與フルハ我等之ヲ神ノ事ニ用ヒテ神ヲ榮セ
 ンカ爲メナリ所需者ニ備辨シテ之ヲ慰藉セシカ爲メナリ且我カ私ニ
 充ツルモ眞ノ窮乏ノ爲メナルニ因ルナリ聖大ワシリイ曰ク爾ナハ何
 ノ爲メニ財産ヲ得ルカ理由ヲ言フベシ生活ノ爲メニ應用ナル者ヲ我
 等ニ分ツニ均シカラサルノ神ハ現ニ不公平ナルカ何爲レソ爾ハ富ソ
 テ彼ノ人貧ナルカ此レ豈果シテ爾ハ正直ト眞實ヲ以テ家ヲ治ルカ爲
 メニ其報ヲ受ケテ彼レハ忍耐ノ爲メニ酬ユルニ大賞ヲ以テ尊ハルニ
 因ルナカラシカ(大ワシリイ文集四卷九十六)
 二百六十一 無私心

所有ハ之ヲ其中ヨリ貧者ニ割與スルト其他神ノ悦フ所ノ事ト故ノ事ニ
 用フルヲ以テ幾多ノ善ヲ作シ得ベシト雖樂貧若クハ無私心ナル者ハ
 高ク明濟ノ上ニアルナリ(シリヤノイサーク訓言五十六)無私心ハ最上
 完全ナル行ナリ救世主曰ク爾ヲ完全ヲ欲セハ往テ所有ヲ售リ以テ貧
 ヲ濟ヘ(マトフエイ十九)蓋シ一階梯著者イオアンノ證ニ依ルニ無私心
 ナル者ハ「勞苦ヲ舉ケテ神ニ獻シ信實ヲ以テ諸物ヲ獲テ之ヲ己レニ奴
 ラシムル世界ノ督有者ナリ」ニ無私心ナル者無欲ノ子ハ其ノ己レニ
 有ル所ノ者ヲ視ル有ラサルカ如クシテ萬物ヲ塵芥ニ歸セリ三無私心
 ナル人ハ祈禱ノ時ニ於テ潔淨ナリ(訓言十七ノ二三四)四無私心ハ衆
 惡ヲ預防シテ節制ヲ教フ(シリヤノイサーク訓言二百)故ニ信ト
 敬虔ノ眞實ナル功勞者ハ神カ其所有ヲ全ク奪フアルモ神ニ感謝シ實

ヲ視テ己レノ富ト爲スナリ(大アントノイ正教歴史一千八百五十四年東ノ修道者ノヲチ看ルベシ)使徒
ハ窮セリ神母ハ極メテ窮セリ救世主ハ自ラ首ニ枕スルノ所有ヲサリ
キ

二百六十二 此世ノ幸福ヲ獲得使用スルニツキ罪ノ
此世ノ幸福ヲ獲得使用スルニツキ罪ハ左ノ如シ

一 貪婪ナリ即チ家業ヲ獲ルニ過キテ趨往スルナリ此惡ニ染ミタル
者ハ大ニ富ヲ獲ンテカメ之ヲ獲ンカ爲メニ百方計ヲ盡シ不義ヲ行ス
テ數々ナリ神ト近者ニ對スル本分ヲ抛ツテ時ヲ全ク貨利ヲ聚ムルニ
費シ其ノ望ヲ全ク之ニ委シ獲ル所ヲ以テ究ニ足レリトセスシテ恆ニ
愈々多カクソチ渴想シ万事ニ嫉妬シテ尙シ其ノ喪失ニ遭ラレハ怒
極リテ數々絶望悲嘆スルヲ爲ス貪心者ハ凡ソ唯目ノ見ル所ノ者ヲ願欲

送目ク目視ルニ飽シ能ハス(傳道之書一ノ八)故ニ好貨ハ其ノ得ル所ヲ以テ足レ
リトモス陰府ハ足ルヲ言ハス(箴言卅一ノ十六)貪吝モ究ニ足ルヲ語ラス

「リスデアニ」ハ己レヲ貪心ト好貨ヨリ百方護守セサルヘカラサル
ナリア蓋シ貪心ト好貨トハ使徒パウエルカ言フ如ク萬惡ノ根ナリ(テイモ
フエイ

前書六 蓋シ彼レハ憎惡、搶竊、嫉妬、不和、敵讎、憂悶、懷恨、殘心、殺害ヲ生
スレハナリ(階梯著者訓言十七ノ十四)彼レハ亦至大ノ衰潰ナリ蓋シ彼レハ拜偶像

カレハナリ(コロス四ノ五)カ貪心ハ神ノ嚴禁スル所ナリ(マトフエイ六ノ廿四
マトフエイ七ノ廿一)

レハ(マトフエイ十三ノ五)サ大愚ハ産業ヲ領有シテ之ヲ益用セサルナリ(傳道之
書六ノ
二五)貪婪者ハ許多ノ無益ナル費心ノ爲メニ累ハサレテ究ニ身心ノ

安ヲ得ル無シ(傳道之書九ノ十一)ナ富ハ人ノ權ニアラス(詩篇百廿七ノ
三ノ十)故ニ我等ハ身自ラ一物ヲモ此ニ致ス能ハスヤテ何人モ其所有ヲ

益スルノ幾何ヲ存スルカ(ルカ十二ノ)ヲ知ル能ハサルナリハ人倫ニ世
界ノ財寶ヲ獲盡スモ其生命ヲ喪ハ、何ノ益モアル無ラン貪吝者ハ往
々皆是ナリ

二浪費ナリ即チ所有ヲ花散スルニ分限ノ許ス所ヨリモ越ユル習慣ナリ
此ノ惡ハ尙ナ者ハア(浪費ハ色慾ノヲメニ種ヲ興フルト)(ルカ十六カ)一

箇人ニ家、城、民、子孫人間ノ幸福ノ爲メニ腐爛ノ如クナル華奢ヲ増殖
スルノヲ思量スベシセ(浪費ハ人ニ許サレタル幸福ノ揭弊ヲ興ヘサ
ルニカラサルモノヲ妄用スルナリタ)之ニ次クニ極窮(ルカ十五)ヲ以テ

不即チ浪費者ノ往々亡フル所ノ者ナリ
二百六十三 名譽ヲ論ス

名譽ハ何人ニ得ハル才能品行、志匠及外面ノ事業ニ於テ多クノ人ニ稱

シセラルハチ得テ他ニ對シ特尊チ有スルニアリ

二百六十四 人ノ己レチ善ニスルヲ得テ感ルハリスチアニ

ハリスチアニ「他人ノ己レチ善ニスル即チ名譽ナル者チ求ルニ必
ス心チ用ヒサルヘカラス」(箴言廿二ノ一廿五ノ廿五傳道之書七ノ)名譽

ハ我等チ善カ靈魂ノ力ヲ開育スルニ屬マシ衆人ノ爲メニ淳良ナル徳
義ヲ恪守セシムルノ有力ナル起因トナリ人ヲ大事ニ屬マシ人ノ爲メ

ニ公業ノ域ヲ廣ウシ人ヲ支柱シテ重大ノ計チ成シ發憤シテ本分ヲ
完ウセシムルヲ得ルニ終ニ名譽ハ他人チモ勸厲シテ我等ト共ニ善行

ニ相就セシメテ我等自ラモ己チ尊視スル善良ナル人々ノ信任、愛悅、慈
愍ヲ得來ラントスルナリ此ニヨリテ名譽ハ人ノ生命ヲ裝飾スル幸福

二百六十五 此ノ本分ノ制懐

然ルニ名譽ヲ得ンテ慮ルニ未過ナルハカラス蓋シ名譽ハ人ノ外界ニ在リ故ニ我等ノ權中ニアラスカ名譽ハ凡ソ人ノ擬議上ニ勢力ヲ有スル者ニ係ル即チ私心、偏向、嗜好及偏見ニ係ルナリ故ニ名譽ハ人ノ擬議ノ如ク常無キナリサ我等此世ニ得ル所ノ最大名譽ハ毎ニ處ト時ノ區區ニル域ヲ以テ界限スルナリ然ルニ設ヒ全世界ニ萬世ヲ亘リテ長久セシモ遂ニ我カ靈魂ノ安ヲ得ルカ爲メニ何ノ益モアラサラントス名譽ハ我等ニ一モ加フル所アラス他ノ擬議ハ我等ヲシテ善者トシメス又惡者トシメス也衆人ノ尊敬ニ乘スル者ハ并テ衆人ノ忌嫌、嫉妬、輕侮ニ伏スルナリ

二百六十六 好名

尙シ名譽ヲ欲スルノ望カ心ニ主タルハ之ヲ好名ト名ツク
 徒名ハ既ニ心ニ主スレハ唯諸善ヲ毀アルノミナラス眞福ノ諸源ヲ害スルモナリ好名ハ自知ノ心ヲ奪フ自知ノ心ナクハ眞福アル無シカ
 好名者ノ計成ラスシテ尊敬ニ代フルニ輕侮ヲ以テ達ヘラル、時ハ其靈魂ハ見在ノ陰府ナリサ好名ノ心カ人ニ主スレハ其人ハ他ノ生命ノ和順ヲ以テ恬喜スルヲ妨ケ其欺誑ヲ以テ凡ソ其身邊ニ在ル者ヲ苦シメ天ノヨリ其ノ己レニ屬セサル所ノ尊敬ヲ貢稅ノ如ク強求セント欲ス好名者ハ人ヲ眩シ議誣シ且譏諷ス
 好名ハ他人ノ關係ニモ害アリア近者ハ我等ノ尊敬ヲ強求スルヲ見バ我々尊敬スル心ヲ全ク失フナリ我ガ爲メニ賢者ヨリ愛ト名譽トヲ得

此種溫柔ニシテ己レノ尊貴ヲ忘ルルニ若クモノ有ルナキナリカ爾
 等最好名ヲ求者ハ他ノ好名ヲ容ルル能ハズヤ究竟スルハ其心ハ
 尊貴ヲ以テ賤卑ト爲スナリキ若シ人ハ最好ノ其才ヲ使用シテ偏ニ名
 譽ヲ索メハ其所行ノ價格ハ汚穢不潔ノ心意ヲ以テ推下セラルヘシ若
 ク則チ人ハ尊敬名譽ヲ他ニ求メスニテ自喜自樂ヲ以テ自ラ足レリト
 然ルレバ彼レ身自ラ賞スルナリ好名ハ此情ニ染ミタル人ノ信ヲ滅盡
 スルナリ爾曹ハ互ニ榮ヲ相受ク豈能ク信スルコトヲ得ンヤ
 (イオアソ五ノ四十四)
 二百六十七 人ニ善ミセラル、ヲ得ルノ規則
 夫レ名譽ハ人ノ道德上ノ幸福ニ關係スル此ノ如クナラハ己レヲ善ミ
 セラルキヲ得ント欲スル者ハ左ノ規則ニ導ヒカルヘシ
 ア蓋シ名譽ハ我等ノ權中ニアラスシテ唯其ノ之ニ應スル者トナルナ

得ルハ我等ニ屬スルニヨリテ名譽ソコハ過慮スルヲ須ヒサルナリ而
 ノ人ノ擬議ニ漠然タルノ心ヲ良善、尊正、稱讚ス可キノ行ヲ行フノ熱望
 共ニシテ其ノ之ニ應スル者トナルニ愈々心ヲ用フヘシ (コリソフ前
 フイリソフ四ノ八)

カ蓋シ人ノ擬議ハ此ノ如ク不定無常ニシテ彼此相抵觸シ之ヲ譽ムル
 者之ヲ毀ムルモ一定ノ議タル能ハサルニヨリテ「ハリステアニン」ハ宜
 キ己ノ靈魂内部ノ徳ヲ建テ、夫ノ君子ヲシテ若シ靈魂ノ内部ト凡ソ
 我カ立意、思想及行爲ノ唯神ヲ榮スルト近者ト自己ヲ救フニアルヲ伺
 見セハ肯テ之ヲ敬重セサル能ハサレシメントテ慮ルベシ (イオアソ十
 ノ廿三) (コリソフ前書四ノ五) (イオアソ十三
 ノ廿三) (蓋シ名譽ヲ欲スルノ情ハ一方ヨハ或駐ン可キノ行ヲ止ムルヲ得ト

自一方ハ名譽ハ自ラ人チシテ念々善ナラシムルヲ致ス者コアラサ
 ルカ故コ「ハリスステアニン」タル者ハ神ト良心ノ己レヲ知ルチ以テ足レ
 リトスベシ人ハ其ノ凡ソノ平安ヲ破リテ人ヲ諸善ノ太源ヨリ遠サク
 ルノ好名心ヲ滅サ、ル間ハ良心ノ安然ヲ得ル能ハサルナリ（マトフエイ十
 一ノ廿二）
 然レ當然コ受クヘキ所ノ名譽ト價格ヲ受ルコトハ「ハリスステアニン」コ恒ニ
 有ルコアラサ翻ツテ世ハ數、ソシリヘツカシメトカ虚言、凌辱、答責、及窘逐ヲ以テ之コ負ハシ
 ムルナリ其ノハリストスノ法ト合ハサル世ノ要求ヲ藐視スルカ爲メ
 コハ特ニ然ルナリ曰ク「人能クニ主コ事フル無シ」（マトフエイ六）故コ世ノ
 友トナラント欲スル者ハ神ノ敵トナル（イアコフ）「ハリスステアニン」
 ハ救世主ノ既ニ我等ニ先チテ世ノ恨怨ト又其ノ我等ニ觸犯スルヨ
 ンモ念々耐シキ者スラ忍耐セシメテ記スベシ曰ク「世若シ爾ヲ惡マハ

爾ハ知ルヘシ已ニ爾ヲ惡ムニ先チテ我ヲ惡ムチ（イオアン十）故コ世
 ノ爲メニ嫌惡セラル、「ハリスステアニン」ハ「ハリス」トスノ途ヲ踏ミテ
 ハリストスカ飲ム所ノ杯即チ拯救ノ杯チ飲ムチ以テ自ラ慰スヘシカ
 主ニ違逆スル世ノ恨怨ハ主カ凱旋シテ榮コ入ルヲ以テ癡滅シ「ハリス
 テアニン」ニ敵スル世ノ恨怨ハ其極ノ如何ナルモ眞理ハ「ハリスステア
 ニン」チ義トシテ愛ハ勝チ奏シ生命ハ復活スルチ以テ自ラ慰スヘシサ此
 チ以テ主イエイススハリストスニ肖ルヲ得テ之カ爲メコ主ヨリ大ナル
 賞ヲ天ニ備ヘラル、チ以テ自ラ慰スベシ曰ク「人我カ爲メコ爾ヲ誦
 シ爾ヲ迫害シ且諸惡ヲ妄言シテ爾ヲ謗ラハ爾チハ福ナリ爾宜ク欣喜
 歡樂スヘシ天ニ在リテ爾チ得ル所ノ賞大ナルチ以テナリ」（マトフエイ
 五ノ十一）

第三段

「ハリスチアニ」ノ近者ニ關係スル本分

二百六十八」近者ニ關係スル本分

我等ハ各々神ノ爲メニ造成セラレタリト雖然レモ我等ハ總テ一家ヲ成シ又一体ヲ成ス蓋シ我等ハ諸肢ナレハナリ故ニ曰ク「身分爭ナクテ諸肢相爲メニ顧扶スルヲ致スヘシ若シ一肢苦ヲ受クレハ諸肢同ク憂ヒ一肢榮ヲ得レハ諸肢同ク樂ム」(コリント前書十) 故ニ「ハリスチアニ」ハ神ト自己ニ關係スル本分ノ外復タ近者ニ關係スル本分ヲモ知リ且行ハサルヘカラス

二百六十九」近者ニ關係スル本分ノ主眼及精神

凡ソ我等カ近者ニ關係スルノ主眼精神ハ主イエススハリストスノ誠

命ト其ノ模楷ニ循テ近者ヲ愛スルニアルナリ主曰ク「爾ハ相愛スル我レ曾テ爾ヲ愛スルカ如ク然ルヘシ是レ我カ誠メナリ」(イオアン十) 神

學者聖イオアン曰ク「愛スル所ノ者ヤ若シ神ハ我等ヲ愛スル此ノ如ク

ナラハ我等モ相愛スヘシ」(イオアン一) 使徒ペートル書シテ曰ク「最要

ナル者ハ彼此切ニ愛スヘシ」(ペートル前書四ノ八) 使徒パウエル曰ク「人ノ債ヲ負

フ勿レ惟相愛スルヲ以テ負フヲ爲セ蓋シ人ヲ愛スル者ハ律法ヲ尽ス

ナリ」(ローマ十三ノ八、ローマ十二ノ十參看コリント前書) 聖金口使徒

ノ此言ヲ解明シテ曰ク使徒ハ眞福ノ母ヨリ諸徳ノ師傅タリ且之カ成

全者タル愛ニ向クテ言ヲ爲ス愛ハ一時ノモノニアラスシテ永久ナル

我カ債ナリト蓋シ使徒ハ此債ノ竟ニ還清スルアラス常ニ之ヲ還スト

雖至キニアラスシテ我等至ク尙債ヲ存センヲ欲スルナリ蓋シ此債

ハ不斷ニ之ヲ還セト竟ニ還清セサルノ性質ナレハナリ使徒ハ既ニ愛
 スヘキ所以ヲ語ケテ更ニ人ヲ愛スル者ハ律法ヲ盡スト曰ヒテ愛ノ有
 益ナルヲ見ハス故ニ此レヲ思愛トシ視ル母レ盡ク此レ債ナリ爾ハ兄
 弟ト生命ノ親ニ依リ且啻親ノミナラス我等ハ復タ相爲メニ諸肢ナル
 ニ依リテ必ス之ヲ愛サ、ルヘカラサルナリ若シ我等ニ愛アラズンハ
 体ニ合成ハ至ク劈爛スルナリ故ニ兄弟ヲ愛スルニ蓋シ兄弟ヲ愛シテ
 益ヲ獲ハ即チ此ヲ以テ全律法ヲ盡セハ爾チハ已レニ作善セラレシ者
 トシテ必ス兄弟ヲ愛サ、ルヘカラサレハナリ
 二百七十 近者ヲ愛スルノ價值及重要
 主イエズスバリストスハ或學士ノ何チカ諸師ノ首トナスノ問ニ答テ
 曰ク諸師ノ首ト云ク爾チ心ヲ盡シ性ヲ盡シ意ヲ盡シ力ヲ盡シテ主

ナル爾ノ神ヲ愛スヘシ此レ首師ナリ其次モ亦之ノ如シ即チ鄰ヲ愛ス
 ル己ノ如クスヘシ爾未タ此二ノ者ヨリ大ナルアラス(マルク十)ト聖
 金口説ヲ爲シテ曰ク視ヨヤ主ハ近者ヲ愛スルコト何等ノ高上ノ位ヲ
 與ヘタリシゾ何者カ此ノ如キノ仁慈此ノ如キノ謙屈ト比スルチ得ン
 主ハ我等ヲ距ル無限ナリト雖然レハ神ハ我等ノ相愛ヲ神ヲ愛スル
 ニ亞キテ彼此ヲ名シケテ如ト曰フ故ニ彼此ノ愛ノ爲ニ幾ト同様ナル
 ノ度ヲ定メテ神ヲ愛スルチ爲スチ爾ハ心ヲ盡シ爾ハ性ヲ盡スト曰
 而シテ近者ヲ愛スルチ爲スチモ亦己レノ如クスベシト曰ヘリ(ロマ書
 講説二)
 三十 聖書ハ總テ近者ヲ愛スルノ重要ナル事ヲ證ス則チ言フ近者ヲ愛スル
 者ハ全律法ヲ尽スト(コリナ十)又言フ近者ヲ愛スルチ以テ我等ハ神ニ
 肖ルチ教メテ神學者イオザンノコト話有ク彼レ其書ニ於テ特ニ近者

ヲ愛スルヲ勸ム此使徒己ハ高老ニ及ンテ居常愛ヲ告クテ曰ク小子ヤ
 相愛セヨト人有リテ彼ニ其ノ常ニ此誠ヲ想起セシムルノ何故ナルヲ
 問ヒタルニ彼レハ答テ人之ヲ行ハ、此一ハ以テ救ノ爲メ足レリ
 ト曰ヘリト（福音書解）近者ヲ愛サスハ神ヲ愛スルヲモ能
 ハス曰ク人若シ神ヲ愛スト宜テ其兄弟ヲ憐マハ是レ義者タリ己ニ見
 ルノ兄弟ヲ愛サス何レ能ク未ダ見サルノ神ヲ愛サン神ヲ愛スル者ハ
 亦其兄弟ヲ愛スヘシ此ノ誠ハ我レ曾テ彼レヨリ受ケタリ（イオアン一
 書四ノ廿廿一）
 一（聖イオアン金口曰ク使徒パウロ言フ尙シ近者ヲ愛スルナクシハ神
 ヲ愛スルニヨリ多ク益ヲ見スト人ヲ愛スルヲバ言フ人ヲ愛スル者ハ
 亦我ヲ愛ストハリストスモ亦此ヲ顯ハセリ教法師ニ告ク之ハ如クヌ
 ベシト又ペリトルニモ書ク若シ我ヲ愛セハ我ヲ慕テ救セヨト（イオ
 アン一）

廿一ノ十六講説廿三

二百七十一 近者ニ關スル本分ノ教ノ分
 愛ハ一ナリト雖其ノ顯現ハ近者ノ種々ノ關係要求ニ違ツテ各様ナル
 ナリ愛ハ衆人ノ爲メニ盡ク有リ近者ヲ愛スルノ本分ハ總テ衆人ニ關
 シ若クハ特別ヲ以テ唯或者ニ關スルナリ故ニ此ノ本分ノ教ヲ述
 ルハ左ノ如クナルベシ一近者ニ關スル普通本分ヲ顯ハシ二近者カ居
 ル所ノ關係地位ノ異ナルニ依リ各自一己ノ本分ヲ顯ハスベシ
 二 近者ニ關スル普通本分
 二百七十二 近者ニ關スル普通本分ノ教ノ節目
 近者ヲ愛スルノ普通本分ヲ説明スルハア總テ凡ソノ近者ニ關シテハ
 四ノステアコソノ爲メニ要求スルヲトカ特ニ近者ノ職位、外面ノ福祉ニ

關スルヲ見ハスベシ

第一章

二百七十三 近者ヲ愛ス

近者ヲ愛スルハ其心ノ傾往ニ於テハリステアコンタル者ハ一人ニモ
惡ヲ願ハス且作サ、ルノミナラス恒ニ誠直堅固ニシテ近者ニ唯其ノ
己レカ欲スル者ノ諸善ヲ願ヒ且作シテ其ノ幸福欣喜ニモ不幸憂戚ニ
モ同感スルヲ猶已レノ如クシテ特ニ其ノ永遠ノ救ヲ願扶スル是ナリ
三百七十四 近者ヲ愛スルノ根本

近者ヲ愛スルノ根本ハ我等ヲ盡ク結合スル心内互相ノ一致ニ在ル
ナリ蓋シ神ハ血ニ近クキテ万国ノ民ヲ遣リ之ヲシテ地ノ全面ニ
居ラシム(行實十七)ルノミナラス自ラ万民ノ父トシテ公衆人ノ一致

ノ本トナラレタルハ無限ニ高尚ナリ蓋シ使徒パウエルカ之ヲ象ルニ身
ノ形狀ヲ以テシテ我等ヲ諸肢ト名ツク(コリント前書十二)ル如ク我等
ハ悉ク一家ヲ成セハナリ故ニ我等ハ皆兄弟ナリ且一体ノ肢タレハ音
近者ニ何ノ惡ヲモ作サ、ルノミナラス救ヲ得ルヲ互ニ相助ケテ兄弟
ノ情ニ依リ協力シテ我等一般ノ目的ニ趨向スルハ我等ノ本分タルヲ
瞭々ナリ

然リ而シテ近者ヲ愛スルノ首大無限ノ根本ハ神自ラ我等各人ヲ寵ス
ルノ愛ニアリ蓋シ我等ノ意ヲ神ノ意ニ全ク合同セシメントセハ我等
モ亦神ノ愛スル所ノ者ヲ愛サ、ルヘカラス然メ神ハ万民ヲ愛ス蓋シ
神ハ万民救ヲ得眞理ヲ明知スルニ入ランヲ欲ス(テモフニ前)レハナ
シ主イエススハリストス敵ヲ愛スルヲ命轉シテ自ラ我等ニ此ヲ勸ム

曰ク是ノ如クナレハ爾ノ父天ニ在ル者ノ子トナルヘシ蓋シ彼レハ其
 日ヲ善者不善者ノ上ニ升セ雨ヲ義者不義者ノ上ニ降ス(マトフエイ五)
 特ニ神ハ其愛ヲ贖罪ニ於テ顯ハセリ曰ク蓋シ神ハ世ヲ愛シ甚シキハ
 其獨生ノ子ヲ以テ之ニ賜フニ至ル凡ソ之ヲ信スル者沈淪ヲ免レテ永
 生ヲ得ルヲ致ス(イタアソ三)夫レ如何ナル智慧カ能ク神ノ我等ヲ愛
 シテ神ニ引歸セシメタル永愛ヲ理會シ得ンヤ(イエレミヤ卅)將テ誰カ
 神タル我カ贖罪主ノ我等万民ノ爲メニ至辱ノ死ヲ受ケテ神ノ聖體機
 密ニ於テ我等ノ爲メニ奉獻トナリ食飲トナルヲ洪賜セル無限量ノ愛
 ヲ度ルヲ得ンヤ噫神タル贖罪主ハ我等全力ヲ以テ我カ兄弟ノ救ニ助
 ケ万民ノ爲メニ流サレタル寶血ヲシテ何人ノ爲メニモ無結果タラシ
 メサランコト切望スルコト其レ如何ンヤ曰ク愛スル所ノ者ヤ若シ神ハ

我等ヲ愛スルト此ノ如クナラハ我等モ相愛スヘシ神ヲ愛スル者ハ亦
 其兄弟ヲ愛スヘシ此誠ニ我レ曾テ彼ヨリ受ク(イタアソ一書)救世主
 ハ近者ヲ愛スルノ誦ヲ以テ神ヲ愛スルノ首誦ト同様ナリトシ之レヲ
 其門徒ノ特標トシテ指示ス曰ク爾等若シ相愛スルノ心アラハ衆ハ此
 ニ由リテ爾ノ我カ門徒タルヲ知ラントス(イオアソ十三)ト且救世主
 ハ其ノ近者ノ爲メニ行フ所ノ者ヲ即チ我レニ行フ者ト爲ヌ曰ク我レ
 誠ニ爾ニ告ク爾等己ニ之ヲ我カ兄弟至微ナル者ノ一ニ行フハ即チ之
 ヲ我ニ行ヘルナリ(マトフエイ廿五)ト救世主ハ難ヲ受ルノ前ニ其門徒
 ニ別レ之ニ相愛ヲ勸メテ曰ク我レ新誦ヲ以テ爾ニ與ヘン即チ爾ハ相
 愛スヘシ我レ曾テ爾ヲ愛セシ如ク爾モ亦是ノ如ク相愛スヘシ(イオア
 三ノ)
 三十一 我レ此ヲ以テ爾ニ命ス爾相愛スヘシ(十五ノ)終ニ目ヲ舉ケ天
 四十二

父ニ祈リテ曰ク「我レ獨リ彼等ノ爲メニ祈ラス乃チ亦凡ソ彼等ノ言ニ
 依リテ我ヲ信スル者ノ爲メニス其衆ヲシテ一タラシメントナリ父ヨ
 爾チ我ニ在リ我レ爾ニ在ルカ如ク彼レ亦我等ニ在テ一タルヲ致セ且
 世ヲシテ爾ノ我レヲ遣ハセシヲ信セシメヨ」(二十七ノ廿)使徒等モ其書
 ニ於テ亦之ヲ勸メ特ニイオアンハ其第一書ニ於テ之ヲ勸ム
 此ノ愛ハ常ニ正教會ノ子ノ一種獨到ノ道ヲ成ス初時ノ信者ノ相愛ハ
 ハリストス教ノ最兇惡ナル敵ト雖モ之ニ驚キシ程大且非常アリキ誠
 識主者マクシト曰ク「衆人多ク愛ノコト著ハセヒ其ノ克ク之ヲ得タル
 モノハ獨リハリストスノ門徒ノミナリ」(イオアン十三) 蓋シ門徒ハ獨
 リハリストスチ有シテ眞實ノ愛ヲ愛ノ師トナセハナリ」
(二百七十五) 近者チ愛スルノ性質

近者チ愛スルハ赤誠、潔淨、熱切ナルヘシ(ペ一トル前書) 愛ハ二赤誠
 マコト、イオアン、マクシト
 友愛ヨシテ假偽ナカルヘシ使徒パウエルモ愛ノ偽リ毋ラソコト要ス
(ローマ十) 使徒イオアン曰ク「我カ小子ヤ我儕相愛スルコト言テ以テス
 ル勿レ舌ヲ以テスル勿レ宜ク行テ以テシ實ヲ以テスヘシ」(イオアン
 一書三ノ
 十八イアコフ) 心ト手ト舌トハ一ニシテ二十ラサルヘシ宜ク我カ實地
 ニ行フ能ハサル浮虛諂媚ノ言ヲ避クヘシ縱令近者ハ我カ愛ヲ證ハス
 ノ不實ヲ明察スル能ハサルモ愛ヲ誠命シタル神ハ先ツ心上ニ臨覽ス
 苟シ心中ニ愛ヲ視スンハ偽善ヲ罪セントス愛ハ二潔淨ノ心ヨリスヘ
 シ偽善ハ大ナル不潔タル勿論ナレド不潔ハ盡ク偽善ナルコトアラス蓋
 シ人ハ其内情ノ發顯ニ於テハ赤誠ナレトモイイススハリストスノ誠
 命セラレタル愛チ有セサルコトアル可シ然ルニ若シ心ハ地上不潔ノ情

若クハ私利自益ノ爲メニ縛緊セラル、時ハ此ノ如キ縛緊ヨリハ唯禍
 害ト悔トヲ待ツヘキノミ（コリント）ハリステア（イオ）ニノ愛ハ潔淨ノ本源ヨリ神ノ
 誠命ニ違フノ從順ヨリ又神ヲ愛スルノ愛ヨリ流レサルヘカラス（イオ）
 十四（三）眞ニ神ヲ愛スル者ハ其心ヲ中心ノ如クナル神ヲ愛スルノ愛
 ニ結合セラル、ニヨリテ互ニ相結合スルナリ（ハリス）テア（コ）ノ愛ハ
 源頭ニ於テ潔キ如ク事爲ニ於テモ亦當ニ潔カルヘシ凡ソ互相ノ關係
 ハ神ヲ識リテ之ヲ愛シ善ヲ欲シテ之ヲ作スニ全ク私狀ヲ絶テ之レカ
 爲メニ報謝ヲ全ク待ツナキヲ以テ目的ト爲スヘシ（コリント）前書我
 等ハ主イエススハリストスノ例ニ循ハサルヘカラス即チ其ノ自ラ我
 等ヲ寵シ且愛スル如ク我等ハ相愛スヘシ主曰ク爾ハ相愛スル我レ會
 々爾ヲ愛スルカ如ク然ルヘシ此レ我カ誠メナリ（イオ）十（五）然レ面

シテ主ハ死ニ至ルマテ我情ヲ極愛セリ死ハ則チ十字架ナキニ近者ヲ
 愛スルハ冷淡不活ノ心情ヲ以テスヘカラス自愛ヲ鎔解銷盡スルノ火
 以テスヘシ近者ニ有益ナルノ一機會モ失スヘカラス乃チ靈動活潑
 ニ之ヲ愛シテ若シ近者ノ善ノ爲メニ已ムヲ得サルアレハ救世主カ我
 等ノ爲メニ其生命ヲ捐（ス）メルニ倣フテ近者ノ爲メニ己レノ生命ヲ捐ツ
 ヘシ曰ク彼レ我等ノ爲メニ生ヲ捐テタリ我情此ニ由リテ愛ヲ知レリ
 我情モ亦兄弟ノ爲メニ生ヲ捐ツヘシ（イオ）十六（一）一人其友ノ爲メニシ
 テ己レカ生ヲ捐ツル此ヨリ大ナル愛無シ（イオ）十（五）
 二百七十六）近者ヲ愛スルノ種類
 我等ノ主イエススハリストスカ爾ノ鄰ヲ愛スル己レハ如クスヘシ（イオ）
 三十九（二）ト人格言ハ愛ノ三規則ヲ含有スルナリ初ハ義ノ規則ナリ

曰ク爾チ自ラ惡ヲ所之チ人ニ行フ勿レ(トウ、ト四)而シテ次ニ仁慈ノ規則ナリ曰ク爾チ凡ソ人ノ諸レチ爾ニ施スチ欲スル所ノ者爾必ス是ノ如ク諸チ人ニ施セ(マ、ト、フ、ニ、イ、六、ノ、十二、以)所以ニ義ト仁慈トハハリ(下、ル、カ、七、ノ、三十一)ストス教ノ愛ノ二大種類ナリ己レカ欲セサル所諸チ人ニ施ス勿レ而シテ己レカ欲スル所ハ亦之チ人ニ施セ爾チハ己レニ惡チ欲セスシテ善チ欲ス故ニ應ニ近者ニ惡チ蒙ムラシムルチ避ケテ之ニ善チ行フ(詩篇三十四ノ十五)

二百七十七 義ノ本分

義ノ本分ハ凡ソ倫理ノ秩序ノ根本チ成ス蓋シ他ノ權理チ毀リテ罰チ免ルチ得ル百事傾覆セシトスレハナリ故ニ他ノ緊要ノ權理ハ特ニ聖ナル毀ルカヲサル者トシテ尊敬スヘシ縱令緊要ニアラサルモ實ニ

他ニ屬スルノ權理チモ敬重スヘキニ復タ尙輕シトセス強逼若クハ欺騙及狡偽チ以テ他人ノ權理チ毀ル者ハ人間社會ノ根本チ覆ヘスナリ故ニ神ノ特示モ竊盜、強賊(コ、リ、ン、フ、前、書)及凡ソ義ノ法ヲ犯ス者チ天國ヨリ除省ス(同九)又義ノ法ハ信義チ守ルト凡ソ近者ト共ニスルノ約定合同チ確實ニ履行スルトチ要ス畜公義ノミナラス全人間ニ及フノ仁慈モ信義チ守ルノ本分ニ據ルナリ蓋シ信義ト信用アル無クンハ人間社會ハ立ツ能ハサレハナリ故ニ我等ニ本分チ命ジテ曰ク此事ニ於テ分チ違エ兄弟ニ害チ致ス勿レ蓋シ凡ソ此ノ如キ者ハ主必ス之チ罰ス(ソ、ル、ン、前、書、四)

六ノ終ニ義ノ法ハ他ニ或ハ欺侮チ爲シ或ハ害チ加ヘタル者チシテ欺侮セラレシ者ニ償贖チ爲シメテ全ク此害チ消亡セシメンチ要ス何時如何ナル法チ以テ如何ナル人ニ償贖チ爲スノ如何ハ國家ノ法トハリ

ホテアニシノ良心ヲ以テ之ヲ決スルヲ得ベシ

二百七十八 義ノ本分ニ悖ルノ罪

義ノ本分ニ悖ルノ罪ハ左ノ如シ一狡偽及欺騙ナリ此二惡ハ使徒之

論及スツルン前書四ノ六コリント前書六ノ八

二竊盜ナリ即チ家主ノ不認ニ乘シテ他人ノ物品ヲ竊取ルナリ

三劫奪ナリ此レハ竊ヲ以テセス強チ以テ或物品ヲ己レニ侵掠スルナ

リ劫奪ノ竊盜ト異ナルハ之ニヨリテ近者自ラモ凌侮セラル、ヲ以テ

ナリ劫奪ハ多ク種類有リ例之ハ家ニ劫掠シ行劫シ權理ヲ強奪スルカ

如キ又上司ハ其權ヲ妄用シテ屬下ヲ虐スル時ノ如キ又原被告人ハ偽

證偽誓ノ類ヲ以テ裁判ヲ欺ク時ノ如キ是ナリ契約ノ據トスル所ノ文

憑ヲ打毀シ若クハ損壞シ及ヒ偽造シ正シクシテ成セル遺言ヲ廢棄ス

類ノ如キ此レニ屬スルナチ無法ニシテ傭人ノ工錢ヲ抑留シ若ク

ハ之ヲ削減スルハ其ノ不義ノ罪特ニ重シ書書ノ言ニ依ルニ此レ天

呼フノ罪ナリ曰ク「視ヨヤ爾ノ田ヲ獲ルノ工人爾ヲ未ダ彼レニ給セテ

ル所ノ値ハ顧呼ス且刈者ノ呼ハ己ニ萬軍ノ主ノ耳ニ入ルイアコフ呼

約スル所ノ工錢ヲ大ニ勞シタルノ後ニ受ケントスル貧工、役卒、手藝ノ

人ガ豈料ラシ欺騙セラレタルチ自ラ察知スルアラハ實ニ見ルサヘ人

チシテ凄然タラシムヘシ

四勒索ナリ勒索ハ定數ニ越エテ利子ヲ収ルナリ法律全集十卷國法

此ノ惡ハ劫奪ニ類ス蓋シ彼ハ亦近者ノ禍ヲ以テ己レヲ利スルナリ此

惡ノ特ニ重キハ人ヨリ不正ノ利ヲ強求スルニアリ即チ人窮迫ニ在

テ約ノ如何ナル事者問ハ夫之ヲ應允シ價ノ幾何ヲチモ論セスナク少

クヘカヲサルノ物品ヲ購求スルヲ強ヒラル、ナリ勒索ハ貧者ヲ害遇
 スルニヨリ至重ナル惡ニシテ全人間ニ忌嫌セラル、惡ノ一タルヲ爲
 ス教會ノ法ハ「シモコヤ」ノ外ハ勒索ノ如ク嚴ニ窮治スルノ惡一モアル
 ナシ若シ人不幸ノ近者ニ對シテ全ク慈悲ヲ缺クノミナラス其不幸ヲ
 全ク哀憫セスシテ其家産ノ僅々タル餘利ヲ剝削スルノ機會ヲ尋ヌル
 アラバ「カリストス」教ノ愛ヲ充ツルノ精神ト人情ニモ悖戾スルヲ果シ
 テ孰レカ之ヨリ大ナルヤ噫

五約スル所ノ信ヲササルナリ即チ人故ヲニ其ノ約スル所ヲ履行セサ
 ルナリ重要ノ事ニハ特ニ精確ニシテ全ク約ヲ守ラサルヘカラスト雖
 然レモ瑣末ノ件ニモ己ニ許シタルノ言ヲ違變スヘカラスト蓋シ不償ハ
 固リ不正經ニシテ并セテ己レニ惡果ヲ來セハナリ曰ク「小ナル者ニ於

テ忠ナレハ大ナル者ニ於テモ亦忠ニ小ナル者ニ於テ不義ナレハ大ナ
 ル者ニ於テモ亦不義ナリ」(六ノ十) 債ヲ還スチ意ハサル者ハ罪ヲ得ル
 「甚タ重シ其ノ之ヲ還サントスルノ希望心欲有ラスシテ債ヲ起シ債
 ニ關シタル合約ヲ破壞シテ債主ヲ瞞若スル者ハ拐兒又鼠賊トシ視ル
 べシ惡計ヲ以テ故ヲニ債ヲ還濟スル能ハサルノ賠本人タルヲ自ラ告
 示スル者ハ罪ヲ得ル亦重シ

二百七十九」近者ニ惡到

他ノ權理傷ハレス依然トシテ存スル時ハ德義法ノ本基動カサルヲ致
 ス然レモ若シ相愛ヲシテ太陽ノ照ラサバ所無キカ如ク我等ノ心ニ
 透徹セシメスシテ近者ニ切々タル怡々ノ惡情ヲ瀝シアラヌンハ人間
 ハ如何ヲラシトスルヤ相愛ヲクシハ人間ハ自ラ一團ノ混乱ヲ顯ハサ

ソノミ故ニ相愛ハ我等ヲ相維繫セシムル神ト維繫セシムル完全ノ結
 合ヲ名ツケラル、ナリ(コロス三)然リ而シテ此人愛ハ其ノ行爲ニ關
 現スルノ全キヲ勝テ數フ可ラサル程豐饒シテ且無窮ナルナリ使徒之
 ナ示シテ曰ク「愛ハ乃チ寛忍乃チ慈悲愛ハ知思セズ自ラ誇ラズ驕傲セ
 ス非禮ヲ行ハス己レカ利ヲ圖ラス輕怒セズ惡ヲ念ハス不義ヲ喜ハス
 シテ異ヲ喜ウ凡ソ事容レ凡ソ事信シ凡ソ事望ミ凡ソ事耐フ」(コリン
 十三至七)此ノ近者ニ懸到ナルハ其ノ誘惑、荏弱、疾病ヲ救援シテ之ト其愛
 ナ分チ並ニ其ノ喜悅安慰ヲ共ニスルヲ以テ特ニ之ト活潑熱心ノ共分チ
 爲ス。於テ發見セサルヘカラス「使徒曰ク我儕強キ者ハ當ニ強カラ
 サル者ノ懦弱ヲ容レテ己レヲ悦ハセサルヘシ我儕各々宜ク憐ヲ悦ハ
 シ其益ヲ得テ其徳ヲ建ツルヲ致スヘシ蓋シハリステスハ己レヲ悦ハ

セス(コロ一五)當ニ樂ム者ト同ク樂ミ哭スル者ト同ク哭スヘシ(コロ
 一十二)使徒又己レノ「ナ言ヒテ曰ク我レ己レカ益ヲ求メス乃チ衆庶
 ノ益ヲ求メ彼レノ救ヲ得ルヲ致ス」(コリンフ前書
 十ノ三十三)此クテ「ハリステア
 ン」ハ主イエススハリステス及其眞徒ノ例ト主ノ愛ノ力トニヨリテ荏
 弱者ト沈淪者トニ哀憐ノ不尽源泉ヲ有セサルヘカラス「我等ハ皆一
 ノ奧密ナルハリステスノ体ノ諸肢ナリ是故ニ自己固有ノ肢トシテ互
 ニ相助ケサルヘカラス一者誘惑セラル、時ハ他者モ神ノ榮ノ爲メ又
 兄弟ノ救ノ爲メニ憐憫熱心ヲ感奮スヘシ使徒パウエル曰ク「若シ一肢苦
 テ受ケハ諸肢憂ヲ同ウス」使徒又己レノ「ナ言テ曰ク誰カ弱コシテ我
 レ弱ナラサランヤ誰カ迷惑シテ我レ熱中セサランヤ」(コリンフ後書
 十一ノ廿五)ト
 聖金曰此ノ使徒パウエルノ言ヲ説明シテ曰ク(廿五)「各々兄弟ノ至微

ナル者ニ至テモ使徒パウエルノ爲メニハ全ク絶ツコノ能ハサル近親
 ルナリパウエルハ各人ノコトヲ病メル産ノ劬勞ニアル母ノ如シ曰ク誰レ
 カ弱ニシテ我レ弱ナラサラシヤ誰カ迷惑シテ我レ熱中セサランヤト
 此言ハパウエル自ラ此ノ病ヲ蒙フルカ如ク弱者ノコトヲ痛楚シ火燒シテ
 傷爛スルカ如ク迷惑セラル者ト共ニ哀憫スルヲ見ハス我等ハ唯禍
 害ヲ蒙フレノ近者ヲ哀憫スルノミナラス近者ノ幸福、利達、才能、令譽
 ヲモ共ニ喜ハサルヘカラス
 聖金口曰ク喜者ト喜ヲ倍ニセシニハ哭者ト哭ヲ同ウスルヨリモ尙猶
 愛アラサルヘカラス哭者ト倍ニ哭スルハ性ノ然ラシムル所ナリ故ニ
 近者ノ不幸ノ狀ヲ目撃シテ之ヲ哀シヤサル殘忍ノ人アルナシ然ルニ
 人ノ昌盛ナルヲ見テ唯之ヲ嫉嫉セサルノミナラス更ニ之ト倍ニ喜ハ

シニハ純善ナル心ナカルヘカラス(羅馬書講說十)曰ク若シ一肢苦ヲ受
 クレハ諸肢同ク憂ヒ一肢榮ヲ得レハ諸肢同ク樂ム爾曹ハ乃チハリス
 トスハ体各々序ニ循ヒテ肢ヲリ(コリント前書十二)
 二百十(近者ヲ愛スルノ各様顯現

此ノ近者ニ懇到ノ顯現ハ左ノ如シ
 誠懇ナリ即チ其外面ノ行爲チ内部ノ心情ト照依センヲ欲スル者ナ
 リ曰ク諸々ノ暴恨、詭譎、僞行、媚嫉ト諸々ノ謗言トチ去ルヘシ道ハ猶
 眞乳ノ如シ爾チハ甫生ノ嬰兒ノ如クニ之ヲ慕ヒ之ニ由リテ漸ク長ス
 へキヲ致スヘシ(ペテロ前書)心ハ此ノ誠懇實直ハ常ニ智ト合スヘシ
 故ニ救世主モ我等ニ馴ル、鳩ノ如クナルノミナラス智ハ蛇ノ如クナ
 ルヲモ命セリ(マタイイ十)

親愛ナリ是レ他ニ關シテ其徳ト又其ノ受クル所ノ委曲ニ相副フル
 ノ舉動ナリ此ノ如キ交際ハ管大ニ欺侮ヲ避ケ人生ヲ慰藉スルノミナ
 テス他人ハ心ヲ我等ニ引キ且徳行ヲ愛スルヲ振作セントス使徒曰ク
 愛ハ放肆ナルナシ又曰ク爾ノ言恒ニ思ヲ以テ且摠ヲ以テ調和シテ爾
 チ各人ニ答フヘキ所ヲ知ル可キヲ致スヘシ（コロス四）世間ニ往々遇見
 スル言語ト交際ニ便敏練熟ナル巧ノ外貌ニ止マル者ハ此ノ親愛ト至
 ク迥異スルナリ眞實ノハリステアニ（ハ）究ニ之ニ乗シテ他ヲ瞞若ス
 ルアルヘカラス
（サ）此ノ親愛ト密着スルハ愛ヲ充ツルノ易來近ナリ即チ人他ヲシテ已
 レニ自由ニ就近スルヲ得セシメテ之ニ懇到ナルト其志望ヲ充タスニ
 備ナルトチ自ラ見ハズ者ナリ此ノ易來近ハ大ナル不快適ト合スル程

其之ヲ其意ヨリ拒絕スレハ茲ニ大ナル價值ヲ有スルナリ此易來近ハ
 人ノ孚信ヲ懇到トシ我レニ引致スルナリ然リ而シテ人ト交際ノ數々
 ナルニヨリテ已レノ徳行若クハ榮譽ヲ傷フコトアラサルト我カ近
 者ノ愛ヲ喪失スルコトアラサルトチ戒慎セシテ要ス曰ク我等ハ人ノ
 主ニ由テ我等ヲ愛スルヲ見バ之ト共ニスルニ已レノ肆行ヲ容スヘカ
 ラス蓋シ交際ニ肆行ナル程愛ヲ破リ忌嫌ヲ生スル者アラサレハナリ

（階梯著者說教廿六）

（作善及服事ナリ是レ近者ニ傾往スルノ真心ヲ表ハスニ思惠若クハ
 センチナスコトセリスルコト）
 有益ノ服事ヲ以テスルナリ神書ハ數々我等ニ此愛ヲ勉メシム曰ク人
 ニ予ヘヨ爾ヲモ子ヘラレントス即チ嘉量ヲ以テ搖撼シテ實タシメ充
 滿シ外ニ溢レ爾ノ懷中ニ納レシ蓋シ爾ナハ何人量ヲ以テ人ヲ量ル

人モ是ノ量ヲ以テ爾ヲ量ラントス(ルカ六ノ三) 近者ニ服事ヲ表ハス
 ヲ預備スルニ關シテ使徒パウエル己レノコトヲ言ヒテ曰ク「蓋シ我レ衆ニ
 於テ自主タル者ト雖然レモ我レ自ラ衆ニ役シ獲ルヲ致スコト愈々多シ
 衆ニ於テハ我レ其衆ニ循ヒ果シテ數人ヲ救フ可キヲ致ス(コリント前
 書九ノ十九
二故ニ「ハリスデアニ」タル者ハ近者ニ善ヲ作スノ一機會ヲモ失フヘ
 カラス然レモ此服事ハ尙シ人近者ニ服事スルカ爲メニ神ノ法ト自己ノ
 本分ヲ破リテ行爲シ若シハ己レノ本心ニ違フテ行爲スルアラハ重罪
 トナランナ謙遜及溫柔ナリ此レ近者ト不快ヲ懷キテ爭論スルト眞假
 トナク我カ特權ヲ以テ近者ニ對シテ虛夸スルトテ預防シテ他ノ才能
 善行ヲ特ニ秀ツルカ爲メニハ之ニ當然ノ尊敬ヲ加フルヲ教フルナ
 日夕爾ヲ宜ク衆人ヲシテ爾ノ謙遜(溫良)ヲ知ラシムヘシ(コリント前
 書五ノ四)

凡ソ我等カ近者ニ於ルノ言ト行トハ退讓謙遜ナラサルヘカラス曰ク
「愛ハ寛忍妬忌セス」(コリント前書) 救主ハ自ラ此ニ於テモ自己ノ例ヲ以
 テ之ヲ見ハセリ曰ク我カ心ハ謙遜溫柔ナレハ爾ヲハ我レニ學ベ(マ
 トフエイ
 フニイ
 二十一ノ
 二十九)

ハ款遠人ナリ是レ我等ノ愛カ遠人旅客ヲ其ノ目的トスル時ナリ此本
分ハ凡ソ昔時ノ民ハ特別熱心ニ之ヲ行フテ其ノ之ヲ破ルチハ善ク可
 ラセルノ羞耻トスル程彼等ノ爲メニ聖ヨリキ舊新約ハ此ノ善行ノ例
 ヲ載テリ然ルニ今日モ或ハ旅客ノ窮乏或ハ地所ノ狹隘或ハ他ノ情狀
 ノ已レテ安歇スルカ爲メニ舍館ヲ取ルノ妨ケアル如キ遠客ヲ款待ス
 ルノ機會少ナシトセス救世主ハ旅客ニ見ハスノ服事ヲ自己ニ歸セシ
 ヲテ曰ク我レ旅ヲ爲セシ時爾ヲ我ヲ館ス(マ
 トフエイ
 廿五ノ卅五) 縱令
エウレイ
 十三ノ二)

旅客其家ニ款留スル程ノ緊急アラサルモ兄弟ノ愛ハ我等ノ吾カ商
良ト保護トナリテ旅客ニ助ケンコトヲ要ス(金口行實ノ講説)

ヤ愛和平ナリ我等ハ皆大ニ罪ヲ犯ス故ニ愛ハ我等互相ノ欺侮ト不適
ワカグチスル

意トハ百方之ヲ避ケテ若シ其レ生スルアレバ刻下コ之ヲ消滅スルチ

力ヲソテ要ス肝謁然タル和氣入其間ニアルアリテ一心一意ヲ爲スノ

各位ハ如何ナル美觀ヲ呈スルヤ(行實四ノ三十二)然ルニ互ニ忿争不快ナル

人々ヲ觀バ人心ヲ惱マスコト以テ如何トスル曰ク蓋シ娼嫉忿争ノ在ル

所必ス乱ト凡ノ惡行トアリ(イアコフ三ノ十六)故ニ近者ト交接スルニ我等ハ

凡シ和平ヲ破ルヘキノ機會ヲ避ケ唯人ヲ故ラニ欺侮セサルノコトナラ

ズ乃チ近者ノ欺侮ヲ寛容忍耐セサルヘカラス唱詩者ノ言ヲ記スヘ

シ曰ク我レ苦テ受テ言フ能ハズ(七十七)然レモ我レハ聾者ノ聴カザ

ルカ如ク匿者ノ口ヲ啓カサルカ如ク我レヤ聞ク無キノ人ノ如ク其口
詰責無シ主ヤ我レ爾ヲ俟ツニ縁リ主ヤ我カ神ヤ爾ハ將ニ我レニ聽カ
ントス(三十八ノ十四十五)

二百八十二(ハリスチアニン)カ己レテ敵視スルノ近者ト和平ス

和平若シ或ハ破レントモハ兄弟ノ愛ハ既ニ發現シタル爭ノ閃光ヲ速

ニ撲滅セシテ要ス故ニ若シ我等自ラ人ヲ欺侮スルアラハ其ノ我カ意

ノ思ニ變セシコトヲ其前ニ開陳スヘシ其人モシ實ニ侮辱若クハ損害ヲ

我レヨリ受ケテ其時ハ我等ハ必ス赦宥ヲ求ムル謙遜ノ願ト之ヲ満足

スルコト勉厲トナリテ速ニ之ト和セサルヘカラス(マトフニイ五ノ)己

シメ過テ認ムルヲ耻ト爲ス人カラス夫ハ謙遜トシテ己レノ過失ヲ認

心之上之志匡正セズトスルノ篤望大如ク心情ノ貴キヲ見ムス者アラ
 夫若シ我等ヲ欺侮シ又ハ凌辱スルアラバ我等ハ容易ニ和平ニ移ルヘ
 シ夫レ此ノ容易ニ和平ニ移ルヘハ近者ノ過失迷誤ヲ諱スルニ忍情
 ノ導ク所トオラスシテ思量ヲ以テシ近者ノ欺侮ハイイススハリストス
 非敵ノ爲メニ祈禱シテ父^シ口^シ之^シヲ^シ赦^シセ^シ蓋シ衆ハ爲ス所ヲ知ラス^{(ルカ廿}
^{三ノ五}
 四)ト曰ヘルノ模楷ニ循ヒ之ヲ其惡ニ歸セスシテ其弱ニ歸セシテ要
 ス身ニ病アレハ我等ハ互ニ相恕シ失儀ヲ平生ト同視セスシテ言ヲ以
 テ若クハ行ヲ以テ病ニ在ルノ兄弟ヲ欺侮スルヲ以テ不智ト爲スナ
 勿レ此ノ如ク我等ハ宜ク互ニ情慾ト靈魂ノ病ノ情狀トヲ健康ト分別ス
 ヘシ我等此ノ如クノ病ヲ免ルヲ得タラシムハ我等ノ寛宥ヲ以テ他ノ

病ニ助ルコト我等ノ病ニキ彼等互ニ我等ヲ寛宥セシ如クスヘシカ^{(我等}
 ハ甘ンシテ欺侮ヲ教育シ可能之ト速ニ相和シ其己レニ償贖ヲ要スル
 事ハ可及之ヲ寛ニシ人ヲ恕セヨ爾チモ必恕サルベシ^(ルカ六ノ三)
^ト
 ノ主ノ言ヲ記シテ之ヲ嚴ニセサランヲ要ス曰ク怒リテ日没ニ至ル勿
^(エフエス四)
^{ノ廿六)} 時トシテ欺侮セラレシ者ハ和平ノ言ト望トヲ以テ其ノ
 欺侮シタル者ニ就近スルト益有リ

サ終ニ強項ニシテ全ク復和ヲ拒ム者ニモ愛ヲ有シテ恒ニ之ト復和セ
 ノトテ念フベシ曰ク爾チ惡ニ克マル、毋レ乃チ善ヲ以テ惡ニ克ツベ
^(ローマ十二)
^{ノ二十一)} 悔ニ剛ユルニ悔ヲ以テシ惡言ニ惡言ヲ以テシ傷ニ傷
 テ以テスヘカラス蓋シ此レ以テ惡ニ克ツヘカラス若シ傷ヲ以テ傷ニ
 加ヘバ一傷ノ爲メニ二傷ヲ生ズ此ニ因リテ惡ハ二倍シテ極極ナクテ

トトス蓋シ侮ラレシ者ハ其ノ之ヲ侮ル者ニ傷チ被フヲシメテ己レノ
 傷チ醫セサレハセリ侮ノ爲メニ被ラシメタル侮ハ當其ノ己ニ爲シタル
 惡チ滅除セサルノミナラス乃チ惡ノ路チ阻メスシテ愈^{ナホス}之チ強ウセン
 トス惡既ニ貫盈シテ侮チ做サントスル者ハ概チ互ニ侮チ酬イントシ
 テ更ニ愈々此チ尋ネントス此クテ侮ノ鏈ヲ生スルナリ而シテ侮ノ爲
 メニ酬ユル各人ハ固ト自ラ其敵チシテ能ク害チ爲スコノ少ナカラシ
 メンチカムルニヨリ隨テ生スル百般ノ侮ハ先キニ比スレハ愈々重ク
 愈々酷^{ヒドク}ナラントス使徒曰ク「若シ爾チ互ニ相呑噬セハ爾チ當ニ互ニ相滅
 サル、ヲ慎ム可シ」^{ガラテヤ}（五ノ十五）其レ然キ現ニ力チ以テ力チ抵ツハ愈々
 大ナル限リ無キ兇殘チ以テ相爭チ爲スモノト謂フヘシ是故ニ應ニ翻
 ヲテ作行スヘシ即チ我ニ敵スル者ニ善チ行フヘシ使徒曰ク「爾ノ敵若

シ飢エナバ之ニ飼ハシメ若シ渴カバ之ニ飲マシメヨ爾チ是ノ如ク行
 フハ熱炭チ其首ニ集ムルナリ」^{ローマ}（十二）^{ノ二十} 縦ヒ最冷淡無情ナル人トイ
 へ凡熱炭チ久ク頭上ニ載セテ熱チ覺エサル能ハサルヘシ此ノ如ク和
 平チ愛セサルノ最モ頑ナル者^{詩篇百二}（十ノ六）モモシ之ニ作善スレハ久シク
 漠然タル能ハサルナリ且之ニ加フレコ祈禱チ以テスヘシ^{マトフイ}（五）^{ノ四十四}
 教會聖諸父ハ其例ト其書トチ以テ我等チ嫉ム者ノ爲メニスルノ祈禱
 チ或ハ就^{チカ}近スルスラ能ハサルトアラン時ニ我ニ敵スル者ニ克ツノ獨
 一有方ナル器トシテ之チ我等ニ贈ム若シ我等ハ主カ自ラ我ニ敵スル
 者ノ心チ和シテ之チ我ト和睦セシメノテ主ニ願ハ、我等ハ祈禱ノ
 心情チ以テハリストスイエススノ苦難ニヨリチ容易ニ之ト相就近ス
 ルヲ得ベシ

愛和平ノ本分ハ至重要ナル本分ノ一タリト雖然レ有制限ナリ蓋シ
 時トシテ他ノ^{ノミ}志望要求ヲ行フハ更ニ高上ナル我カ本分ヲ妨クルコト
 レハナリ救世主ハ此意ニヨリ告テ曰ク我レ來リテ^{オマヤカ}平チ地ニ致スト意
 フ勿レ我カ來ルハ平チ致スニアラス乃チ我チ與ス^{ツクモノ}コト致スノミ蓋シ
 我カ來ルハ人ヲシテ其父ヲ疏^{トク}ミ女ヲシテ其母ヲ疏^{トク}ミ婦ヲシテ其姑ヲ
 疏^{トク}マシム而シテ人ノ敵ハ乃チ己レノ家人ナリ^{トク}六^{マトフエイ}十^ノ卅^四至^卅
 十二^ノ四^時トシテ我カ力ヲ盡スモ我カ或近者ト和睦スルヲ得ル能ハ
 十九^參看^{サル}コトアリ故ニ使徒モ唯制限ヲ以テ命シテ曰ク如シ或ハ爲ス可ソハ
 爾ノ力ヲ竭クシテ衆人ト相和セヨ^{ローマ十二}
 二百八十二^{互ニ相不和ナル近者ヲ和睦セシムルハリスチアニ}
 ノ本分

兄弟ノ愛ノ本分ハ唯我等自ラ可能衆人ト相和スルノミナラス他人ノ
 間ニモ和ヲ納ル、チカメンチ要ス特ニ靈魂ノ救者ハ己レカ信者ノ間
 ニ合和ヲ守ルト之ヲ回復スルトチ百方勉厲セサルヘカラス此チ爲ス
 ニ者ハ他人ノ事ニ^{挿入}セサランカ爲メニ全智ヲ守ルヘキコト勿論ナ
 リ若シ我等ハ盡ク必ス己レカ益ヲ求ムル毋ルヘクシテ各々宜ク他人
 ノ益ヲ求ムヘク^{コリント前書}我カ近者ノ眞ノ福祉ニ助ケサルヘカラ
 スマテ我等ノ間ノ互相寇讎ハ社會ノ相好ヲ害スル第一ノ惡ニシテ其
 相讎視スル者ノ爲メニ禍害ナレハ眞實ノ^{ナカマキ}「ハリスチアニ」ハ相仇スル
 近者ノ情狀ヲ漠然坐視スル能ハス其間ノ仇ヲ撲滅センチ力ムルナリ
 相憎ノ^{ナカマキ}火焰ヲ以テ^{ナカマキ}其家ニアラス又其家財ニアラスシテ乃チ靈
 魂ナラハ如何ソ實ニ關係ヲ爲^{ナカマキ}、ランヤ此ノ火焰ハ即チ陰府ノ火焰

ナリ(イアコフ三ノ六)此ノ火ハ凡ソ我等カ知ル所ノ物体ノ火ヨリモ
 念々烈ニ愈々苦口愈々滅盡スルモノナリ人ノ相争分裂ヲ醸生スル惡
 神魔鬼ハ自ラ之ヲ以テ人ノ靈魂ニ火シテ之ヲ煽惑ス(エフニス四ノ廿
 七イオアン六
 ノ二十
 三ノ二)

噫我カ敵ノ渠魁タル魔鬼カ其鎧甲ヲ以テ我カ近者ヲ攻撃スルコ當リ
 我等ハ如何ゾ實ニ之ニ關係ヲ爲サ、ランヤ即チ眞實ノ「ハリステアニ
 シ」ハ必ズ他ノ爲メコ講和者トナラサルヘカラスナリ然レモ「ハリス
 テアニシ」ハ多少智ト忍耐ト愛トヲ有セサルヘカラス一言ヲ以テスレ
 ハ福音經ノ精神ヲ有セサルヘカラス「ハリステアニシ」ハ靈魂人種々ノ
 力ヲ一ノ目的タル和平ニ導カンカ爲メ凡ソ和平セシメント欲スル
 人ハ偏尙、傾解、情狀、固有、酌量シ其心ヲ洞察スヘシ「ハリステアニシ」
コロサコルキノミニヤスモテマヘ

凡ソ近者ノ偏情習慣及傾解ヲ消散セシメンカ爲メニ彼此ノ重疊ヲ
 較量スヘシ而シテ此ノ如キ場合ニ於テ其ノ一己ノ自愛カ他ノ自愛ト
 撞着スル時ハ敵讎ヲ増サ、ランカ爲メニ先ツ己レヲ棄テ近者ノ福利
 ト有益トノ外ハ自己ノ利益ヲ全ク視サランヲ要ス人間社會ノ生活ニ
 於テ講和者ノ關係功勞ノ大ナルコト此ヨリ顯ハル「ハリステアニシ」ハ相
 寇讎スル者ヲ和スルチ力メハ庶衆ノ間ニ相争ヲ消スルコト幾何ソ訴訟
 チ滅ズルコト幾何ソ啻一箇人ノミナラス全家全種族ニ至ルマテモ火焰ノ
 如クニ害ヲ被ラントスルノ災ヲ消滅スルコト又幾何ナラントスルヤ故
 ニ救世主ハ講和者ニ諸ノ福ヨリモ大ナル福ヲ允許セリ曰ク「和平ヲ施
 ス者ハ福ナリ其ノ將ニ神ノ子ト稱セラレントスルヲ以テナリ」(マトフェイ
 五ノ九)
(ドン)大主教イグナテイ近
 者ニ於ル本分ノ一ノ訓言參看

二百八十三 裁判ニ於ル「ハリステアオン」ノ本分

「ハリステアオン」タル者痛ク欺侮ヲ受ケ若クハ或事ニ於テ已レノ権理ヲ傷ハル、時ハ惡ニ敵スルカ爲メニ合法ノ裁判ニ歸スヘシ己ヲ護スルノ本分ト近者ヲ愛スルノ本分ト神ヲ信スルトハ此ヲ要スルナリ蓋シ惡ノ蔓延ヲ止メサルハ神ニ悖フノ敵ト神ノ世ヲ攝理スルノ照管ニ敵スル惡ヲ赦宥スルモノト謂フヘシ故ニ合法裁判者ノ「テ」言フテ曰ク「神ノ僕ナルヲ以テ爾ニ益ヲ得ルヲ致ス然シテ爾チ若シ惡ヲ行ハ、則畏ルヘシ蓋シ彼ハ徒然ニ刀ヲ探ルニアラス彼レハ乃チ神ノ撲、怒ヲ以テ惡ヲ行フ者ヲ討ス」(ローマ十)ト故ニ公權ニ歸スル「ハリステアオン」ニ許サル、所ニシテ時トシテハ必ス無ル可ラサルアリ(行實廿五)然ルニ「ハリステアオン」ハ其權理ヲ保護スルニ凡ク公義ニ負ク者例ヘ

「詐偽、讒言、欺瞞」ノ如キチ慎戒セサルヘカラス翻ツテ「ハリステアオン」ハ愛ノ精神ヲ以テ一切ノ事ヲ行ハジチ要スルカ故ニ公權ニ歸スルハ報復ノ心ヨリセス他ヲ害セントスルノ思望ヨリセス乃チ合法己ムチ得サルニ依ルモノニシテ訴訟中モ其後ニ至テモ敵ノ爲メニ快カラサルノ心地ヲ懷カスシテ親友ノ如クニ之ヲ愛サ、ルヘカス然レモ此ク心ノ發往ヲ控禦スルハ若シ神ノ特佑アル無ソバ最難事ニシテ人間ノ力ニ踰越スルニヨリテ我等上司ヲ叩テ他ヲ訴出スルハ他無シ重要ノ理由ニ由ルハシ故ニア區々ノ件ニ於テハ近者ト和平ヲ壞リ愛ヲ壞ルノ裁判ヲ受ケンヨリハ寧ロ一步ヲ讓ルノ勝レルニ如カサルナリカ若シ重要ノ理由ノ我カ權理ノ保護ヲ要スルアレハ我ヲ攻撃スル者ニ對シテ我ニ怨恨ヲ挑起スル程ハ愈々小心シテ心ノ發動ニ提醒セサルヘ

カラスサ終ニ我等ハ常ニ和平スルノ備ヲ爲シテ其ノ我カ合法ノ權理
ヲ破ラレヌルカ爲メニ合法ノ債贖ヲ要ムルノ外ハ毫モ敵者ヨリ要ム
ル所アラサルヘシ（コリント前書）
六ノ五至八

故ニ或人カ爭論葛藤ニ端緒ヲ索ムルノ心情ト此ニ縁リテ己レチ富マ
サントスルノ志望トハ最証責スヘシ此心情ハ德義ノ爲メニ甚ク有害
ナリ蓋シ不斷ノ諍論ノ間ニ兄弟ノ愛ノ喪失亡盡スル處ニ於テ神ノ教
ハ如何ナル結果ヲ現セントスルヤ

二百八十四 近者ヲ愛スル區域

ハリストスカ其永愛ヲ衆人ニ及ホス如ク此ノ如クハリストスノ徒ノ
愛モ各ク所ノ者アラスマニ衆人ニ及ホサルベカラス曰ク人ノ債チ
爲ス勿レ惟相愛スルヲ以テ債チ爲セ若シ或ハ機有テハ宜ク衆人ニ

善行スヘシ（コリント十三ノ八ガラ）聖マクシム曰ク衆チ均ク愛スル人
ハ福ナリ完全ノ愛ハ人ノ各様ノ資性ニ循ヒテ人ノ惟一ノ性ヲ分限セ

ス乃チ常ニ此ニ依リテ均ク衆人ヲ愛ス（愛ノ一ノ）然リ而シテ我等ハ
特ニ我カ近者ノ我チ飾ルニ大ナル賜ト特典ヲ以テシタル者トハリス

テアニシノ行チ教フルク教導誘迪ヲ以テ我等ニ恩寵ヲ施シタル者ト
ク敬愛セサルヘカラス曰ク夫レ爾チ當ニ衆ニ予フヘキ所ハ則之ニ予

ヘヨ宜ク貢スヘキハ則貢シ宜ク税スヘキハ則税シ宜ク畏ルヘキハ則
畏レ宜ク敬スヘキハ則敬セヨ（ローマ十）兄弟ヤ我レ爾ニ求ム凡ソ爾ノ

中ニ服勞シ且主ニ在リテ以テ爾チ治メ爾チ訓フル者チ認メシテ且其
工ニ由リテ之ヲ敬愛ス（ソルン前書五）ト此義ニ據ルコ我等ハ特

ニ我カ父母、師、牧師、上司、國主ヲ愛セサルベカラス且我等ハ神ノ言ノ

要スルニ遠キテ近者ヲ愛サハルヘカラス即チ主イエイススハリストス
 ヲ信スル者ヲ愛スルハ特ニ不信者ノ上ニ在リ正教ノ「ハリストスアヨン」
 ナ愛スルハ異教人ノ上ニ在ラサルヘカラス此レ近者タル「ハリストスア
 ヨン」ニハ我カ正教ノ人ヲ愛スルノ不信者及異教人ヨリ薄キヲ認メ
 テ不信ト異教ハ我等ノ爲メニ正教ノ右ニ出ツル如クコ思ハシムルノ
 端ヲ與ヘスシテ其ノ異教人ト不信者ニハ異教若クハ不信ナルカ爲メ
 ニ我等之ヲ愛スト思ハザラシメンカ爲メナリ
 「ハリストスアヨン」ノ愛ハ「ア」敵ニカ「大罪人ニテ」異教人ニク「不信者ニテ」又
 死者ニモ及ハサルヘカラス
 「二百八十五」ア「敵ヲ愛ス」
 我等ニ對シ不快ノ心ヲ懷ク者若クハ我等ヲ憎ミ我等ヲ害セント欲ス

如者ヲ名ツケテ敵ト曰フナリ

敵ヲ愛スルハ敵ノ性氣不好ナルヲ視テ毫末ノ怒氣若クハ憂愁ヲ懷カ
 サルニアラヌ又其ノ性氣不好ヲ視テ性氣不好ト爲サ、ルニア
 ルニアラス又其ノ姦惡ナル計謀勢力ニ常ニ一步ヲ讓リテ受クル所ノ
 欺侮ノ爲メニ何ノ償補ヲモ要求セサルニアラサルナリ蓋シ若
 シ欺侮ヲ全宥スルヲ無制限ノ規則ト爲サハ此ヲ以テ不好人ニ充分ノ
 自由ヲ與ヘ不義ヲ以テ善良ヲ狹窄セントスレハナリ免罰ヲ冀フノ望
 ハ罪過ヲ懲慝スルノ一ツナリ
 敵ヲ愛スルノ眞性質ハ左ノ如シア「敵ヲ恨惡シ忌嫌スルノ心ヲ包藏セ
 スシテ之ヲ神ノ像ニ依リテ造ラレシ者トシ吾カ兄弟トシイエイススハ
 リストスニ贖ハレシ者トシ主神ニ永福ニ定メラレシハ猶我等ト同

シキ人トシテ敬重スルナリ即チ之ヲ敬重シ之ニ對シテ兄弟ノ心ヲ盡
 フルナリ故ニ敵ハ亡ビントスル情勢ヲ見レバ之ニ同感同悲ヲ見ハシ
 テ誠ニ其ノ神ニ反歸スルヲ願ヒ其ノ感化匡正ヲ祈リ其ノ反歸ニ難
 ムヲ助ケ其ノ我等ニ行爲スルノ侮辱ヲ宥シテ可能ハ甘ンシテ其ノ窮
 乏ヲ助クルナリ此ノ如キ愛ハ衆ニハリスデアニシ一ノ本分ナリ主曰ク
 「爾ノ敵ヲ愛セヨ」又曰ク「爾ヲ誑フ者ハ之ヲ祝シ爾ヲ憾ム者ハ善ク之ヲ
 視爾ヲ虐遇シ爾ヲ迫害スル者ハ爾ヲ之カ爲メニ祈禱セヨ」(マトフエイ五ノ四十四)
 聖使徒モ同ク誠命シテ曰ク「惡ヲ以テ惡ヲ人ニ報ユル毋レ乃チ務メテ
 善ヲ衆人ノ前ニ爲セ愛友ヨ己レカ讎ニ報ユル毋レ寧ロ退處シテ以テ
 怒ヲ待テ蓋シ録ノ云ヘルアリ主曰ク報讎スルハ我ニ在リ我レ必ス之ニ
 報奉ル(ローマ十二ノ十七十九廿)カ其ノ我カ爲メニ惡ヲ希フ者ニ善ヲ希フハ難

其ノ我ヲ醜詆スル者ノ令名ヲ存シテ安然スルハ易カラスト雖然レ
 此ノ緊要欠クヘカテサルノナリ蓋シ聖使徒言フアリ曰ク「若シ愛
 ナクシハ爲スヲ無シ」(コリント前書)敵ヲ愛セサル者ハ近者ヲモ愛セス
 蓋シ敵モ我カ近者ナレハナリサ主ハ敵ヲ愛スル者ニ罪ノ赦ヲ約ス曰
 「夫レ爾ヲ若シ人ノ過チ免ルサハ爾ノ天父モ亦必ス爾ノ過チ免サン」
(マトフエイ六ノ十四)然リ而シテ我等ハ罪ヲ犯スヲ尤モ頻リナリ故ニ罪ノ赦ニ須
 ツテアル數々ナルニヨリ我等ハ敵ヲ愛スルヲ以テ己レカ罪ノ赦ヲ受
 ケンガ爲メノ望ミ有ル方法ト爲シ性ヲ蓋シテ之ヲ益用セサルヘカテ
 ス然ルチ敵ヲ愛セス中心ニ之ヲ赦サ、ル者ハ神ノ審判ニ於テ已レノ
 罪ノ赦ヲ受ケサルナリ曰ク「爾ヲ若シ人ノ過チ免サスハ爾ノ父在天
 ノモ亦必ス爾ノ過チ免サス」(十五節)カ敵ヲ愛スル者ハ主ノ保證スル如

ク賞ヲ受ケントス即チ神ノ子トナラントス蓋シ主ハ爾ハ敵ヲ愛セヨ
ト言ヒテ後直ニ之ニ加フルニ爾ハ賞大ナリ爾ヲ將ニ至上者ハ子トナ
ラントス蓋シ彼レハ仁ヲ思フ者ト不善ハ者ニ施ス(ルカ六ノ三)
以テス然リ而シテ敵ヲ愛スル者モシ神ノ子トナレハ彼レハ使徒ノ證
スルカ如ク神ノ嗣アトツキハリストスト與ニ同嗣者(ローマ八)トナラントハ勿
論ナリナ神ノ子ハ其地上ノ行ニ於テ爾等ニ式ヲ遺シ爾ヲシテ其跡ニ
隨テ行ハシムト聖使徒之ヲ言フ(ペートル前書)何人モ神ノ子ノ如ク人
ヲ愛シテ人ニ善ヲ作ス能ハス然シテ何人モ此世ニ於テ人ニ忌惡、侮侮、
讒誣、害遂ヲ受ケ且苦ヲ受ルコト神ノ子ノ如クナラス然ルニ神ノ子ハ唯
人ヲ恨怨スルコト人ニ報復スルノ影ゾモ有セサルノコトナラス翻ツテ其
敵ニ惻然憐憫ノ情ヲ有シテ可能其ノ殘忍ヲ和ラケ慈父ノ如クニ之ヲ

敵誨シ其ノ避クムカラサル神ノ大罰ノ將ニ近ウカシトスルヲ預知
シテ痛ク之ヲ哀メリ利ハ十字架上全軀至殘ノ苦ミト尤傷心スヘキ敵
ノ罵詈訕ヲ受シレトモ主ハ之ニ向ツテ何等ノ怨言モ吐カサ唯愛ヲ充
ツルノ祈禱ヲ其天父ニ上リテ曰ク父ヤ彼等ヲ免ルセ彼等ハ爲ス所ヲ
知ラス(ト)ルカ卅三(無數夥多ノ)ハリスチアニンハ救世主ノ模範ニ倣ヘ
リ例ヘハ首致命者ステフアンノ如キ是ナリ(行實七ノ)ハ敵ヲ愛シ及作
善スルハ是レ敵ニ勝チ敵ノ我等ニ對スル恨惡ヲ消シテ之ヲ我等ト復
和セシムル最良ノ方法ナリ(ローマ十二ノ廿サムイル)我等ノ罪ヲ責メ
テ邪惡ヲ避ケシムルノ敵ハ愈々之ヲ愛シ便依從諛ノ友ヨリモ之ニ聽ク
ヘキコト勿論ナリ(箴言一ノ十八)然リ而シテ永遠ノ救ノ敵即チ我等ヲ罪ニ
引誘スル者ハ之ヲ遠サケサルヘカラス(ペートル)

二百八十六) カ罪人ヲ愛ス

「ハリストテアニン」ハ罪人ヲ其罪如何ニ重シトイヘテ愛サ、ルヘカラス
 縱令彼レハ罪人タルモ亦我カ近者タルヲ失ハズ其行ヲ革ムルヲ得ヘ
 クシテ天國ニ於テ某ノ某ニ先ニスルハ誰カ知ランヤ我等ハ罪人ヲ我
 等ト同一ノ天父ノ子トシイイススハリストスノ血ヲ以テ贖ハレシ我
 カ兄弟トシテ愛スヘシ

シリヤノイサーク曰ク「罪人ヲ恨惡スルノ心ヲ存スヘカラス蓋シ人皆
 龍ニ服スレハナリ若シ神ノ爲メニ彼レニ敵トナラハ彼レノ爲メニ哀
 ムヘシ夫レ爾ヲハ何故ニ彼レヲ憎惡スルカ其罪ヲ惡ンテ其者ノ爲メ
 ニ祈禱スル夫ノ罪人ニ愠^{イカ}ラスシテ之レカ爲メニ祈禱セタルハリスト
 スノ如クナラツテ要スヘシハリストスカイニルサリムノ爲メニ哭シ

ルカ十九ノ四十一

タルコノ如何ナルヲ爾ヲ登見サルヤ
 等ヲ嘲笑ス爾ヲハ何爲ク我等ヲ嘲笑スルノ魔鬼ニ嘲笑セラル、^{ルカ十九ノ四十一}夫レ魔鬼ハ六ニ我
 猶我等ノ如クナル者ヲ憎惡スルカ夫レ罪人ヲ憎惡スルハ何ノ爲メソ
 ヤ登其レ爾ノ如ク不義ナルカ爲メニアラスヤ愛ヲ有セスンハ爾ノ義
 何クニアル爾ヲハ何故ニ彼レヲ哀シマサルカ反テ爾ヲハ彼ヲ迫害ス」
 訓言九十五百二十)

二百八十七) サ異教人ヲ愛ス

「ハリストテアニン」ハ異教人ヲ愛サ、ルヘカラス即チ之ヲ寛宥^{クハク}シ之ヲ矜
 憐^{レハシ}シ其ノ幸福ト特ニ靈神上ノ幸福ニ助シヘシ蓋シ凡ソ「ハリストテアニ
 シ」其ノ如何ナル信仰ニ論ナク我等カ崇拜スルト同一ノ神父ニ崇拜
 シ我等カ信シ且自ラ名ヲ榮ツルノニ救世主ト我等カ信仰スル一聖神

ニ崇拜スレハナリ彼レハ奧義ヲ受ケテ之ヲ尊奉シ主イエススト其福
音ヲ信スルノ活信ヲ以テ尋ヌル所ノ永生ヲ信認スルナリ

二百八十八」又不信者ヲ愛ス

「ハリストテアノン」愛ハ異邦人回々^{ゴゴト}教人猶太^{ユダヤ}教人及ヒ凡ソ不信ノ人ニ
及ハサルヘカラス蓋シ彼等ハ皆我等ノ如ク神ノ肖ニ依リテ造ラレ其
性我等ト一ニシテ神自ラ彼等ヲ愛シテ彼等ノ爲メニスルハ亦猶我等
ノ爲メニスルカ如クイエススハリストスハ其血ヲ流セリ故ニ彼等ハ
亦猶我等ノ如クハリストスヲ信シテ永福ノ嗣トナルヲ得ヘケレハナ
リ（ロマ九ノ一至三十一ノ十八）
二百八十九」異教人及不信者ヲ愛スル本分ノ制限
然リ而シテ異教苦クハ不信ノ人ヲ愛スルハ正教ニ漠然冷淡ナルノ端

トナリ若クハ其ノ關係トナルヘカラス正教ノ「ハリストテアノン」ハ各々
其教會ヲ愛スルヲ母ノ如クニシテ其ノ之ニ悖ル者ヲ一モ思想ニ置カ
ザ之ヲ侮辱スルノ人ヲ遠サケテ之ニ違フノ書ヲ讀マス己レモモ之ヲ
有セシ（聖エヒアアノイノ訓言ニ曰ク我レ己レニ我カ教ノ敵ヲ容忍セス）
正教會ノ敵ニ敵スル異教人ノ駁証ハ正教會ノ老成明識ナル牧師ノ裁
定ニ呈シ異教人ト何ノ爭論ヲモ爲サスシテ常ニ有害ナル者ハ之レカ
爲メニ祈禱シテ主ハ自ラ之ヲ導キテ正教會ニ順ハシメシテ願ヒ而シ
テ不信者ノ爲メニハ之ヲ無智ノ黑暗ヨリ出タシテ之ニ聖洗（機密ヲ成
サシコトヲ求メサルヘカラス）

二百九十一」ハリストテアノン」ノ死者ニ對スル本分

「ハリストテアノン」ノ近者ニ對スル愛ハ唯此世ニアルノ近者ニ止ラヌ死

者ニモ及フヘシ一時ノ死ハ我カ近者ニ對スル外面ノ關係ヲ絶ツモ我
 カ愛ト總テ我カ彼レニ對スル本分ヲ絶ツヘカラス
 一死者ニ對スル我カ本分ハ其ノ永遠ノ救ヲ願フノ祈禱ト之カ爲メニ
 貧者ニ作善スルニ在リ特ニ無血祭ヲ行フ時ニ之ヲ記憶スルニ在リ近
 者ニ恩惠スルハ死者ノ爲メニ祈禱スルニ若ク者アルナシ蓋シ生者ハ
 ハ身自ラ助タルヲ得レト死者ハ倘シ他ノ助ヲ受ケサレハ自ラ己レヲ
 助クル能ハサレハナリ「ハリスデアコン」中何人モ此ヲ爲スノ資料ナキ
 事以テ死者ニ助クルハ本分ヲ道ル能ハス蓋シ司祭カ大機密ノ前ニ於
 テ凡レ信ニ於テ死セシ者ノ爲メニ祈禱スル時各々己レノ祈禱ヲ教會
 ノ祈禱ト合スルヲ得ヘケレハナリ倘シ死者ノ記念ニ於テ貧者ニ散
 スルノ資料有ラズンハ聖金口ノ言フ如ク唯能クスル所ニ循ヒテ與フ

ハ、此レ爾チハ大ニ爲セルナリ「使徒行實廿一講談」若シ爾チハ一物
 事有セザルニヨリテ此ヲモ爲ス能ハス「爾チハ樂世セシ近者ニ關
 係シテ慨嘆ヲ發シ其ノ神ノ前ニ幸生ヲ受ルヲ願ヒ其主ノ前ニ祈禱ス
 ル心ノ嘆息ト「ハリスデアコン」タル關係ノ涙トハ近者ノ靈ニ安慰ヲ齎
 ラス「トチ信スルヲ得ヘシ」
 三「ハリスデアコン」ノ愛ハ其照顧ヲ己ニ死シタル近者ノ体ニ及ホスヘ
 シ神ノ救ハ我等ニ死者ノ體ヲ重ニスルヲ勸ム蓋シ體ハ機密ヲ以テ特
 ニ主イオニススノ尊體尊血ヲ領スルヲ以テ聖コセラレシハリストスノ
 肢、聖神ノ殿ニシテ將來靈活、不朽、光榮ナルヘキ体ノ種子ヲ自ラ保有
 スレハナリ然シテ死者ノ体ヲ辱シムルヲハ常ニ重罪ト爲スナリ「ハリ
 ステ」
 「愛ノ本分ハ要求スル」左「如シテ」体ヲ地ニ瘞スルハ死

者ニ適當ノ尊敬ヲ以テシテ教會ノ式ニ備フヘシ然リ而シテ虛浮華美ナルナク遺族ノ安ヲ害スルコトナカルベシカ(或主教官ニル有リ曰ク「已レノ手ヲ以テ死者ノ目ヲ瞑セシムヘシ」已レノ手ヲ以テ其口唇ヲ合シ且之ヲ洗フヘシ倘シ彼レ貧ナラハ宜キニ從ヒ扶ケテ之ヲ瘞スヘシサ)死者ヲ昇スルヲ見バ己レノ所親ヲ哀ムカ如クニ之ヲ哀ミ送リテ墓ニ至ルヘシ爾ナハ彼レノ死ニヨリテニツメ益ヲ得ルナリ自己ノ終リヲ想起シテ自ラ謙セシトス其体ヲ憐ミ之ヲ棺ニ殮ムヘシ而シテ自ラモ憐マレメトス(聖ケンナード「ハリステアコン」ハ信ト行ノ「十七ノ六十二」)

(三)死者若シ書又ハ言ヲ以テ死後ニ或措置ヲ成サンコトヲ我等ニ遺囑シヨラシニコ其ノ意旨福音經ノ法ト國家ノ法ニ反ラスシテ異邦人ノ例ニ依リ起出シタル人ノ遺愛ヲ出ツルモノニアラスンハ我等ハ極メテ精

準ニ此ヲ成サシムルヘカラス使徒曰ク「人ノ約既ニ定マレハ之ヲ破スル無ク又之ニ加フル無シ」(ガラテヤ三ノ十五)

二百九十一 近者ヲ愛スルノ本分ニ悖ル罪

近者ヲ愛スルノ本分ニ悖ル罪ハ左ノ如シ

(一) 冷淡及不慈悲

本分ノ要求ニ依リ他ノ善ヲ助クルノコトヲ慮ラサル者ハ冷淡ノ罪ヲ犯ス然シテ大ナル不幸ニ在ル者ニ力ニ應スルノ助ヲ與ヘサル者ハ不慈悲ト名ツケラル此ノ惡行ノ例ハ強盜ニ傷ケラレテ傷ニ生テ得タル人ニ遭ヒ傍觀シテ過去リタル司祭ト輪祭ニ於テ見ルヘシ(ルカ十ノ三十一)

冷淡不慈悲トハ時トマテ近者ニ至大ノ害ヲ蒙ラシムルコトナル罪ナリイオニススハハリスニススハ之ヲ爲メニ永刑ヲ定メタリ曰ク「爾等祖ヲ受

ル者我ヲ離レテ永火^{ツカヒ}コ入レ乃^{ツカヒ}至魔鬼及其使^{ツカヒ}ノ爲^{ツカヒ}ト云^{ツカヒ}テ爾^{ツカヒ}者ナ
 リ蓋シ我レ飢エシ時爾^{ツカヒ}我レ^{ツカヒ}食ハシメス我カ渴キシ時爾^{ツカヒ}我ニ飲
 マシメス云々(マトフエイ廿五ノ)主又言ヘル有リ曰ク惡ノ貫盈スルニ
 當リテ多人ノ愛情漸ク冷カナラシ(廿四ノ)主ノ胸前ニ席臥シタル門
 徒モ亦同ク證說シテ曰ク兄弟ヲ愛セサル者ハ死ニ居ル(イチャアン
 一書三ノ
 十四)

二百九十二(二)憎惡

憎惡即チ冤讎ハ此レ近者ニ直ニ或惡ヲ希フノ心情ナリ此レ全ク愛ニ
 悖ル乃チ死罪ノ一ナリ近者ヲ憎ム者ハ屬神ノ生命有ラスシテ其罪ハ
 人ヲ殺ス者ト均シ曰ク兄弟ヲ愛セサル者ハ死ニ居ル凡ソ其兄弟ヲ憎
 惡ハ即チ人ヲ殺ス者ナリ爾^{ツカヒ}ハ知ル凡ソ人ヲ殺ス者ハ永生ノ其衷ニ

存スル無キチ(イオアソ一
 書三ノ十五)此罪ノ重キハア種々ノ關係ニヨリ又情況

ニヨリテ増加スルナリ例ヘハ夫婦相羨視シ子父母ヲ憎惡スルノ類ノ
 如シカ他ノ爲メニ欲スル所ノ惡ノ分量ニヨリ品性ニヨリテ増加スル
 ナリ蓋シ人他ノ爲メニ愈々惡ヲ欲スレハ其ノ之ヲ惡ムノ罪ハ愈々重
 シ然リ而シテ其心ニ料ラス不快ノ感ノ生スルハ正理ニ悖ルモノト雖
 其人ヲ以テ此罪ヲ犯ス者ト名ツクル能ハス蓋シ憎惡ハ心ノ冤讎ニ傾
 クニ在リテ一片ノ感覺ニ在ラサレハナリ
 且近者ノ褻瀆不義苛虐ノ舉動ヲ目撃シテ己レニ感スル所ノ厭惡ハ人
 ヲ憎惡スルト混スヘカラス一ハ罪人ヲ憎ミ一ハ罪ヲ憎ム初ハ其近者
 ノ惡害亡滅ヲ願ヒ二ハ其行ヲ革メンヲ願フナリ
 爭端ハ憎惡ヨリ起ル廣義ヲ以テスレハ爭端ハ凡ソ心意ヲ分離シテ其

心ヲ合同スル愛ノ聯合ヲ裂ク不和ノ謂ナリ若シ此ノ言ノ義ヲ更ニ聚
 用スレハ爭端ハ凡ソ事物ニ關シテ其ノ一ヲ欲シ其ノ一ヲ欲セサル意向
 ノ分ル、チ謂フナリ敵者各々固執シテ已レノ意見ノ正キヲ證セント
 欲スル時ハ之ヲ爭論ト名ツク爭端增長スレハ轉シテ爭論詞訟トナリ
 紛擾、兵刃、肢敵ヲ生ス主神ハ爭端ヲ播ク者ヲ憎ム(箴言六ノ十)夫レ講和
 者チ名ツクルニ神ノ子ヲ以テスレハ(マトフニ)魔鬼ノ子ノ稱ハ爭端
 チ播ク者ニ屬スヘシ使徒パウロハ羅怨、爭闘、分争、肢敵、異端ヲ拜偶像、
 殺人及姦淫ト並ヘ置キ之ヲ行フ者ノ天國ヲ嗣カサルヲ言テ曰ク「我レ
 嘗テ之ヲ言ヒ今復テ預メ爾ニ語シ凡ソ此ヲ行フ者ハ必ス神ノ國ヲ嗣
 カスト」(ガラテイヤ)
(五ノ廿一)

二百九十三 三 娼妓

娼妓ハ人近者ハ善チ觀テ此ノ善ハ己レノ功徳尊貴幸福チ毀損スルト
 想ヒ感スル所ノ憂悶ナリ娼妓ハ死チ致スノ重罪ナリ蓋シテ娼妓ハ近
 者ヲ憎ムヨリ生シ自愛ノ一種特別ナル者ナリ情慾ノ母ナリ娼妓ハ最
 感易キ煩悶詭譎ナル自愛ナリ故ニ聖書ニ之ヲ名ツクルニ苦嫉若ク
 ハニヤキニ怨争チ以テス曰ク「若シ爾ノ中心ニ苦嫉ト怨争トテ懷カハ誇ル勿レ
 識リテ眞理ニ敵スル勿レ云々」(イアコフ)三 娼妓ハ其性タル毒物ノ如ク
 觸レ至ラサル所無ク唯近者ノミナラス自ラ此ノ娼妓ニ感染セル者ノ
 爲メニモ茶毒チ爲ス曰ク「蓋シ娼妓怨争ノ在ル所ハ必ス乱ト凡ソノ惡
 行トアリ例之ハ社會ノ爲メニ有益ナルノ才能ヲ窘迫シ善行ヲ責メ他
 ノ名譽ヲ汚スカ如キ其ノ之ニ加フルニ器械ヲ以テセスシテ乃チ靈ヲ
 困乏スルヲ以テ心ヲ衰枯セタルヲ以テシ近者ヲ死ニ至ルヲモ
 ヲカス」

願ミサナリ娼妓ハ全社會ニ爲メニモ害アリ試ニ世界ノ史乘ヲ稽カ
 ハ熱心ノ情ヲ以テ他ニ服役スル高貴ナル人ヲ娼妓ニヨリテ殘敗セ
 シト幾何ナルヤ蓋シ驚駭ニ堪ヘテラントス娼妓ハ此ノ如ク有毒殺害
 ナル惡ヲ社會ノ中ニ流ス時ハ是レ其根源ニ於テ即チ人ノ心ニ於テ極
 テ慥ルヘキ陰府アルヘシカ娼妓ハ近者ノ善ニ煩悶ス乃チ近者ニ對シ
 又善ニ對シテ相爭スルナリ故ニ既ニ諸善ノ源タリ又其施與者タル神
 ニ叛逆スルナリ此レ豈墮落ノ鬼ノ境ト同様ナル境ニアラズヤ聖書ハ
 娼妓ノ始メテ魔鬼ニ歸シ名ツケテ魔鬼ノ罪ト曰フ(ソロモン智慧書二ノ廿四)神首
 ノ眞實講明者タル聖神父言フ魔鬼ノ初罪ハ即チ娼妓ナリト醫ニ光明
 神タル魔鬼ハ高シ識力ニ有シテ萬物ノ高處ニ在リ(ヨストウノ聖書)
 神トイ即チ神ノ自ラニ次我等人間ニ現ハルニ多洞察スルノ處ニ立ツ

テ自個一己ノ完全ニ毀シヨハ人ノ幸福ノ此ノ如ク大ナルト神ノ人ヲ
 愛スルノ此ノ如クナルニ堪フルヨ能ハシ其願敵ヲ以テ神ノ前ニ妄想
 不遜ヲナセリ此レヲ終ニ光明ノ神ヨリ惡掃黑暗ノ鬼トナレリサ近者
 ヲ惱シテ奪ハント欲スル所ノ善ノ大ナル程ハ其罪益々大ナリ屬神ノ
 善ト神ノ愛ト恩寵トニ關スル娼妓ハ特ニ咎責スヘキナリ故ニ神學者
 聖イオアン証シテ曰ク爾ヲ始メヨリ聞ク所ノ命乃チ彼此宜ク相愛ス
 ヘシ該隱ニ效フ勿レ該隱ハ惡者ヨリ出テシ者ヨシテ其弟ヲ殺セリ胡
 爲ソ之ヲ殺ス己レノ惡ヲ行ヒ弟ノ善ヲ行フニ因ル(イオアン一書三ノ十一十二)
 此惡ハ毎々他ノ多クノ事ニ合用シ特ニ偷搶、匪望及其他ノ褻瀆ノ行
 ノ娼妓者カ人ヲ其ノ占ムル所ノ地位ヨリ擠陷セント欲スル者ニ合用ス
 此大罪大咎也可キ一有リニ有ラサル罪即チイイススハリストスノ

百々如次今世ニモ來世ニモ救大ヘカラザル聖神ヲ虔敬スルニサタシ
入罪ニ首トシテ娼妓ヨリ生ヒ終コナ娼妓ハ其ノ之ヨリ人ノ爲メニ
何ノ快樂モ何ノ有益モ生セザルノ特性ヲ有ス凡ソ他ノ罪ハ近者ニ關
シテ或ハ利益ノ有ルモ娼妓ハ唯其情ム所ノ者ノ幸福ヲ見サラン
トスル一種道フヘカラザルノ快樂ヲ除クノ外概シテ一モ己レノ爲メ
ニ尋ネサルナリ彼レハ近者ノ幸福ニ煩悶ス己レニ無キ所ハ人ニ之ヲ
有セザラシメ人ノ有リ及ハ有セントスル者ハ己レ獨リ之ヲ有セント
要ス大臣アマノハアムドフイノ位ガ己レニ下ル數等ナリト雖其ノ同
以朝ニ立クヲ妬忌セシカハ使察ホスシテアルドフイノ爲メニ校視ノ
本ヲ立ツ(一七三) 一人ノ家子カイノ其兄弟アケルノ獻祭ノ
己レノ獻祭日天モ尙歸ニ喜ハル士以テアケルノ生テ見ルヲ欲セス

五百五十一

創世紀四

四至六

イウズ善長者等ノ娼妓ハ義人預言者中ノ最大ナル者ヲ
地上ヨリ除カント欲セリ且彼等ハ己ノ私見ニ循テ神人ナル神人子
ヲ亡サント欲セリ(一七八) 此レ蓋シテ其行フ能ハサル
如ク奇跡ヲ行ハサランシメ其導ク能ハサル如ク神人民ヲ神ニ導ガサラ
シメ神聖ナル真理ノ證者アラス民ヲシテ彼等ヨリテ生活セシメテ之
ヲ私己ノ黑暗無智偽善貪欲及虛榮ノ範圍中ニ持スルヲ得ンカ爲メ
ナリ
二百九十四 四 爾ヲ喜フ
愛コ言フ所ノ娼妓ハ或ハ人ノ不幸ヲ見テ喜悅スルヲ喜ヒコ聞スルナ
リ特ニ邪惡嫖蕩ノ人ハ無玷且敬虔ノ人若クハ高ク國家ニ位シ又ハ教
會ニ在ル人ノ一朝罪ニ陷イルヲ見テ感觸スル所ノ喜ハ之ヲ魔鬼ノ喜

五百五十二

指示シテ曰ク「愛友ヨ己レカ穢ニ報ニル勿レ事ヲ退處シテ以テ怒ヲ待
 テ蓋シ録ノ云ヘル有リ報讎スルハ我ニ在リ我レ必ス之ニ報イン」
 九ノ十)然ルニ若シ人各々已レノ爲メニ報讎セントセハ就テ人間社會
 ニ何事ヲ生スルアラントスル我等ハ縱令靜平ノ神氣ヲ建テ得ルモ報
 剛スヘキ事ノ理由ト其輕重ヲ準定スル能ハサルナリ若シ目下侮辱ア
 ルニヨリ我カ必情ヲ動乱スル時ハ如何シテ之ヲ定ムルヲ得ンヤ怒
 空ノ件、想像、妄想、讒言、誣罔ノ類ノ如キ相向ツテ屢々我等ヲ激怒スル
 所以ノ者ハ人ノ明ニ得サル所ナリ他ノ我等ニ於ル眞ノ關係ヲ能ク
 知ルアルナク人ノ我レニ負クヨリモ時トシテ我レ人ニ負イテ罪ヲ犯
 スヲ往々アル可ク我等ハ如何テ其權理ヲ伸マルヲ辨ンヤ我等ノ
 自愛、小器、妄想ハ時乘テ其ヲ我カ自ラ犯ス所ノ者ヲ以テ容易ニ人

ヲ罪スルアラントス激怒スレ又シ困辱シテ益々昏マサル、時ハ
 特ニ其レ然ルナリ故ニ我カ近者ニ對スル至重ノ關係ハ事口全知公義
 ノ神ニ任^カテ自ラ已テ防守セサルノ勝レルニ如カサルナリ侮ノ爲メ
 報讎スルハ他ノ報讎ヲ生ス此レ復ターノ報讎ヲ起シテ野蠻ノ民ニ
 在ルカ如ク底止スル所ナカラシ其間ニ爭端ノ閃光ハ變シテ火焰トナ
 リテ全國全民ヲ擁セントス然ルニ廣義ヲ以テスレハ怨恨ヨリスルニア
 ラスシテ義ニ據リテ生スル報復伸冤ハ人之ヲ作スヲ得ヘシ唯各自ノ
 獨裁ニヨラス裁判ト法律トニ依リ之カ爲メ法律ヲ任セラレタル人
 ナ以テスヘシ曰ク爾ヲ若シ惡ヲ行ハ、畏ルヘシ蓋シ彼ハ徒然ニ刀ヲ
 操ルニマラス彼レハ神ノ僕、怒ヲ以テ惡ヲ行フ者ヲ討ス(三ノ四)
 報復ハ唯事爲ヲ以テスルノ爲ナラス乃チ又語言ヲ以テ例ハハ説經

爲善惡言ノ類ノ如シ近者ヲ愛スルノ本分カ此等ノ報讎ヲ以テ破ラレ
 ハ猶事爲ヲ以ケスルカ如ク時トシテハ語言ノ報讎ハ事爲ノ報讎ヨ
 リ甚キアリ此犯罪即チ語言ノ報讎ハ種々ノ情狀ニ依リ添加ス例之ハ
 子ノ父ヲ惡言スル時ノ如シ特ニ縱ヒ潦草ニ出テ唯忿情ノ熾ンナルニ誘
 ハレタルモ其面前ニ於テスル如キハ父ニ重辱ヲ蒙ラシメテ此罪ノ爲
 メニ自ラ重罪ニ服セントス曰ク或ハ曰フ父ヲ欺キ或母ノ言ヲ聽クヲ
 以テ^{ケイダク}逸忽ヲ爲セハ谷鴉將ニ之ヲ啄ミ鷹雛將ニ之ヲ吞マントス
 (箴言廿ノ十七)

第二章

近者ノ身ニ關係スル本分ヲ論ス

二百九十八) 近者ノ身ニ關係スル本分ノ目的
 「六ツクテマヤメ」ハ近者ヲ愛スル只己レノ如クスルニヨリハリステ

「近者」ハ近者ノ本身ニ關スル本分ノ目的ハ其ノ自己ニ關スルモノト
 同キナリ即チ「靈魂ヲ慮ルナリ」ニ「身体ヲ慮ルナリ」
 (二百九十九) 近者ノ靈魂ヲ慮ル
 近者ヲ愛スルハ特ニ近者ノ靈魂ト其ノ永遠ノ救ヲ其目的ト爲スヘシ
 我カ中靈魂ノ救ノ貴キヲ知リテ眞コ之ヲ己レニ得ント欲スル者ハ他
 ノ救ニモ助ケサル能ハス救道ヲ施スノ人眞實ノ精神ノ貫ク所トナリ
 テ之ヲ人々ニ傳アルノ熱心ナルハ之レカ爲メニ現生ノ諸慰ヲ察テ、
 其ノ功勞ヲ共ニスル諸々ノ禍害ヲ甘ニスルニ至レリ例ヘハモイセイ
 ノ如キ(エウレイ十一) 使徒パウロノ如キハ若能ク此ノ如キノ愛ト
 借ニ己レヲ得ハ一己ノ救ヲ犧牲ニシテ衆人ノ救ノ爲メニスルヲナ
 シテトセリ夫レ此ノ大人ニ多ノ怖ル可キ今世ノ禍害ニ遭達セシ

母人産を助養を忍耐せし如くたゞニモ拘ハラズ其ハリキト本ノ状
 各信者ニ成テメテ期望ス(コリント一四ノ十九)然リ而シテ是人如クニ感
 想スヘキハ唯施教者ノ本分ナルノミナラス凡ソハリステアコンノ爲
 メニモ一般ノ本分ナリ
 凡ソ「ヘリステアコン」ハ必ズ近者ノ靈魂上ノ安全ヲ慮ルテ使徒パウロ
 ノ言人如ク異ニ同一体ノ諸肢(コリント一六ノ十二)ノ互ニ活潑ノ關係ヲ相
 爲ス如クセサルヘカラス使徒パウロハ屬々衆ハリステアコンニ其救
 功ノ爲メニ合サニ己ガ益ヲ求ムル母シ他人ノ益ヲ求メ(コリント一四ノ二十)
 此レカ爲メニ高上ノ智識モ若シ其レ之カ爲メニ在弱ノ兄弟ノ徳ヲ養
 ハサルアランニハ時トシテ之ヲ捐ツヘキヲ勸ム(コリント一八ノ二十一)此
 主義ハ聖神父等人居常説教ノ一主義ナルナリ此ノ如ク聖金口ハ好シ

テ其ヲ説教シ此義ニ及セシリ金口人々靈魂ノ救ヲ念フテ以テ己レヲ爲
 シ本分トシテ視サル者ニ告テ曰ク嗚呼如何シヤ如何シヤ爾ノ鄰羊カ震
 驚セラレテ途上ニ横メテラシム爾ハ之ヲ舉起セス又其鄰ニ告ケサル
 カ爾ノ近者ノ靈魂ノ震驚セラレ若クハ迷誤セルヲ見バ心ヲ留ムヘキ
 豈鄰羊ヨリ輕シトセシヤ火焰ハ既ニ爾ノ同郷人ノ家ヲ燒セバ爾チ
 坦然トシテ此災ヲ傍觀坐視スル能ハサラン人ノ情慾ノ焰中ニ在ルチ
 自撃シテ爾チハ何故ニ毫モ爾ノ心ニ感々タラサル加之爾曹尙シ欲ス
 レハ相匡正スルヲ得ルハ我情ヨリ多ク爾等互ニ相見ルノ時ハ我情ヨ
 リ多ク互ニ相知ルヲモ我情ヨリ多シ(ユウレイノ書解説十)
 三百ノ近者ノ智慧ヲ翻スル本分ニ眞實ヲ言フノ本分
 人ノ智慧ハ眞實ノ爲メニ造成セラレタリ此ノ眞實タル我等ハ常ニ己

以入爲大ニ人爲メニモ之ヲ重シキルヘオラス是ヲ以テ我等ノ
 近者ヲ愛スルハ一モ猶詐虛飾及假偽ヲ以テ言說セザラシク要ス此ノ
 言ヲ行トコ正直ナルハ全社會ノ安寧モ之ヲ要スルナリ蓋シ若シ互相
 ノ信託依頼アラスハ社會ハ叫乱シ若シハ全シ破壊スルハ必然ノ理
 ナリ聖書ハ隨在此本分ヲ勸勉ス（例ハハマトフェイ五ノ卅七コリソフ前
 書十三ノ六フイリア四ノ八エフェス四ノ
 廿五ペートル前書）初蒙子（ハリスステアニン）カ凡ソ猶詐ト假裝トチ
 二ノ一及廿二（アリホット對話）トアレシ
 厭惡セシコソ幾何クナルハ聖イウステア（アリホット對話）トアレシ
（二七章）
 二百一）カ近者ノ智慧ヲ教化スルヲ慮ルコ
 我等近者ノ智慧ヲ教化スルヲ慮ルハ必ス特ニ救ノ爲メニ緊要ナル若
 シハ究竟スルニ最有益ナル知識ヲ給與シテ之ヲ増殖スルヲ以テセザ

ルヘカラス故ニ他人爲メニ眞實ノ教化ヲ得セシメント願フ者ハ先ツ
 之ニ眞實ノ教ト「ハリステアノン」ハ本分ヲ識ルノ緊要ナル知識ヲ給與
 スヘシ然リ而シテ有益ナル者ノ中ニ於テ特ニ各人ニ其擔任スル所ノ
 本分若シハ職務ヲ合當ニ履行セシカ爲メニ急々緊要トスル者ヲ揀擇
 セシムヘシ此ノ如キ教化ハ無論人類ノ特別ナル寵惠ニ屬ス翻ツテ近
 者ニ明白確實ニ教理ヲ領會スルコトヲ傳フルト之ニ敬虔ノ業事ヲ務ム
 ルヲ教フヒトナ慮ラスシテ獨リ智慧ノミヲ教育シ利ヘ青年ノ人ニ凡
 ソ聖ナル者ヲ虔恭スルノ心ヲ削滅スル者ヲ教フルチ力メ生成ノ驕傲
 物欲ノ意願トヲ奮起セシムル者ハ重シ罪ヲ犯スナリ年齢ニ不適當
 ナル書ヲ讀ムハ依テ老成者ノ有智温良ナル諭訓ニ留心セサルコヨリ
 不受ナルハ必ク以テスルヨリモ智慧ヲ以テスルノ信教ハ遠ニ無結

果ナリテ速ニ遺忘シ且輕忽セラレントス
三百三 黙ニ謹慎
 我が智識ト我カ學問トハ尽ク近者ニ傳フヘキニアラス近者ヲ益スル
 カ爲メニ或ハ黙セサルヘカラズ唯言フヘキノミナラス黙スヘキノ時
 アリ傳道之書箴言書中舌ヲ守ル程大ニ勸勉スル者アルナシ生死ハ其
 權中ニ在リ十八 克己ノ尤難ニスル所ハ恐クハ合當ニ舌ヲ勒スル
 ニ如クアルナシ蓋シ使徒イアコフ言フ有リ言語ニ愆無キ者アラハ是
 全人ナリイアコフ此ノ使徒ハ又口ヲ守ルヲ輕易コスルヨリ毎
 ヲ生スル所ノ惡ヲ活筆ヲ以テ象示ス參看「若シ爾ノ中自ラ虔恭
 者ト謂フテ其舌ヲ勒セス乃チ自ラ其心ヲ欺クアラハ其虔恭ハ徒然
 ナリイアコフ」蓋シ其舌ハ虛妄邪惡ノ言ヲ吐キ特ニ說經惡言ス

ル者ニ安ソ眞ノ敬虔ト眞ノ德行ヲ歸スルヲ得ンヤ曰ク善人ハ心ノ善
 ノ積ム所ヨリシテ其善ヲ著ハシ惡人ハ心ノ惡ノ積ム所ヨリシテ其惡
 ヲ著ハス蓋シ諸チ心ニ充ツル者ハ諸チ口ニ言フナリルカ六
 然リ而シテ我等口言ヲ慎ムヘキコト既ニ此ノ如クナラハ其意思ヲ紙上
 ニ移サンニハ愈々謹慎ヲ守ル可キコト幾許シヤ抄シ且特ニ印セシ者ハ
 久シク存シテ無數ノ惡ノ緣由トナル可シ己ノ手筆ヲ以テ近者ニ對ス
 ルノ惡言、嘲侮、縱謗ヲ播布シ若クハ肉情ヲ燃起シテ敢テ尊重スル心ヲ
 殄滅セント圖ル者ハ實ニ爲ス所ヲ知ラス
 近者ヲ愛スルノ本分ハ凡ソ聞ク者ノ爲メニ害トナルヘキ者ヲ緘黙セ
 ンヲ要ス宜ク緘黙スヘキハ「謙レハ庸衆人ノ紛惑トナルヘキ者ナリ
 例ヘハ敢ニ敢スル詭譎ナル駁證ノ如キ之ヲ辨白セン爲メニハ大ナル

推理、卓絶、智識、要スル者は、痛、物欲、人望、テ激動シテ無
 害ナル青年、嫖蕩、人危キニ罹ラシムル者ナリサ、總シテ凡ソ人間ノ劣
 弱、最速ニ妄用ヲ作ス可キナリ、
 三百三、（一）「護秘」
 近者、愛スルノ本分、自他ノ隱密ヲ護セシテ要ス隱密ヲ護スルニ關
 シテ注意スヘキモノ左ノ如シ、（一）宜ク我カ自己ノ隱密ヲ掩ヒ他ヲロテ
 我カ易直ヲ惡用セシメサルヘシ、（二）多言者ノ口ハ言フ所他ニ属シ只智者
 然言、（三）稱ヲ以テ稱ル愚者ハ心、其口ニ在リ只智者ノ口ハ其心ニ在リ、
（四）「シラフ九廿一」故ニ眞率、樸直ハ尊ラヘテ又嘉ミスヘシト雖若シ戒
 必ナクシテ彼レハ若クハ愚若クハ妄ナリ曰ク「智ハ蛇ノ如ク馴ルハハ
 鳩ノ如クナレドモ」（五）「ハトフイ十」カ或ハ交誼ノ深キニ感シ或ハ我カ此ヲ

守ラシテ諾マサルニモ及他人ノ隱密ヲ托ヒテシラフハ音兄弟ノ
 愛ノミナラス天然固有ノ權理モ發泄スルヲ禁ス（六）「爾ナ言ヲ聞カハ爾
 ト俱ニ亡フベシ」憂ヲルコ勿レ言ハ爾ヲ破裂セサルナリ（七）「シラフ九十」
 故ニ縱令我等ハ緘黙スヘキノ約ヲ爲サ、ルモ重要ノ事ニ於テ其ノ己ニ
 移サレタル隱密ヲ護ルハ約セシ者ノ如ク想定スルヲ爲ス若シ我等例ヘ
 ハ文書ヲ見テ偶然ニ或密私ヲ認メハ兄弟ノ愛ハ之ヲ播揚スルヲ禁ス
 公職ヲ任スル者且起誓ヲ以テ要セラル、者ハ特ニ隱密ヲ護ランテ要
 ス例之ハ重要ナル國家ノ樞密ニ參スル王ト親近ナルノ人并ニ醫、司祭
 ノ如キ是ナリ唯私自ノ善メ爲メノミナラス公共ノ善ノ爲メニモ必ス
 黙セサルヘカラス彼等ハ毅然トシテ緘黙ヲ守リ如何ナル恐嚇モ眩感
 モ己レヲシテ其托セラレタル隱密ヲ發泄スル能ハサランムヘシ唯我

カ帝位ト本國ト於ル高上至聖ナル本分カ誠獻ニヨリテ破ラレント
 スル時ハ隱密ヲ發シ得ルシミオラス必ス發シサレヘカラス即チ王ト
 國家ノ幸福ニ對シテ不利ヲ謀ラントスル人ノ企圖、匪望ヲ知ル者ハ其
 匪徒如何ナル起誓、又、如何ナル恐嚇ヲ以テ己レヲシテ其隱謀ヲ秘セ
 シムルハ必ス之上司ニ告明セサルヘカラス蓋シ不法ノ起誓ハ起誓
 ニアラサレハナリ縱ヒ此ノ隱謀ヲ發覺スレハ生命ヲ危ウスルノ恐レ
 アルハ黙止スヘカラス蓋シ近者ヲ救フカ爲メニ其靈ヲ捐ツルヨリ大
 ナル愛アラサレハナリ矧ヤ國家ノ爲メチヤ（イオアン十五ノ十三）
 三百四 近者ノ意志ニ關スル本分
 ア兄弟匡救
 我等ハ近者ヲ愛スルニ依リ必ス其ノ德行ニ趨向スルヲ助ケテ迷謬若

クハ邪惡ヨリ絶タシメサレヘカラス此ノ兄弟匡救ナル者ハ合法ノ權
 ヲ以テ若クハ一箇人ヲ以テ職分ニ依リ爲ス所ノ勸戒ト同シカラス此
 ノ兄弟匡救ハ我カ近者ニ關スル眞成ノ本分ニ属ス蓋シ罪ハ至大ノ惡
 ナレハ眞ニ其近者ヲ愛スル者ハ近者ノ此惡ヲ蒙フルト永遠ノ亡ノ近
 者ヲ嚇スルトチ視テ惻然タルナク之ニ及ブ可キノ助ヲ假サ、ルコト豈
 其レ得ンヤ使徒パウロ曰ク誰カ弱ニシテ我レ弱ナラサランヤ誰レカ
 迷惑シテ我レ熱中セサランヤ（コリント後書十一ノ廿九）使徒イアコフ書シテ曰
 シ兄弟ヨ若シ爾ノ中或ハ眞道ヲ離ル、者アラシムコ之ヲシテ正ニ反セ
 シメバ當ニ知ルヘシ人若シ罪人ヲシテ其惡道ヨリ反セシムルハ乃チ
 一靈ヲ救ヒ死ヲ免レシメ且ツ罪ヲ掩フコト多キヤ（イアコフ五ノ十九二十）救世主
 自ラ命シテ曰ク若シ兄弟罪ヲ得バ往テ爾ナト彼レト獨處ノ時ニ

之ヲ責メヨ如シ爾ナニ聽カバ爾ノ兄弟ヲ獲シ(マトフニイ十八)

三百五 兄弟匡救ノ爲メニ欠ク可ラサル要領

兄弟匡救ハ神ノ命ナリト雖我等必ス唯或事情ト要領トニヨリテ之ヲ行ハンチ要ス此匡救ハア我等近者ノ罪ヲ委シテ身自ラ實ニ匡救セサ
ラソチ確實ニセハ則チ之ヲ行フヘシ曰ク未タ試ミサルニ責ムル勿レ
先ツ認知シテ然後之ヲ禁セヨ(シラフ十) 然リ而シテ若シ重罪ヲ犯ス
ノ患アレハ無論ニ能クス可キノ智慮ヲ竭クシテ匡救ヲ行ハサルヘカ
ラス人ノ上タル者ハ其ノ屬下者ヲ縱令未タ犯サ、ルモ將ニ犯サントス
ルノ罪過ヨリ預防備禦セサルヘカラス然ルニ一ハ愛ヨリスルノ預備
ニシテ一ハ有罪者ノ督責ナリト云フニシテ我レヨリモ適宜ナル者アルナシ
カ近者ニ他ノ我ヨリモ恰當ニシテ我レヨリモ適宜ナル者アルナシ

ハ兄弟ノ情ニ依テ之ニ忠告ヲ爲ス

サ近者ニ害ヲ蒙ラシムルノ患アラスシテ此匡救ニヨリ結果ヲ期スヘ

クソハ之ヲ做スヘシ我等若シ匡救ハ無結果ナルヘシ將タ又有害ナル

ヘシト思フノ理由アラハ必シモ之ヲ做スヘカラス曰ク智者ニ傳授ス

レハ彼レハ智ヲ益シ義者ヲ教導スレハ彼レハ學ニ進ム(箴言九)

若シ此要領中或ハ欠クルアレハ兄弟匡救ヲ舍クヘシ然ルニ若シ益ク

此ノ要領アレハ兄弟匡救ヲ舍テ重ク罪ヲ獲ヘカラス主イエイススハリ

ストス明ニ命シテ曰ク倘シ爾ノ兄弟罪ヲ爾ニ獲ハ往イテ之ヲ責メヨ

(マトフニイ十)
八ノ十五

三百六 兄弟匡救ノ順序

主イエイススハリストスハ兄弟匡救ノコニツキ其ノ從フヘキ順序ヲ示

ンテ曰ク「倘シ兄弟罪ヲ爾ニ得テ往テ爾ト彼ト獨處ノ時ニ之ヲ責メヨ
 如シ爾ニ聽カバ爾ノ兄弟ヲ獲ン聽カスンバ一二人ヲ招テ爾ト偕ニ二
 三證者ノ口ニ由リテ言々徵有ルヲ致セ若シ猶ホ聽カスンバ會ニ告ケ
 ヲ若シ會ニ聽カスンバ爾ト之ヲ視ルテ異邦人ト稅吏トノ如クスヘシ」
 (マトフニイ十八ノ) 十六十六十七

此ニヨリテ之ヲ見レハ近者隱ニ罪ヲ犯サバ兄弟匡救ヲ之ニ獨處ニ行フ
 ヘシ彼レ若シ改メスンハ他ノ一二ノ有智ナル者若クハ彼レニ對シ或
 ハ勢力ヲ有スル者ソ前ニ於テ其勸和ニ頼テ之ヲ責ムヘシ若シ猶改メ
 ヲ依然トシテ罪ニ止ラハ之ヲ其頭長ニ申スヘシ即チ教會ニ告クヘシ
 然ルニ近者ニ獨處ノ匡救ヲ爲サスシテ直ニ頭長ニ申スヘキ時機アリ
 即チ一近者カ多人若クハ全國ニ大害ヲ蒙ラシムヘキ罪過ヲ行ヘル例

ヘハ大逆、謀叛、及異端、岐教人如キ隱然トシテ其行爲ト其勢力トヲ及ホ
 サンテ圖ル時ナリ二温良有智ニシテ善ク斷スル一般ノ信用ヲ獲タル
 頭長ニ依頼シ其説諭ニヨリテ鴻益ヲ見ルヤキノ時ナリ此場合ニ於テ
 ハ彼ヲ頭長トセズ慈父トシ撫恤ノ友トシテ之ニ近者ノ過チヲ顯ハス
 ヘシ曰ク「若シ人偶過チアラハ爾ト雖ニ感スル者ハ謙遜ノ心ヲ以テ之
 ヲ規正スヘシ且自ラ顧ミルヘシ恐クハ爾モ誘惑セラレシ」(ガラテイヤ
 タス)

福アウグステイン此ヲ説明シテ曰ク「我等ハ先ツ己レノ良心ヲ試ミス
 シテ他人ノ罪ヲ問フヲ作スヘカラス我等ハ我カ兄弟ノ陷リシ罪ハ我
 等自ラ之ヲ作サバリシヤ否チ省ミルヘシ若シ作サレハ我等モ人ナ
 リ陷ルヘキヲ彼レニ同キチ忘ル、勿レ若シ會テ之ヲ作シテ之ヲ存セ
 然我カ一般ノ劣弱ヲ念ビ勸諫ニ隨フニ輕侮ヲ以セスシテ同感同悲ヲ

以テスルヲ爲ス若シ猶今モ其ノ近者ニ責メント欲スル所ノ在弱ニ服
スレハ責ムルヲ爲サスシテ彼レト借ニ慨息シ彼レヲ助メシメツ、自
ラモ罪ヲ除クヲ勉ムヘシ（文集第二道ノ事）
（卷主ノ傳二十章）

三百七「カ」善表儀率

善表儀率ハ其行儀ノ神ノ法ト昭合シ他ヲ感激シテ德行ニ趨往セシム
ヘキ者ヲ云フ日々ノ經驗ハ表率ノ力ノ如何ガ大ナルヲ證ハス或舉動
ノ狀ノ一般ノ風俗ト爲ルアルハ特ニ然ルナリ吁我等ハ凡ソ我等ト共
ニ在ル者ノ眞ニ敬虔ナル行ヲ行フヲ見バ如何ナル發憤ヲ以テ善ニ趨
向セントスルヤ翻テ我等ト共ニ在ル者ノ中唯此世ノ「モ」ニ細綁セ
ラル、程ハ我カ德行ニ趨クノ發憤ヲ減退スル「ト」實ニ我等ハ流ニ從テ
溯游スルカ如ク特ニ幼年ノ期ハ規則ト論訓トヨクモ表率ヲ以テ導カ

ルハモノ多シ聖金口曰ク「無數許多ノ証明ヲ以テスルハ數計ヲ正シト
雖同友中或者ノ一表率ニ由リテ凡多シ引誘セラレハ、ノ神速ナルコト似
サルナリ故ニ他ノ行爲スル所ヲ見ル時ハ更ニ速ニ傾動セラレテ
自ラモ同シ行爲スルナリ」（ガラテヤ、第四章十）
（二節解説）

我等ハ僅ニ德行ノ證據ヲ實踐トニ觀ルヤ凡ソ簡慢ノ入ノ好テ其弊病
ヲ回護セントスルノ托辭ト其ノ難ンズル者トハ實地ニ覆滅セラレン
トス眞ノ德行ハ其性質タル多ク自ラ弱チ固メ懼チ起レ甚ク邪惡ノ人
ニサヘモ暗ニ德行ヲ重ンズルヲ助ムル所以ノ者ヲ有スルナリ小人ノ
讒謗惡言ハ人々實地ノ德行ヲ見ルヤ容易ニ消失スヘシ故ヲ以テ使徒モ
勸メテ曰ク「至愛者ヨ爾等既ニ實族ノ外人ナリ我レ爾ニ勸ム肉ノ慾ノ
靈ヲ攻メテ戰フ者ヲ去シ眞赤ノ入、素下爾等、誘リテ惡ヲ行フ者ト爲ス